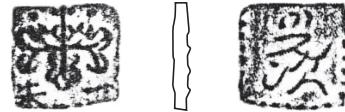


# 大分市埋蔵文化財調査概要報告2010

平成21年度版



中世大友府内町跡第85次調査出土「文政一朱金」

大分市教育委員会

# 序 文

本書は、平成21年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものです。

大友氏遺跡に関連しては、2箇所で大規模な確認調査を実施しました。まず、大友氏館跡の南側に推定されている「御蔵場跡」では、北限と南限の範囲が確かめられるとともに、内部においては、礎盤石をもつ建物が継続的に建てられているが生活関連の遺構がみられないなど、重要な知見を得ることができました。

次に、推定万寿寺跡南側では、寺域の南に推定されていた、「府内古図」に描かれる五重塔の発見はありませんでしたが、幅14mにも及ぶ南北道路跡とそれに沿う町屋跡が確認でき、戦国時代の万寿寺南隣のようすがしだいに明らかになってきました。いずれも、大友氏遺跡の重要な要素をなす施設等の具体的な姿を明らかにするもので、貴重な調査成果となりました。

また、平成20年度に国史跡の指定を受けました横尾貝塚では、指定の記念事業として、大分市歴史資料館における特別展「山ん縄文と海ん縄文－縄文人のムラのかたち－」を実施するとともに、史跡指定地現地ではウォーカラリー形式の体験イベント「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」を開催し、多くの方のご参観・ご参加をいただきました。今後とも、市民の皆さまのご意見をいただきながら、史跡の保存整備を進めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成22年12月28日

大分市教育委員会 教育長 足立 一馬

# 例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成21年4月1日～平成22年3月31日の間に行なった埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。
2. 平成21年度における調査地点は、第2図および第4表に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第5章の受贈図書一覧は、平成21年4月1日～平成22年3月31日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、石川ゆかりによる。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。

井口あけみ、稗田智美、奥村義貴、佐藤孝則、羽田野裕之、上原翔平、廣瀬育子、松木晴美、木村藍子、小野千恵美、佐藤良子、小島愛、倉増美智代、鍋島千恵子、姫野久恵

6. 第3章に掲載した調査報告のうち、平成20年度以前の調査分については、下記の嘱託職員の担当もしくは協力により実施した。

三嶋桂司、山下朋紀、若林善満、山下桂

7. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
8. 本書の編集・構成は、石川、高畠および各調査担当者が行った。
9. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。

# 本文目次

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要	1
1 沿革	1
2 組織	1
3 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）	2
第2章 平成21年度埋蔵文化財発掘調査の概要	3
第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告	7
①大友氏館跡第22次調査（概要）	7
②中世大友府内町跡第86次調査（概要）	8
③中世大友府内町跡第87次調査（概要）	9
④中世大友府内町跡第85次調査（報告）	10
⑤上野大友館跡（上原館跡）第6次調査（報告）	16
⑥下郡遺跡群第144次調査（報告）	20
⑦下郡遺跡群第145次調査（報告）	21
⑧中世大友府内町跡第83次調査（平成20年度確認調査報告）	22
⑨中世大友府内町跡第90次調査（平成20年度確認調査報告）	29
⑩上野遺跡群第11次調査（平成18年度確認・立会調査報告）	35
第4章 平成21年度教育普及活動の成果概要	39
①『戦国時代と大友宗麟－戦国・大分のまち「府内」の姿』展	39
②大友氏遺跡フェスタ2009企画展「戦国時代の世界－大友宗麟とそのライバル達－」	39
③大友氏遺跡フェスタ2009	39
④大分市歴史資料館第28回特別展 横尾貝塚国史跡指定記念特別展	40
⑤横尾貝塚国史跡指定記念講演会「世界的にみた縄文文化と横尾貝塚」	40
⑥横尾貝塚国史跡指定記念イベント「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」	40
⑦海部古墳資料館特別展 タイムトラベラー2009	40
⑧大分市文化財便り2009年度号の発行	41
⑨大友氏遺跡体験学習館 平成21年度の活動	41
第5章 受贈図書目録	43

# 挿図目次

第2章	中世大友府内町跡第86次調査概要
第1図 大分市内地域区分図	第7図 調査位置図
第2図 平成21年度発掘調査位置図	第8図 調査地点北西部空中写真（南東から）
第3図 本書で報告する調査の位置図	第10図 万4SX150土層堆積状況（北西より）
第3章	中世大友府内町跡第87次調査概要
大友氏館跡第22次調査概要	第9図 調査位置図
第4図 調査位置図	第10図 調査区全景空中写真（南から）
第5図 調査区全景（南から）	第11図 塔推定地付近近景空中写真（上が北）
第6図 地業跡土層（西から）	府内城・城下町跡第85次調査

第12図 調査位置図	10	第54図 調査位置詳細図	29
第13図 出土遺構切り合い図・遺構全体図	10	第55図 1～3、7トレンチ平面図・土層図	30
第14図 北壁・西壁土層図	12	第56図 4～6トレンチ平面図・土層図	31
第15図 SK010平面・断面図	12	第57図 出土遺物	32
第16図 SK010完掘状況	12	第58図 4トレンチ南半遺構掘削状況（北西から）	34
第17図 出土遺物	13	第59図 4トレンチSX003（北西から）	34
第18図 近世大溝SD001平面・土層断面図	14	第60図 4トレンチSX002（北西から）	34
第19図 近世大溝SD001土層断面図	14	第61図 2トレンチ遺構検出状況（南東から）	34
第20図 調査区全景（東から）	15	上野遺跡群第11次調査（確認調査・立会調査）報告	
第21図 SD001土層（東から）	15	第62図 調査位置図	35
第22図 SD001土層（西から）	15	第63図 調査位置詳細・検出遺構配置図	35
第23図 SD001遠景（東から）	15	第64図 遺構配置図・柱穴土層断面図・土層模式図	36
第24図 文政一朱金の出土（SD001内）	15	第65図 出土遺物	37
上野大友館（上原館）第8次調査報告		第66図 6/21確認調査時遺構検出状況（北から）	38
第25図 位置図	16	第67図 10/4遺構検出状況（南西から）	38
第26図 調査区詳細位置図	16	第68図 10/4遺構検出状況（北から）	38
第27図 遺構全体図・土層断面図	17	第69図 S-3土師器坏出土状況	38
第28図 調査区土層断面図	18	第4章	
第29図 出土遺物	19	第70図 九州電力大分支店内での展示のようす	39
第30図 完掘状況（南から）	19	第71図 赤レンガ館での展示のようす	39
第31図 調査区北壁	19	第72図 旧跡めぐりのようす	39
第32図 調査区南壁	19	第73図 パネルディスカッションのようす	39
第33図 SK001完掘状況	19	第74図 大分市歴史資料館での展示のようす	40
下郡遺跡群第144次調査報告		第75図 記念講演会のようす	40
第34図 位置図	20	第76図 木こり体験	40
第35図 完掘状況（南から）	20	第77図 海部古墳資料館での展示	41
第36図 遺構配置図	20	第78図 文化財たより2009年度号の内容	41
第37図 土層図	20	第79図 体験館内での活動	41
下郡遺跡群第145次調査報告		第80図 発掘体験	42
第38図 位置図	21	第81図 義統かぼちゃ苗植え祭	42
第39図 完掘状況（西から）	21	第82図 収穫した義統かぼちゃ	42
第40図 遺構配置図	21	第83図 大友氏遺跡体験学習館の外観	42
第41図 土層図	21		
府内城・城下町跡第83次調査確認調査報告			
第42図 位置図	22		
第43図 確認調査トレンチ配置状況と調査成果図	22		
第44図 道路関連トレンチ遺構図	24		
第45図 町屋関連トレンチ配置図	25		
第46図 町83本調査区周辺確認調査トレンチ配置図	25		
第47図 出土遺物	26		
第48図 旧万寿寺南側遺構分布推定図	28		
第49図 27T、7T遺構検出状況（北西から）	28		
第50図 7T道路遺構断面（北から）	28		
第51図 9T遺構検出状況（西から）	28		
第52図 16T、S-18（南から）	28		
府内城・城下町跡第90次調査確認調査報告			
第53図 位置図	29		

## 表目次

第2章	
第1表 平成21年度発掘調査一覧	3
第2表 平成21年度確認調査・立会調査一覧	5
第3章	
第3表 町83確認調査トレンチ一覧	23

# 第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

## 1. 沿革

昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置  
 昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組  
 平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組  
 平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組  
 平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組  
 平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組  
 平成21年4月1日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

## 2. 組織

次長兼課長	玉永光洋	大分市歴史資料館
参事	岩田祐治（～平成22年3月）	参事兼館長 讀岐和夫
課長補佐	塔鼻光司 福田誠一（平成22年4月～）	課長補佐兼副館長 久多羅岐明 武富雅宣
主幹兼文化財普及担当	後藤典幸（～平成22年3月）	主査 廣岡道代（～平成22年3月）
管理係長	筒井和信（平成22年4月～）	安部幹夫
主査	幸俊昭（～平成21年6月）	秋吉えつ子（平成22年4月～）
	桑原治（～平成22年3月）	指導主事 甲斐猛（～平成22年3月）
	栗田博之 渡辺政雄（平成21年7月～）	姫野公徳
	神崎小由美（平成21年7月～）	後藤真治（平成22年4月～）
	斎藤慎悟（平成22年4月～）	長田晋（平成22年4月～）
指導主事	植木和美 小野富広（平成22年4月～）	主任 中西武尚
主任	竹中智美 加藤キヌ（～平成21年6月）	嘱託 古瀬美鈴 大平直子
	永松正大（平成22年4月～）	細井雅希 阿南希依
	宮崎勲 山上洋二郎 麻生重徳	北原洋之 阿部和広
主事	朝川貴俊（平成22年4月～）	高畠葉月（～平成22年4月）
文化財係長	坪根伸也	神志那潔（平成22年5月～）
専門員	池邊千太郎 高畠 豊	久下夕佳里（平成22年4月～）
	河野史郎 塩地潤一	臨時職員
主任	佐藤道文 五十川雄也（平成22年4月～）	
主事	長直信 石川ゆかり	
事務員	松浦憲治（平成22年4月～）	
嘱託	井口あけみ 碑田智美 奥村義貴 佐藤孝則	
	羽田野裕之 上原翔平 仲町憲治 廣瀬育子	
	松木晴美 木村藍子 小野千恵美	
	佐藤良子 小島 愛 倉増美智代	
	三嶋桂司（～平成22年3月）	
	山下朋紀（～平成22年3月）	
	鍋島千恵子（～平成22年3月）	
	姫野久恵（～平成22年3月）	

## 3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

## 文化財課

- (1)文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2)文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3)文化財保護審議会に関すること。
- (4)歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

## 1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成 21 年 4 月 1 日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・名誉教授（会長）	建造物
豊田 寛三	大分大学・教授（副会長）	近世
下村 悟	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学・教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校・准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	大分生物談話会事務局長	植物
渡辺 文雄	別府大学・教授	工芸
段上 達雄	別府大学・教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立三重総合高等学校・教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成 11 年 12 月 15 日条例第 42 号）

（設置）

第1条 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 190 条第 1 項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平 17 条例 13・一部改正）

（組織）

第2条 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第3条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを聞くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求める、説明、又は意見を聞くことができる。

（部会）

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務）

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

## 附則

（施行期日）

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

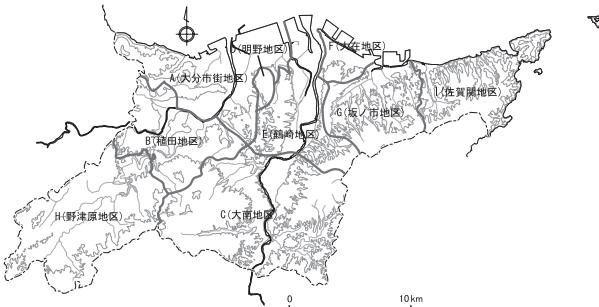
2 大分市文化財調査委員会条例（昭和 51 年大分市条例第 4 号）は廃止する。

附則（平成 17 年条例第 13 号）

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

## 第2章 平成21年度埋蔵文化財発掘調査の概要

平成21年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は21件、合計の調査面積は12964.8m<sup>2</sup>である。このうち、大分市の公共事業によるものが13件8638.4m<sup>2</sup>、国庫補助による市内遺跡確認調査が2件2343.2m<sup>2</sup>、県街路事業に伴う受託事業が1件1604m<sup>2</sup>、民間開発に伴う事業が4件で359.2m<sup>2</sup>であった。市内の地域区分でみると、横尾遺跡140次～142次、猪野遺跡3次が鶴崎地区（地域E）である他はすべて大分地区（地域A）であった。



第1図 大分市内地域区分図

第1表 平成21年度発掘調査一覧

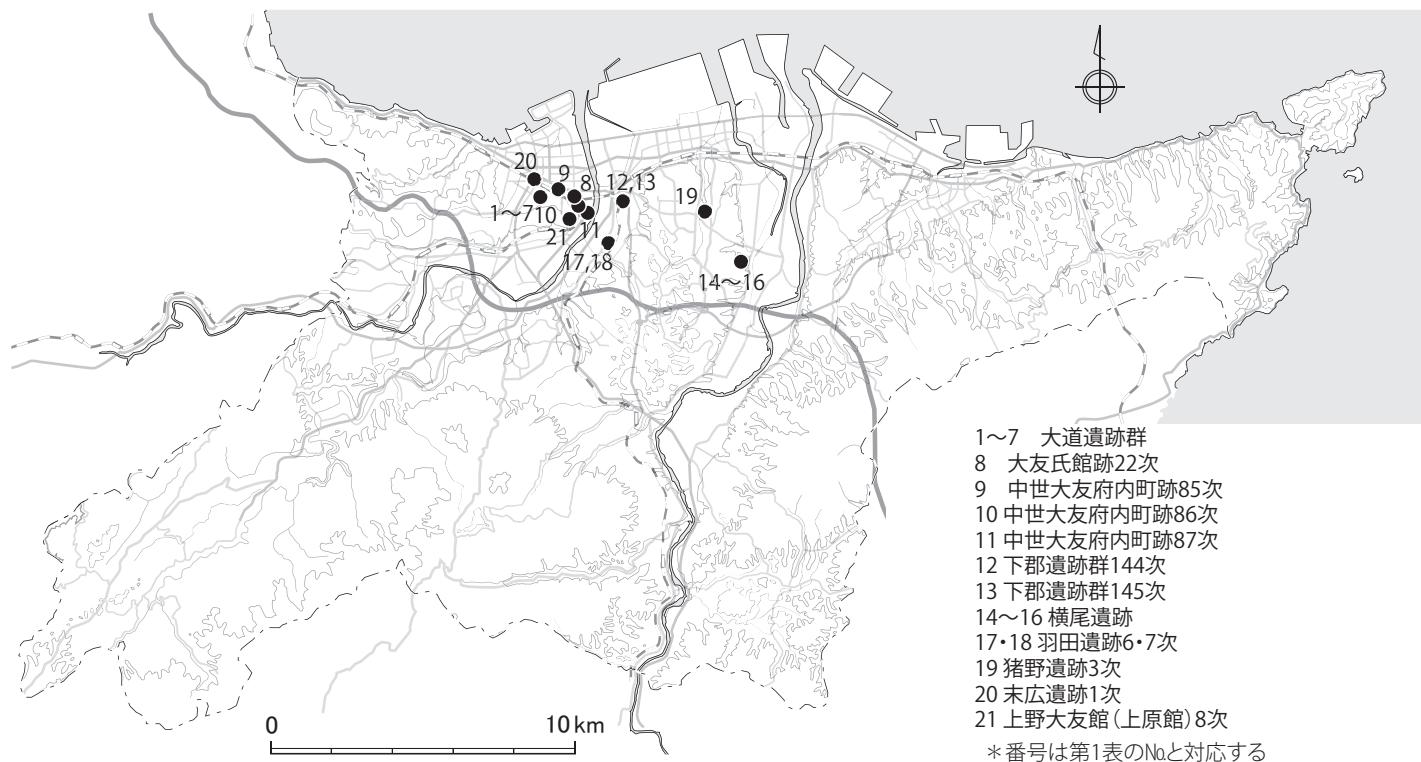
No.	遺跡名	所在地/地域	調査担当	調査原因	調査面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	大道遺跡群31次	金池南1丁目	佐藤山下	大分駅南土地区画整理事業	1119.1	090618～090831	古代の大溝、井戸および掘立柱建物が検出され、井戸からは木製櫛が出土。古墳時代の方形堅穴建物も検出された。	平成24年度以降
		A						
2	大道遺跡群32次	東大道1丁目	佐藤山下	大分駅南土地区画整理事業	954.4	091008～091211	大道20次・23次で確認されている古墳時代前期の溝状造構の延長部が確認され、溝の北東側で当該期の土坑が検出された。当該期集落は溝北東側に存在すると考えられる。	平成22年度
		A						
3	大道遺跡群33次	桜ヶ丘	山下佐藤	大分駅南土地区画整理事業	472.6	090902～090930	26次調査区からの延長である南北方向に延びる自然流路跡を検出し、古代に埋積したことが確認された。	平成24年度以降
		A						
4	大道遺跡群34次	東大道1丁目	永松	大分駅南土地区画整理事業	430.6	100204～100316	弥生時代後期前葉の土器が多量に出土した廃棄土坑のほか、近世～明治期の溝、溜井造構が検出された	平成24年度以降
		A						
5	大道遺跡群35次	東大道1丁目	永松	大分駅南土地区画整理事業	353.8	100204～100316	近世～明治期の溝、近世の大型土坑が検出された	平成24年度以降
		A						
6	大道遺跡群36次	金池南1丁目	永松	大分駅南土地区画整理事業	160.3	100204～100316	28次から31次調査区へ繋く古代大溝のほか、中世以降と推定される掘立柱建物を検出。	平成24年度以降
		A						
7	大道遺跡群37次	金池南1丁目	永松	大分駅南土地区画整理事業	352.8	100221～100316	近世溜井、大型土坑を検出。	平成24年度以降
		A						
8	大友氏館跡22次	六坊北町	五十川	市内重要遺跡確認調査	204.2	091001～091226	大友館東側ラインに関連する遺構の可能性がある、16世紀後半段階の硬化層と掘り込み地業跡が検出された。	平成22年度（概報）
		A						
9	中世大友府内町跡85次	顯徳町2丁目	長佐藤上原	集合住宅建設	38	090513～090515	江戸時代後半の東西方向の大溝（SD005）と、奈良・平安時代のピットや土坑を検出した。大溝からは、「文政一朱金」が出土。	本書所収
		A						
10	中世大友府内町跡86次	六坊北町	五十川長	市内重要遺跡確認調査	2139	091001～091226	16世紀後半～末にかけて礎盤石をもつ建物が展開すること、生活空間でないことが確認され、「御蔵場」内部と推定される。	平成22年度（概報）
		A						
11	中世大友府内町跡87次	大字大分	長高畠	街路建設（庄ノ原佐野線）	1604	100202～100330	万寿寺南側では府内古図にみられる五重塔が確認されず、南北道路と共に伴う町屋関連造構が確認された。	平成22年度
		A						

No.	遺跡名	所在地/地域	調査担当	調査原因	調査面積	調査期間	調査内容	報告予定
12	下郡遺跡群144次	下郡北3丁目	河野上原	集合住宅建設	8	100119	整地層上面から掘り込まれた古代と推定される柱穴及び小土坑等が確認された。	本書所収
		A						
13	下郡遺跡群145次	下郡北3丁目	河野上原	集合住宅建設	15	100218	字境に伴う近世溝を検出。	本書所収
		A						
14	横尾140次	大字横尾	五十川	横尾土地区画整理事業	110	090527～090529	弥生後期土坑、ピット等。	平成22年度
		E						
15	横尾141次	大字横尾	塩地	横尾土地区画整理事業	369.6	100110～100330	9世紀後半頃に比定される庇付きの掘立柱建物跡、16世紀代の溝状遺構を確認。	平成22年度
		E						
16	横尾142次	大字横尾	塩地	横尾土地区画整理事業	2314.8	100110～100330	横尾遺跡の台地上で初めて、遺構に伴う形で縄文晩期の深鉢や姫島産黒曜石製の剥片が出土。弥生後期前葉～後葉頃の祭祀関連遺構を含む環濠集落跡、7世紀代の竪穴遺構等の遺構群も確認。	平成22年度
		E						
17	羽田遺跡6次	大字羽田	五十川長	街路建設(下郡羽田線)	1214.7	090601～090930	7地点の調査。弥生後期、古墳時代後期および中世の集落跡等を検出。中世後半期では、備前焼甕を使用した墓を確認した。	平成23年度
		A						
18	羽田遺跡7次	大字羽田	五十川	街路建設(下郡羽田線)	675.2	091116～100311	8地点の調査で、弥生後期～終末期の環濠集落跡、古墳時代前期の集落、古代の道路遺構、中世前期の区画溝等が検出された。	平成23年度
		A						
19	猪野遺跡3次	大字猪野	永松	集合住宅建設	292.8	090721～090817	弥生中期～後期の住居跡・土坑、中世の掘立柱建物跡等が検出された。	平成22年3月31日
		E						
20	末広遺跡1次	末広町	河野	街路建設(末広東大道線)	110.5	100308～100330	府内城の外堀につながる川または水路と考えられる、江戸時代末期に埋積した大型遺構が確認された。	平成22年度
		A						
21	上野大友館(上原館)6次	上野丘西	佐藤上原	集合住宅建設	25.4	091118～091120	中世整地層 古代土坑	本書所収
		A						

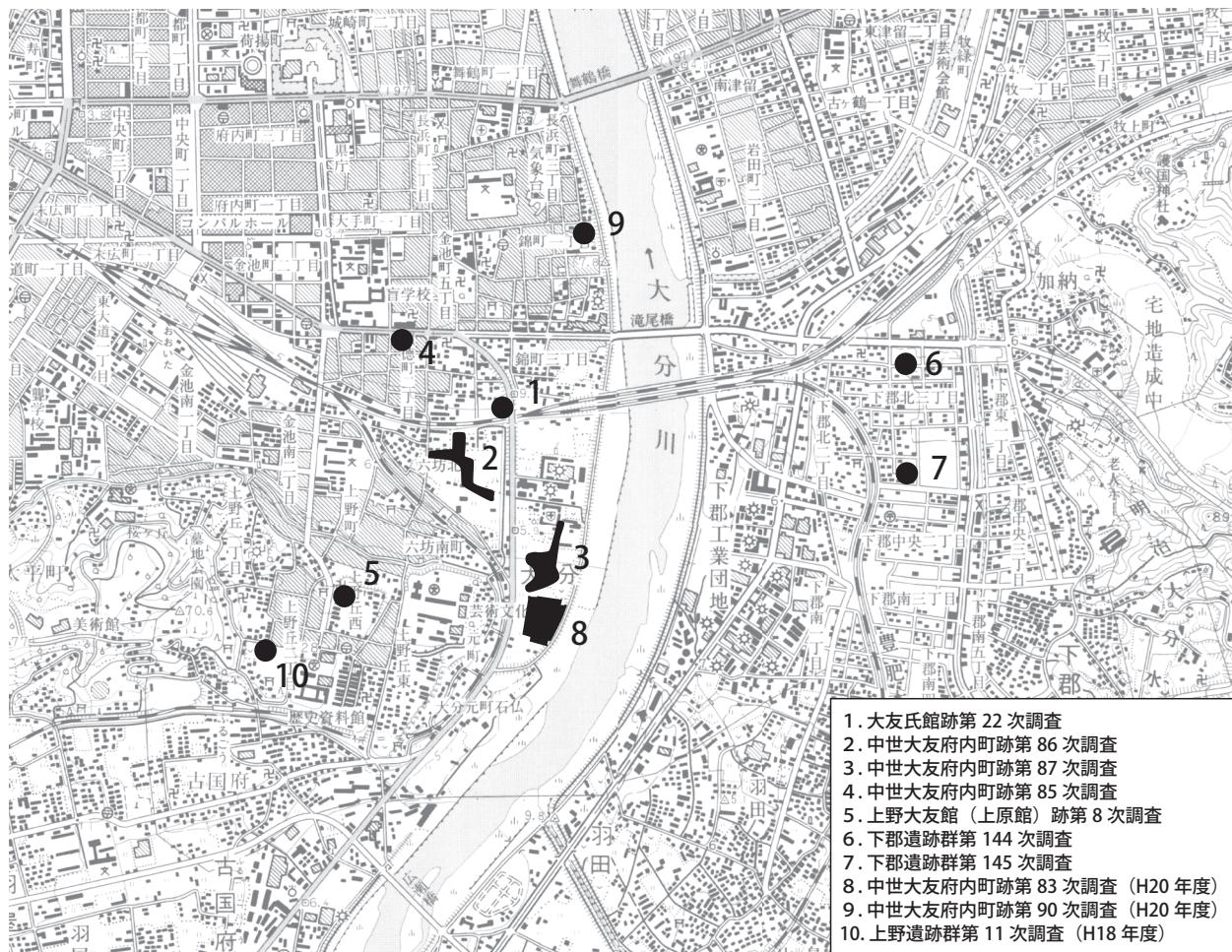
一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は122件であった。試掘・確認調査が44件、立会調査が68件である。試掘・確認調査では19件43%が公共事業に伴うものであるが、特に横尾地区においては、区画整理事業に伴う調査必要範囲の決定を目的とした確認調査を2度にわたって大規模に行っている。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、開発件数の集中を反映して大分地区（地域A）が70件63%と全体の約3分の2を占めるが、横尾区画整理地区を含み、中小規模の民間開発も多い鶴崎地区（地域E）も19件17%に達し、次いで13件12%の種田地区（地域B）、8件7%の坂ノ市地区となっている。

第2表 平成21年度確認調査・立会調査一覧

No	調査番号	調査種別	遺跡名	調査日	所在地	地域	調査原因	事業種別	調査面積	担当者	遺跡有無	措置
1	09001	立会	葛木遺跡	平成21年4月3日	大字葛木字志手ノ上 722-7	E	個人住宅	民間	2 河野 長		有り	工事着工
2	09002	立会	羽田遺跡	平成21年4月9日	大字羽田字横田720番 5	A	個人住宅(浄化槽)	民間	3 長 上原		無し	工事着工
3	09007	確認	野田遺跡	平成21年4月14日	大字野田字原 810-1 他 8筆	B	宅地造成	民間	637 長 上原		有り	協議中
4	09003	立会	羽田遺跡	平成21年4月16日	大字羽田字下津留1026番 1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	24 河野 羽田野		無し	工事着工
5	09097	立会	勢家遺跡	平成21年4月16日	勢家町	A	寺院増築	民間	24 河野 羽田野		無し	工事着工
6	09096	確認	櫛尾遺跡	平成21年4月23・24日	大字横尾	E	横尾区画整理	公共	20 五十川 上原		有り	本調査
7	09006	確認	中世大友府内町跡	平成21年4月27日	顯徳町 2丁目 3167-4 3167-5	A	集合住宅	民間	20 長 上原		有り	本調査
8	09005	立会	羽田遺跡	平成21年4月27日	大字羽田字産ノ木 932-9	A	個人住宅	民間	47 長 上原		無し	工事着工
9	09004	立会	玉沢地区条里跡	平成21年4月30日	大字木上字石田116-1番地の1	B	宅地造成	民間	14 河野		無し	工事着工
10	09098	確認	羽田遺跡	平成21年5月8・9・12日	大字羽田	A	道路	公共	100 長 上原		有り	本調査
11	09008	立会	古国府遺跡群	平成21年5月21日	大字羽星二ノ坪1番 1	A	個人住宅	民間	15 河野		無し	工事着工
12	09088	確認	古国府遺跡群	平成21年5月22日	大字古国府字河原923番他 12筆	A	老人ホーム	民間	20 長 上原		無し	工事着工
13	09011	立会	羽田遺跡	平成21年6月21日	大字羽田字934番地の2	A	その他建物(広告塔)	民間	91 河野		無し	協議中
14	09089	確認	古国府遺跡群	平成21年5月28日	大字羽星字逸ヶ37番 7	A	集合住宅	民間	10 長 上原		有り	協議中
15	09014	確認	猪野遺跡	平成21年6月8日	大字猪野字猪野原1269-1他	E	集合住宅	民間	277 長 上原		有り	協議中
16	09009	立会	米竹遺跡	平成21年6月8・16日	千歳地先	E	ガスなど	民間	943 河野 羽田野		有り	工事着工
17	09010	立会	津守遺跡	平成21年6月18日	大字津守字峰元722番 5	A	個人住宅(浄化槽)	民間	28 長 上原		有り	工事着工
18		確認	大瀬遺跡群	平成21年6月23日	桜ヶ丘	A	駿南区画整理	公共	60 佐藤道		無し	工事着工
19	09012	確認	米竹遺跡	平成21年6月24日	大字千歳字米竹1757番	E	集合住宅	民間	69 長 上原		有り	協議中
20	09013	立会	羽田遺跡	平成21年6月26日	大字万葉敷田679番 1	A	集合住宅(浄化槽)	民間	18 長 上原		無し	工事着工
21	09015	確認	猪野遺跡	平成21年7月4日	大字猪野字猪野原1251他	E	店舗	民間	445 長 上原		有り	協議中
22	09016	立会	羽田遺跡	平成21年7月8日	大字羽田字栗ノ木 584-1	A	集合住宅	民間	158 河野 上原		有り	工事着工
23	09017	立会	羽田遺跡	平成21年7月9日	大字羽田字栗ノ木 585-1	A	集合住宅(寮)	民間	175 河野 上原		有り	工事着工
24	09018	立会	下郡遺跡群	平成21年7月14日	下郡東丁目 139-2	A	集合住宅(寮)	民間	4 河野 上原		無し	工事着工
25	09019	立会	羽田遺跡	平成21年7月17日	大字羽田字下津留 1026-1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	31 河野 上原		無し	工事着工
26	09020	立会	古国府遺跡群	平成21年7月21日	大字羽星字逸ヶ37番 7	A	集合住宅(浄化槽)	民間	163 河野 上原		有り	工事着工
27	09021	確認	丹生川坂ノ市条里跡	平成21年7月22日	坂ノ市146番地	G	学校建設	公共	101 河野 羽田野		有り	協議中
28	09028	立会	玉沢地区条里跡	平成21年7月22・23日	大字市字宇井1137番地	B	宅地造成	民間	6 奥村 佐藤		有り	工事着工
29	09022	確認	賀来西遺跡	平成21年7月23日	大字賀来字井ノ口 3864-2	B	店舗	民間	6 河野 上原		無し	協議中
30	09023	確認	古国府遺跡群	平成21年7月29日	奥田 772-1	A	学校建設	公共	203 河野 上原		有り	協議中
31	09024	立会	羽田遺跡	平成21年7月30日	大字羽田字下津留 986-1 986-7	A	個人住宅(浄化槽)	民間	45 河野 上原		無し	工事着工
32	09025	確認	内城・城下町	平成21年8月4日	荷揚町 3番荷揚町小学校地内	A	学校建設	公共	6 河野 羽田野		有り	協議中
33	09090	確認	賀来中学校遺跡	平成21年8月10日	賀来80 番地幼稚園内	B	学校建設	公共	44 羽田野 上原		無し	協議中
34	09099	立会	古国府遺跡群	平成21年8月10日	大字奥田 686-1	A	その他開発(解体工事)	民間	羽田野		無し	工事着工
35	09091	確認	豊後国分寺	平成21年8月12日	大字国分字屋敷1076番地	B	個人住宅	民間	08 河野 羽田野 上原		有り	工事着工
36	09026	立会	中世大友府内町跡	平成21年8月18日	金池町丁目3239番 3	A	個人住宅	民間	6 上原		無し	工事着工
37	09030	確認	岩屋遺跡	平成21年8月18日	羽田14-1-13	A	学校建設	公共	38 河野 羽田野		無し	協議中
38	09027	立会	猪野遺跡	平成21年8月18日	大字猪野字馬場108-1外8筆	E	宅地造成	民間	河野 羽田野		無し	工事着工
39	09029	確認	津守遺跡	平成21年8月20日	大字津守字下田1458番 1	A	集合住宅	民間	河野 上原		無し	協議中
40	09031	確認	久原遺跡	平成21年8月24日	久原中央2丁目207番	G	集合住宅	民間	138 河野 上原 羽田野		有り	理士保存
41	09032	立会	内城・城下町	平成21年8月31日	府内町3丁目15	A	その他開発(解体工事)	民間	8 河野 上原		無し	工事着工
42	09033	立会	津守遺跡	平成21年9月2日	大字津守字峰元114番 1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	4 河野 上原		無し	工事着工
43	09034	確認	下郡遺跡群	平成21年9月4日	下郡北丁目453番	A	集合住宅	民間	8 河野 上原		無し	工事着工
44	09035	立会	政所遺跡	平成21年9月4日	横田 2丁目11番45号	G	その他建物(立体駐車場)	民間	16 河野 上原		無し	工事着工
45	09036	確認	玉沢地区条里跡	平成21年9月10日	大字上字方字掘六反349番 1	B	集合住宅	民間	16 河野 上原		有り	協議中
46	09037	立会	猪野遺跡	平成21年9月11日	大字猪野1251他	E	店舗	民間	20 河野 上原		有り	工事着工
47	09038	立会	佐柳遺跡	平成21年9月14日	中戸次字佐柳192-1	C	個人住宅	民間	2 河野 上原		無し	工事着工
48	09039	立会	羽田遺跡	平成21年9月15日	大字羽田字下津留 986-1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	38 河野 上原		無し	工事着工
49	09041	立会	古国府遺跡群	平成21年9月16日	大字羽星字七曹 117-1	A	集合住宅	民間	10 河野		無し	工事着工
50	09040	立会	津守遺跡	平成21年9月18日	大字津守字木ノ下 952-1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	38 河野 上原		有り	工事着工
51	09043	立会	中世大友府内町跡	平成21年9月30日	錦町 2丁目3357番 2	A	個人住宅(鋼管杭)	民間	15 河野 上原		無し	工事着工
52	09042	確認	羽田遺跡	平成21年10月1日	大字羽田	A	道路	公共	16 長 上原		有り	本調査
53	09044	立会	中世大友府内町跡	平成21年10月1日	六坊北町4298番 2	A	その他開発	民間	03 河野		無し	工事着工
54	09045	立会	古国府遺跡群	平成21年10月13日	大字羽星字八反田942番他 4他	A	個人住宅	民間	6 佐藤 羽田野		無し	工事着工
55	09047	立会	中世大友府内町跡	平成21年10月13日	錦町 3丁目 4349番 1	A	個人住宅(浄化槽)	民間	3 河野 上原		無し	工事着工
56	09046	試掘	府内城・城下町	平成21年10月15日	金池町 3丁目 (歩道公園内)	A	道路	公共	8 河野 佐藤 羽田野 上原		無し	工事着工
57	09052	立会	玉沢地区条里跡	平成21年10月16日	大字方字五方字反515反3他 3他	B	個人住宅	民間	4 河野		無し	工事着工
58	09060	立会	玉沢地区条里跡	平成21年10月16日	大字上宗方字掘六反349番 1	B	集合住宅(柱状改良)	民間	水松		無し	工事着工
59	09053	立会	羽田遺跡	平成21年10月27日	羽田 2-1 B組	A	その他開発(水道管)	民間	52 高畠 羽田野		無し	工事着工
60	09048	確認	羽田遺跡	平成21年10月27日	大字羽田 921-1	A	道路	公共	12 河野 上原		無し	工事着工
61	09050	立会	飛鳥横穴墓群	平成21年10月28日	大字東上字野百合24873の1部	G	その他開発(無線塔)	民間	128 河野 上原		無し	工事着工
62	09049	立会	野田遺跡	平成21年10月28日	大字野田字原121番 1	B	個人住宅(浄化槽)	民間	33 河野 羽田野		無し	工事着工
63	09051	立会	丹生川・坂ノ市条里跡	平成21年10月30日	大字丹川字指 1266	G	個人住宅(浄化槽)	民間	10 河野		無し	工事着工
64	09054	立会	古国府遺跡群	平成21年11月4日	大字羽星字八幡前902-2	A	個人住宅(浄化槽)	民間	33 河野 上原		有り	工事着工
65	09055	立会	下郡遺跡群	平成21年11月6日	下郡南3丁目138番	A	個人住宅(浄化槽)	民間	38 河野 上原		有り	工事着工
66	09066	立会	葛木遺跡	平成21年11月6日	大字葛木字原1390番 1, 2	E	個人住宅(浄化槽)	民間	5 河野 佐藤 上原 石川		無し	工事着工
67	09057	立会	中世大友府内町跡	平成21年11月12日	錦町 1丁目 3312番 4	A	個人住宅(鋼管杭)	民間	6 河野		無し	工事着工
68	09058	立会	府内城・城下町	平成21年11月16日	荷揚町 21番・22番	A	その他開発(駐車場)	公共	6 河野		無し	協議中
69	09059	立会	下郡遺跡群	平成21年11月17日	下郡南3丁目	A	個人住宅	民間	46 河野		有り	工事着工
70	09061	立会	羽田遺跡	平成21年11月18日	大字羽田字原 106-1	A	個人住宅	民間	29 高畠 永松		有り	工事着工
71	09100	確認	上野大友館跡	平成21年11月18・20日	上野丘西369番 2	A	集合住宅	民間	20 佐藤 上原		有り	埋土保存
72	09062	確認	大瀬遺跡群	平成21年11月18・21日	大東道1丁目	E	横尾区画整理	公共	420 五十川		有り	本調査
73	09101	立会	古国府遺跡群	平成21年11月19日	大字奥田字下坂遊796番	A	駿南区画整理	民間	18 河野 羽田野		有り	本調査
74	09102	立会	羽田遺跡	平成21年11月19日	大字羽田字原 106-1ほか	A	個人住宅(浄化槽)	民間	河野		無し	工事着工
75	09063	立会	上野大友館跡	平成21年12月7日	上野丘西369番 2	A	集合住宅	民間	6 河野 上原		無し	工事着工
76	09064	立会	羽田遺跡	平成21年12月8日	大字羽田1046-1-ほか	A	個人住宅(浄化槽)	民間	39 羽田野 上原		無し	工事着工
77	09065	確認	下郡遺跡群	平成21年12月14日	下郡北丁目276番 1	A	集合住宅	民間	45 河野 上原		有り	協議中
78	09102	立会	猪野遺跡	平成21年12月14日	大字猪野字西原1114番 2	E	個人住宅(柱状改良)	民間	6 河野		無し	工事着工
79	09103	確認	大瀬遺跡群	平成21年12月15日	金池南	A	駿南区画整理	公共	642 河野 羽田野 上原		有り	本調査
80	09066	立会	中世大友府内町跡	平成21年12月16日	錦町 1丁目 12-15	A	個人住宅	民間	6 河野 上原		無し	協議中
81	09069	確認	下郡遺跡群	平成21年12月17日	下郡南3丁目128番 2	A	集合住宅	民間	10 河野 上原		有り	本調査
82	09068	確認	古国府遺跡群	平成21年12月21日	大字羽星字太田151番 1	A	店舗(病院)	民間	6 河野 上原		無し	工事着工
83	09067	立会	上松岡	平成21年12月22日	大字松岡407番地	E	学校建設	公共	3 河野 上原		無し	工事着工
84	09070	確認	古国府遺跡群	平成22年1月5日	大分市大字古国府字宮の前586番 2	A	集合住宅	民間	564 羽田野 上原		有り	理士保存
85	09071	立会	古国府遺跡群	平成22年1月6日	大分市大字羽星字柿223番 3	A	個人住宅(基礎工事)	民間	6 河野		無し	工事着工
86	09072</td											



第2図 平成21年度発掘調査位置図 (1/250000)



第3図 本書で報告する調査の位置図 (1/25000)

# 大友氏館跡第22次調査概要

調査面積

地域

198.2m<sup>2</sup> 調査期間 09.10.01 ~ 09.12.26

A 調査担当 五十川雄也

調査区は、大友氏館跡の南東部にあたる。今回の調査目的は大友館東側の外郭ラインの様相を把握することである。調査面積は約200m<sup>2</sup>。調査区の西側は大友館1次（庭園跡等）・12次（礎盤石をもつ建物跡・井戸跡・連続土坑（植栽痕？））調査区、東側は町52次（区画溝跡・第2南北街路跡）調査区である。館22次調査区の大半は攪乱による削平をうけており、遺構の残存状況は良好ではない。遺構検出面は、地表から約1.5m下である。

16世紀代の遺構は、包含層・ピット・土坑状遺構・掘り込み地業跡・硬化層（整地）等を検出、出土遺物は京都系土師器・漳州窯系青花などで出土量は少ない。14世紀後半から15世紀代の遺構は包含層・ピット・廃棄土坑などを検出、出土遺物は在地系かわらけ坏皿・石鍋片などで廃棄土坑などから多く出土している。

調査目的とした館東側の外郭ラインについては、攪乱の影響も大きく、他地点の外郭ラインの様相（溝状遺構や積土遺構など）は確認できなかった。しかしながら、16世紀後半階の硬化層と掘り込み地業跡は大友館東側外郭ラインに関連する遺構の可能性があり、土壙もしくは土壙状構築物の基礎地業跡の可能性がある。  
[館22次調査区の時期別土地利用]

14世紀後半～15世紀

→廃棄土坑など展開。

15世紀代

→廃棄土坑空間（調査区南東部）

建物空間（調査区南東部を除く。館12次調査で検出された建物跡と関連する可能性大きい。）

16世紀前半

→遺構はほとんどない。空閑地もしくは土壙などの区画施設が存在し、後に改変された可能性が考えられる。

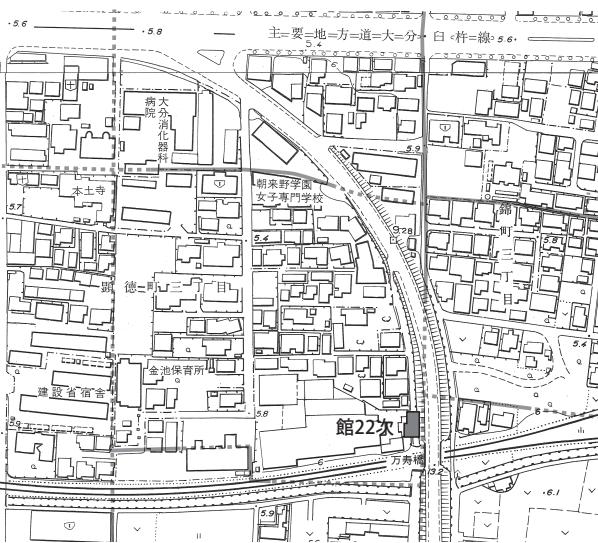
16世紀後半

→地業跡が確認され、土壙もしくは土壙状の区画施設が存在した（推定天正14年以前）可能性がある。

16世紀末

→町屋などの建物空間。  
(推定天正14年以降)

(五十川雄也)



第4図 調査位置図 (1/5000)



第5図 調査区全景 (上が西)



第6図 地業跡土層 (西から)

## 中世大友府内町跡第86次調査概要

調査面積

2139m<sup>2</sup>

地域

調査期間 09.10.05 ~ 09.12.26

A 調査担当 五十川雄也・長 直信

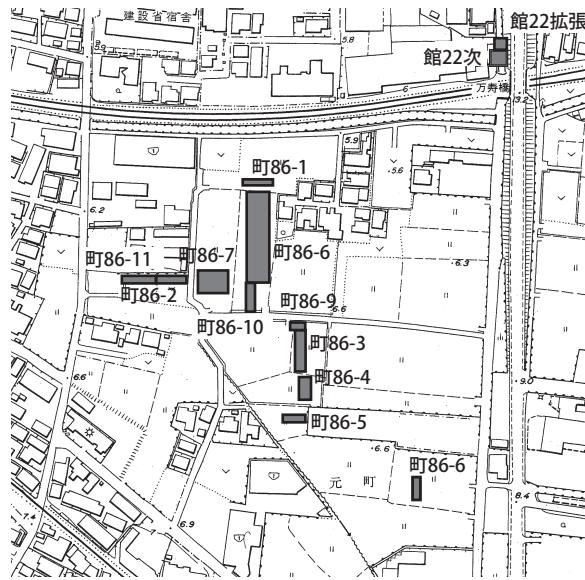
今回の調査は、「府内古図」に描かれた「御蔵場跡」に関連する16世紀後半～末の遺構の性格を確認することを目的に、調査を行った。1581年～1586年頃の府内を描いたと推定されている「府内古図」は現在12枚ほどが確認されており、これらは図中に記載された施設の有無などから、A類～C類の3つに分類される。推定御蔵場跡とは、C類古図の中で、三方が白壁で囲まれ、中に「御蔵場」「大友御蔵場」「蔵場」などと表記されている地点をさす。この御蔵場は、大友館の南、万寿寺の西に位置し、「府内古図」から想定した「戦国時代の府内復原想定図」によると5haに及ぶ広大な敷地にあたる。調査は、2ヵ年を予定しており、今回は、①北外郭の確認。②西外郭の確認。③南外郭の確認。④内部の様相の確認を目的に8地点（町86-1～8）を調査した。

結果として、①北外郭を確認、②西側は設定した調査区内では確認できず、さらに西に存在する可能性高い。③南は、現農道直下の存在している可能性が高く今回の調査では確認できなかった。④内部は、16世紀後半～末にかけて2または3時期にわたって礎盤石をもつ建物が展開する。この時期には焼けた壁土が大量に出土する土坑が検出されることから、内部には壁土を用いた建物が存在したと推測される。また、推定御蔵場内部と考えられる東西幅15m（6区）、20m（7区）の調査区内では、16世紀後半～末段階の大型の井戸跡や日用雑器を廃棄した土坑（ゴミ穴）は見つかっておらず、生活空間としての利用は現時点で確認できない。また、かわらけの大量廃棄土坑や区画溝なども確認できず、土地を区割りした様子もない。これまでの調査事例からみて、「町屋」や「武家屋敷」のような性格とは異なる空間であると考えられる。概要を以下に記す。

北側：町86-1区において、町5次で検出された推定外郭施設の一部である南北溝（町5SD101）の延長を確認。東側へ伸びていくことがわかった。南側：町86-3・4・5区、飛んで8区と長くあけたが、4・5区は井戸や廃棄土坑、ピット群の時期・性格から、16世紀後半の町屋である「ノコギリ町」の一角であると判断。3区は南側の一部までは井戸・廃棄土坑が存在し、同様に町屋の一角と判断した。西側：町86-2・7区は、南北方向に走る現在の農道が区画の名残ではないかという仮定のもと道路の東西を調査したが、溝などの区画は確認できない。内部：町86-6区北半分においては集石、礎盤石をもつ建物遺構。井戸や生活臭のある廃棄土坑がない。焼土の入ったピットは、6区北側では非常に多い。

推定御蔵場跡の調査は、2ヵ年目の調査として今年度に追加調査を行っており、詳細については、次年に報告する。

（長 直信）



第7図 調査位置図 (1/5000)



第8図 調査地点北西部空中写真 (南東から)

## 中世大友府内町跡第87次調査概要

調査面積

1604m<sup>2</sup>

地域

調査期間 10.02.02 ~ 10.03.30

A

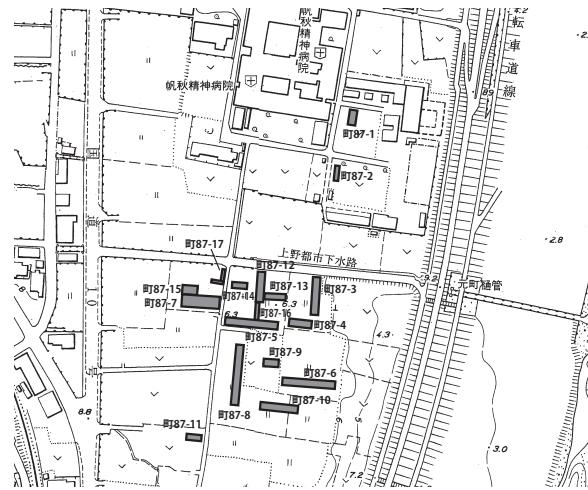
調査担当 長 直信・高畠 豊

今回の調査は、戦国時代の大友氏の城下町（豊後府内）を描いたといわれる「府内古図」に描かれた五重塔の確認を主目的として15本のトレントを、万寿寺境内内部に2本のトレントを設定し調査を行った。

結果として、

- ①万寿寺から南北方向に延びる最大幅14mの道路を確認（道路に併行して柵列などの遮蔽施設は確認できない）
  - ②道路の東西には前面に柱穴の列、奥には大型の遺構（井戸やゴミ穴）が確認され、付近は、「町屋」的景観であったことが判明。
  - ③塔跡に付随するような土壇跡や基礎となる土木作業痕跡は確認できず、調査範囲内では五重塔が建立されていた痕跡は確認できなかった。
  - ④万寿寺に最も近い南北道路の東側部分（5～12トレント）の東西40m・南北40mの一角は、周囲と比較して柱穴や大型の遺構が極めて少なく、戦国時代の万寿寺が建っていた頃（16世紀後半）は空閑地であった可能性が高い。
  - ⑤空閑地は、16世紀末頃（天正14年の島津侵攻後か）に石塔を再利用した石組遺構や、瓦が多く出土する大型の遺構が展開する。
- 以上のことことが判明した。なお、主な出土遺物として14・15世紀代の陶磁器、16世紀後半の遺構中より12～13世紀頃の高麗青磁「墩」と呼ばれる稀少品、五輪塔の他、14世紀～16世紀代の瓦や壇が多く出土した他、「鉄釜」と推定される鉄製容器が出土している。なお、瓦や壇はこれまでの万寿寺周辺の調査でも出土しており、万寿寺にほど近い調査地付近には、五重塔などの大型多層建造物とは異なる寺院関連施設があった可能性がある。

（長 直信）



第9図 調査位置図 (1/5000)



第10図 調査区全景空中写真 (南から)



第11図 塔推定地付近近景空中写真 (上が北)

# 中世大友府内町跡第85次調査報告

調査面積

38m<sup>2</sup>

調査期間 09.05.14 ~ 09.05.15

地域

A

調査担当 佐藤道文・長 直信・上原翔平

## 1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

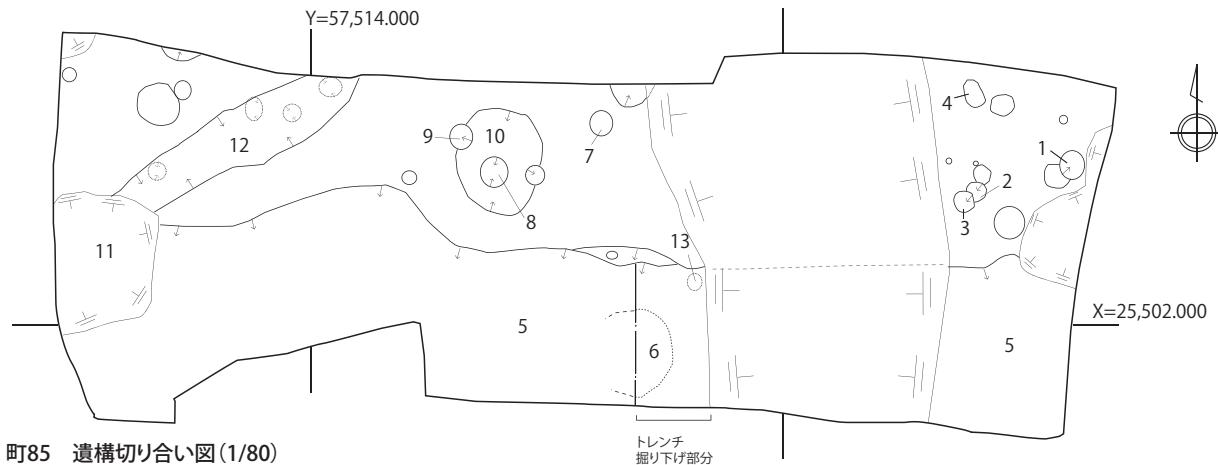
中世大友府内町跡第85次調査は、集合住宅の建設に伴って行われた。平成21年4月文化財保護法第93条が友岡新市氏より届出され、遺跡に影響する部分38m<sup>2</sup>を対象に、5月14日から5月15日に本調査を実施した。調査地点は、中世大友府内町跡の「中町」の裏手に位置し、戦国期の遺構の展開が想定されていたが、調査の結果、16世紀代遺構は確認できず、江戸時代後半の東西方向の大溝（SD005）と、奈良～平安時代のピットや土坑を検出した。

## 2. 基本層序（第14図）

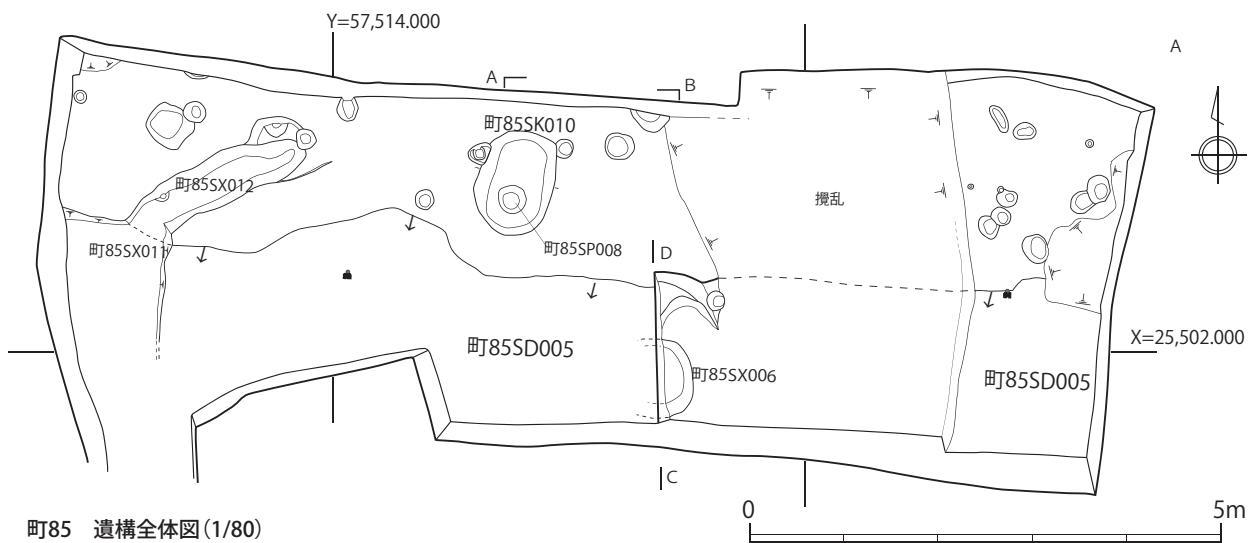
近代以降に盛土された層を除去すると、水田層である暗灰粘質土や茶褐色土が全面で確認される。この層



第12図 調査位置図 (1/5000)



町85 遺構切り合い図 (1/80)



第13図 出土遺構切り合い図・遺構全体図 (1/80)

を除去すると遺構面が確認できる。地山である黄灰色シルト質土の上には茶灰色土が堆積するが、この層が人工的な層であるかは確認できなかった。

### 3. 主要遺構

#### ■土坑

町85SK010（第15図）

調査区中央西側で検出した東西1.14m、南北0.8m、深さ0.3mを測る楕円形状の遺構。壁面は比較的垂直気味に立ちあがり底面はほぼ平らである。最終埋没土の暗茶灰色土には黄色ブロックを多く含むことから人為的に埋められた可能性がある。出土遺物は非常に少ないが、8世紀後半から末に埋没したと考えられる。

#### ■溝

町85SD005（第13・14・18・19図）

調査区南半分で検出した東西方向の大溝。試掘時に設定した南北トレンチでもほぼ全面で検出され（第18図）、南北4.7m以上となる。また、深いところでは2.0m以上を測り、溝の最下面と想定される部分から南に折り返すと、南北10m近い幅の溝となる。試掘で18世紀代の陶磁器が確認できていたので、本調査では完掘は行わず北側のプランを確認した後、一部にトレンチを入れるに留めた。トレンチは、堆積状況および各層位毎による遺物の確認を目的に、SD005を東西に分断する大型の攪乱の西側に設定し掘り下げをおこなった。結果、SD005が掘削され、埋没した後にSX006とした遺構が掘削されていたことが判明。その後、このSX006を切ってSD005を踏襲する土層堆積が確認されており、SD005はSX006の形成を前後して、2時期の溝が存在したと想定される。なお、SX006の埋没後はやや粘質の強い「茶灰色土」→砂質の「暗灰茶色土」→砂質の「灰茶色土」の順に堆積しており、一時期に溝内が流水状況であったことがうかがえる。18世紀後半から19世紀頃の遺物の小片が少量出土している。最上層では近世の陶磁器類に混じって「一朱金」とよばれる江戸時代の金貨が出土した。

#### ■その他の遺構

町85SX006

SD005の堆積土除去後に検出した直径0.9mほどに復元できる円形遺構。上部が掘り返し土で削平されるが、深さ0.4m分が残る。上層の「明茶褐色土」には橙色のブロック土が多く含まれており、一度に埋戻されたと考えられる。遺構の性格として一定の深さをもつことから井戸の可能性を考えたが、トレンチ部分では井戸枠の痕跡は確認できず、性格は不明である。遺物は出土していない。

#### ■ その他のピット

町85SP008：SK010を切るピット。土師器坏Dの口縁部片が出土した。

町85SX011：SX012とSD005を切る攪乱。近世の陶器片が出土。

町85SX012：南西～北東方向に延びる長楕円形状の遺構。18世紀代の遺物が少量出土。

その他の遺構としてSD005の北側にはピットが散在する。柱痕は確認できなかったが、どのピットも比較的深さをもち、深いもので0.6mを測るものもある。これらのピットから出土する遺物はミガキをもつ土師器類が多く8世紀中頃～9世紀前半代の遺構であると考えられる。

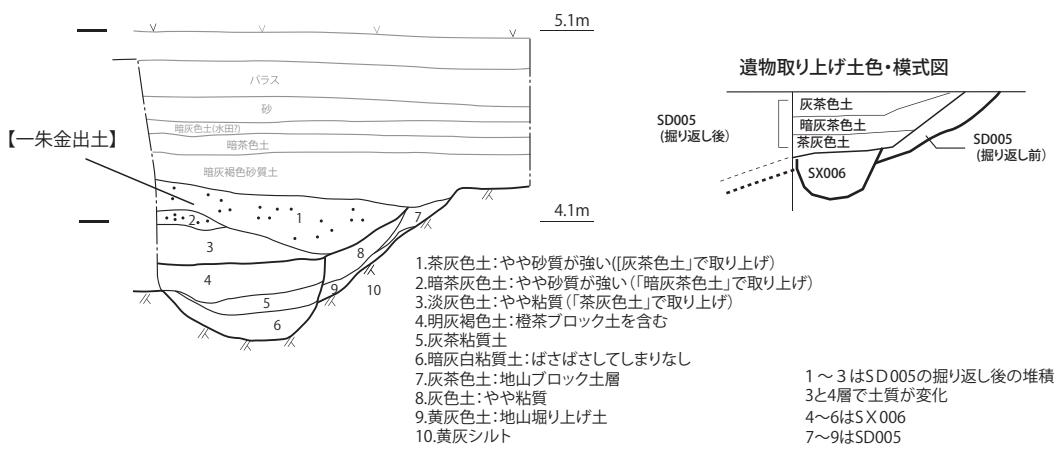
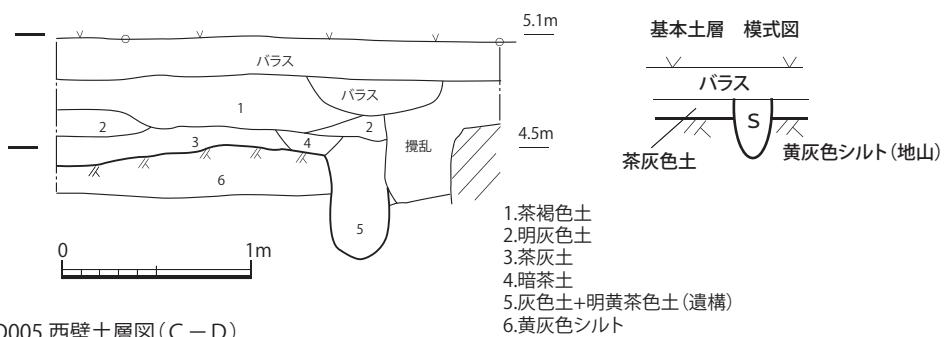
### 4. 出土遺物（第7図）

#### 土坑

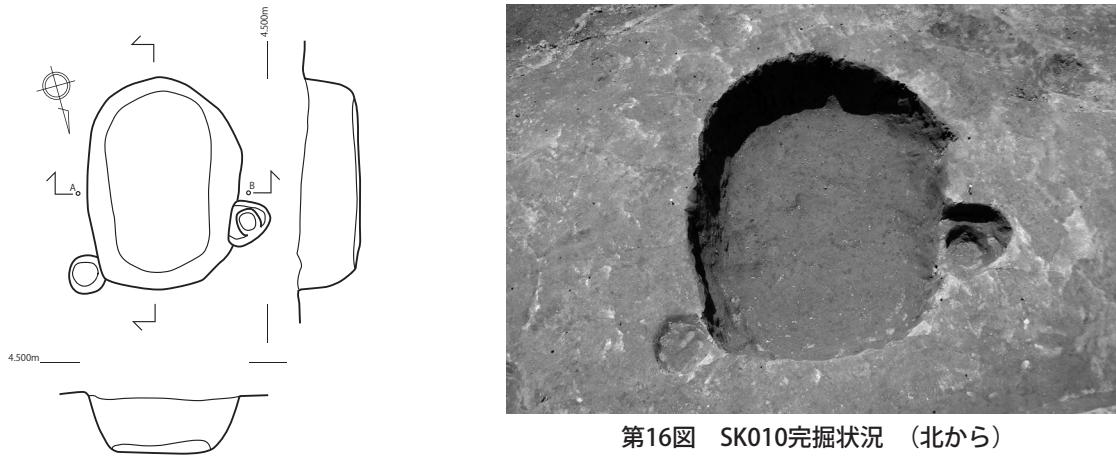
SK010（1～6）

1～5は土師器蓋。全て内外面にミガキaが施される。6は底部に高台をもつ椀。内面に横方向のミガキaを施す。

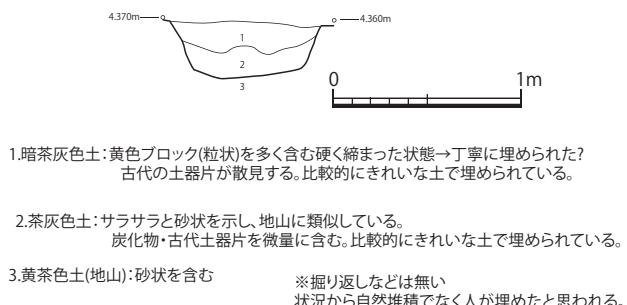
調査区北壁土層図(A-B)



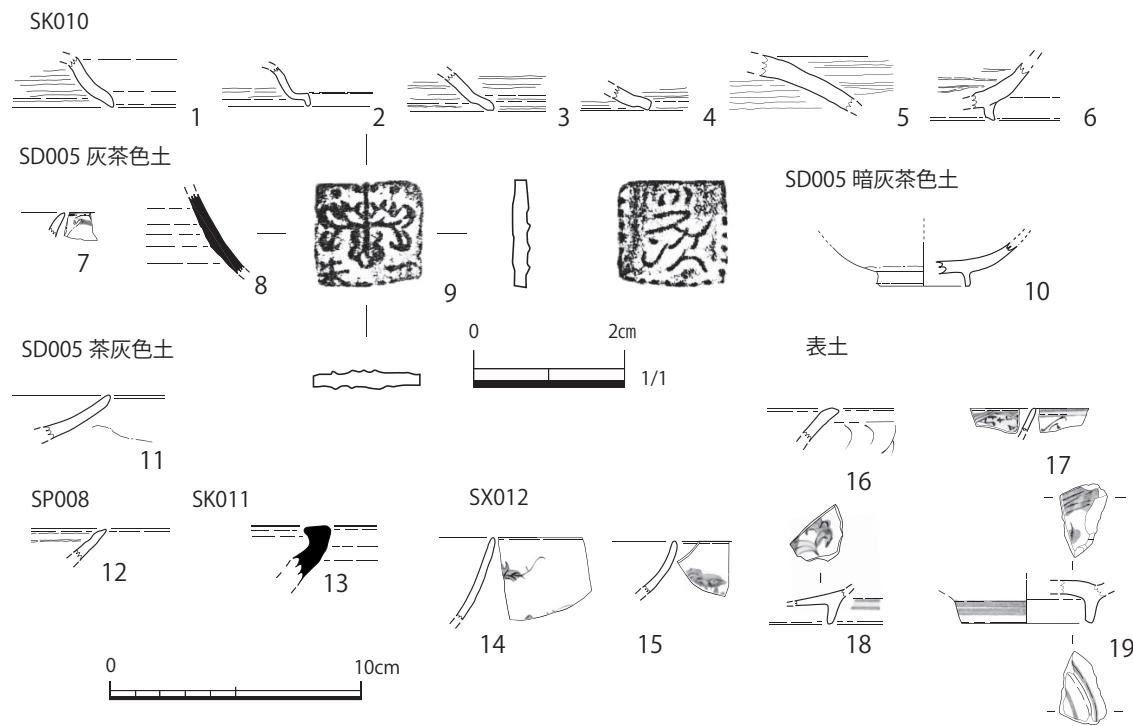
第14図 北壁・西壁土層図 (1/80)



第16図 SK010完掘状況 (北から)



第15図 SK010平面・断面図 (1/40)



第17図 出土遺物 (1/3)

## 溝

## SD005灰茶色土 (7~9)

7は、萩焼のピラ掛け椀の口縁部片。8は、関西系陶器の壺片。9は一朱金。1.4gを測る。文政7年（1824）に初鋳され、天保11年（1840）に通用を停止している金貨であり「文政一朱金」をよばれる。裏面には豊臣家支配下で大判を鋳造した後藤家の傍流である後藤庄三郎光次を長とする金座で鋳造されたため「光次」の文字が打たれ、表面には後藤家の桐紋の極印と「一朱」の文字が打たれる。

## SD005暗灰茶色土 (10)

10は、京・信楽系の陶器椀底部。

## SD005茶灰色土 (11)

11は、白磁皿VI類×の口縁部片。

## その他の遺構

SP008 (12) 土師器坏d口縁部片。内面にミガキを施す。

SX011 (13) 国産陶器鉢の口縁部片。

SX012 (14・15) ともに肥前系染付碗。

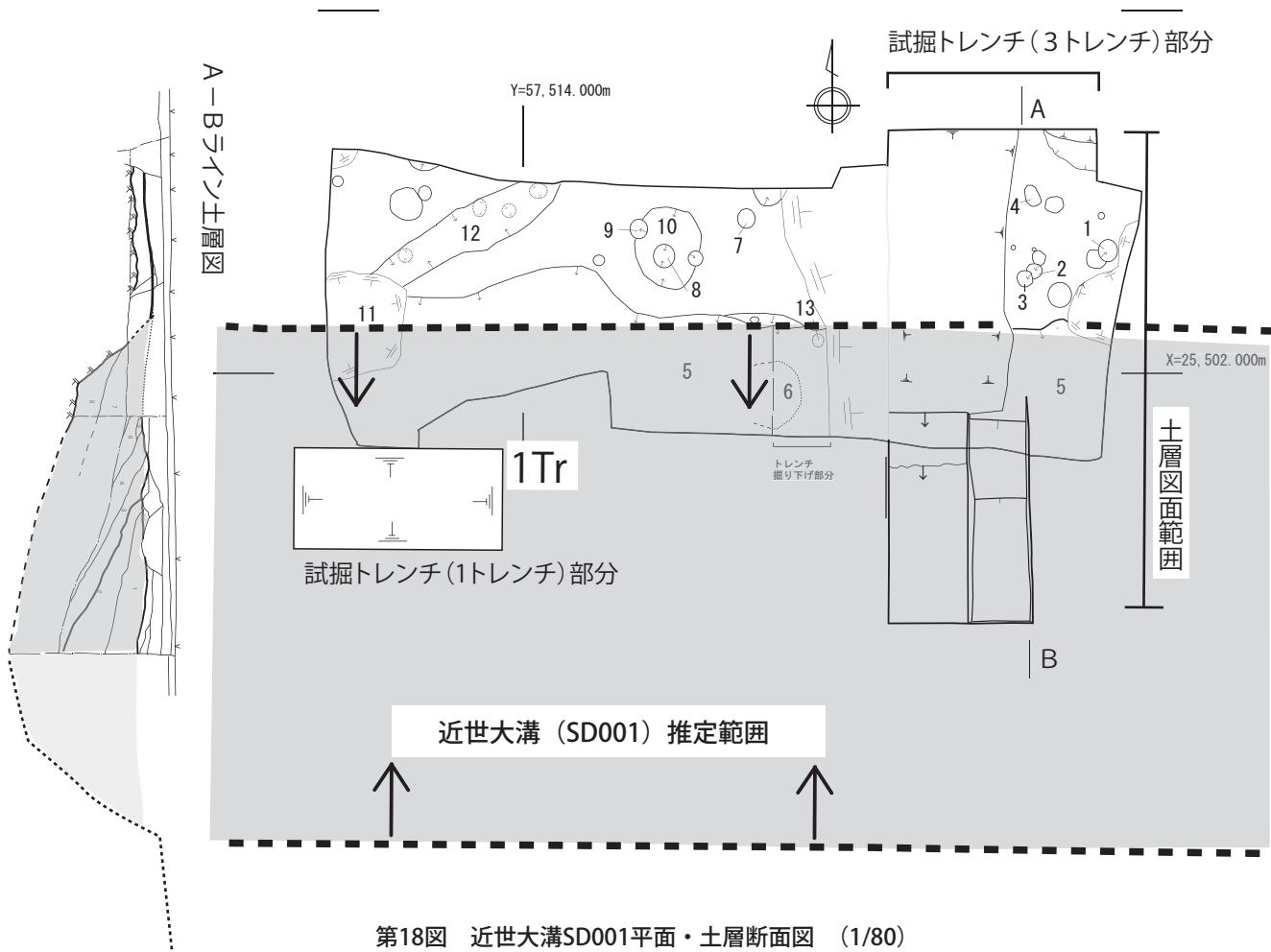
## 表土 (16~19)

16は白磁椀V-4c類か。外面に工具による陰刻がみられる。17~19は青花で、17は内面に四方櫛紋を描く椀。

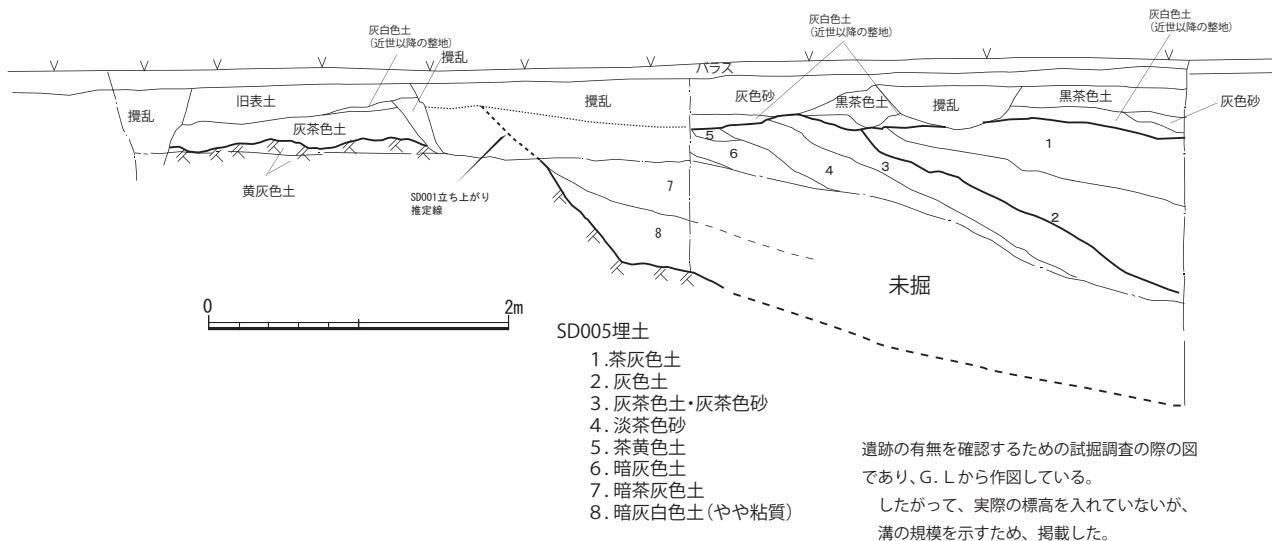
18は、椀C、19は椀E群である。

## 5.まとめ

今回調査を行った地点は戦国時代の都市遺跡である中世大友府内町跡の推定「中町」と考えられる町屋域の裏手に位置する。調査地の60m~70m東では、六坊・新中島線拡幅工事による発掘調査が行われ、大友府内町を縦断する南北道路やそれに取り付く町屋の一部が確認されている。調査の結果、試掘段階では、16世紀代の青花や、備前焼甕などが表土中より出土しており、中世の遺構の存在を想定していたが、今回の調査範囲で江戸時代後半の東西方向の大溝（SD005）や、奈良～平安時代のピットや土坑が検出され中世大友府内町に関連する遺構



第18図 近世大溝SD001平面・土層断面図 (1/80)



第19図 近世大溝SD001土層断面図 (1/50)

は確認することができなかった。本調査地点より約25m北に位置する。町74次調査でも中世府内町の町屋ではなく古代の遺物・遺構が確認されており、第4南北街路より100m西側に入ると戦国期の遺構は極めて希薄であったと考えられる。なお、大溝SD005は、その規模からみて壕かと疑うほど巨大であるが（第18図）、近世の府内城・城下町跡の範囲からは大きく外れる位置にあり、大型の溝にもかかわらず遺物の出土は極めて少ない。明治時代の地籍図では調査区の敷地内に東西方向の地割が確認できるが、このような巨大な溝状の遺構を掘削した意図は不明であり、その性格付けについては今後の課題である。なお、溝からは少ない遺物に混じって「一朱金」とよばれる江戸時代の金貨が出土した。大分市内で初の金貨の発見であり、貴重な成果となった。（長直信）



第20図 調査区全景（東から）



第21図 SD001土層（東から）



第22図 SD001土層（西から）



第23図 SD001遠景（東から）



第24図 文政一朱金の出土（SD001内）

# 上野大友館跡（上原館跡）第6次調査報告

調査面積

25.4m<sup>2</sup>

地域

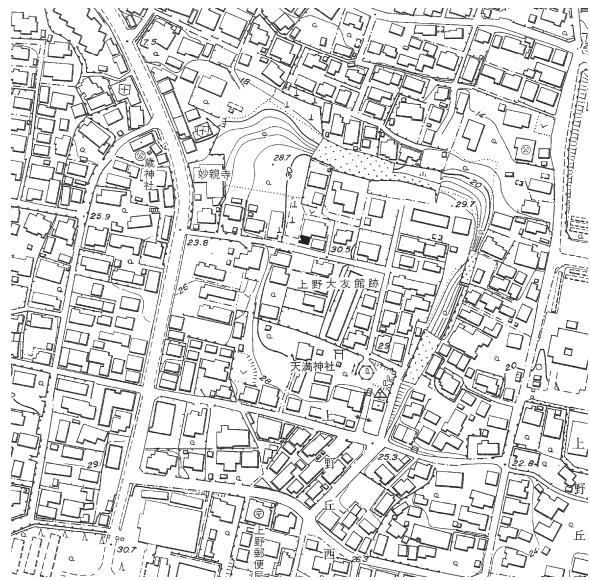
A

調査期間 09.11.18～09.11.20

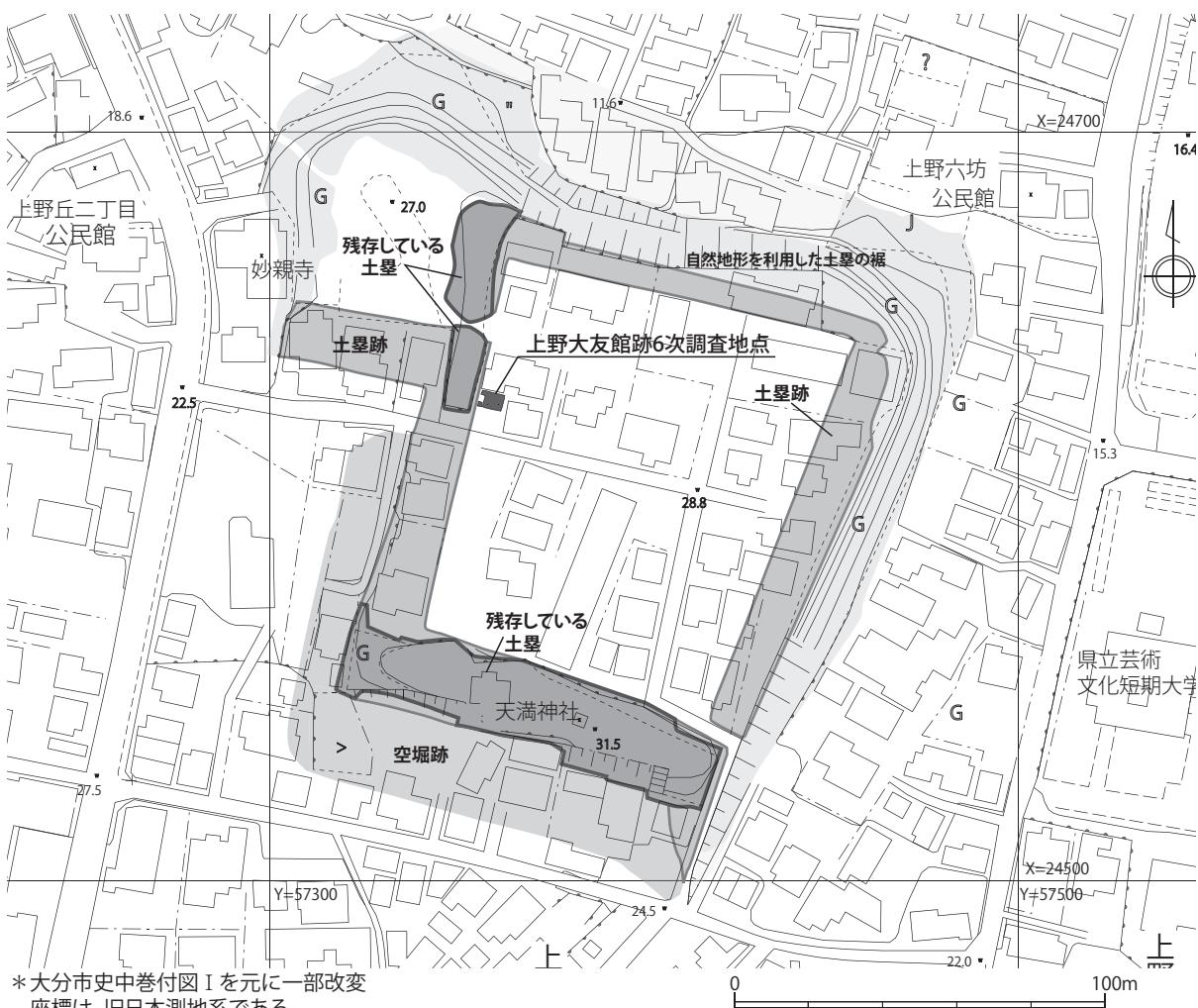
調査担当 佐藤道文・上原翔平

調査地は、大分市上野丘西に所在し、上野大友館跡に位置する。上野大友館跡は、古文書等に見られる「上原館」に比定されており、上野丘陵の北端に位置し、四方の土壘及び一部に堀を有する状況から、平地の「大友館」とは性格を異にするもう一つの大友氏の館として周知されてきた。（以下、「上野大友館」は「上原館」と呼称）

上原館には、土壘の一部（館南側と北西部）は現存しており、館跡南側に残る土壘跡は、現状で南北幅約17m、基底部から約2.5mの高さを確認している。また、館北西部においては郭状の張り出し部が確認されており、この張り出し部は館本体から約2.0m下に位置し、規模・位置から舟形に近い機能を有するものと考えられている。これら館全体の規模は土壘基底部間で南北約156m、東西約112m（～130m）と推定されている。

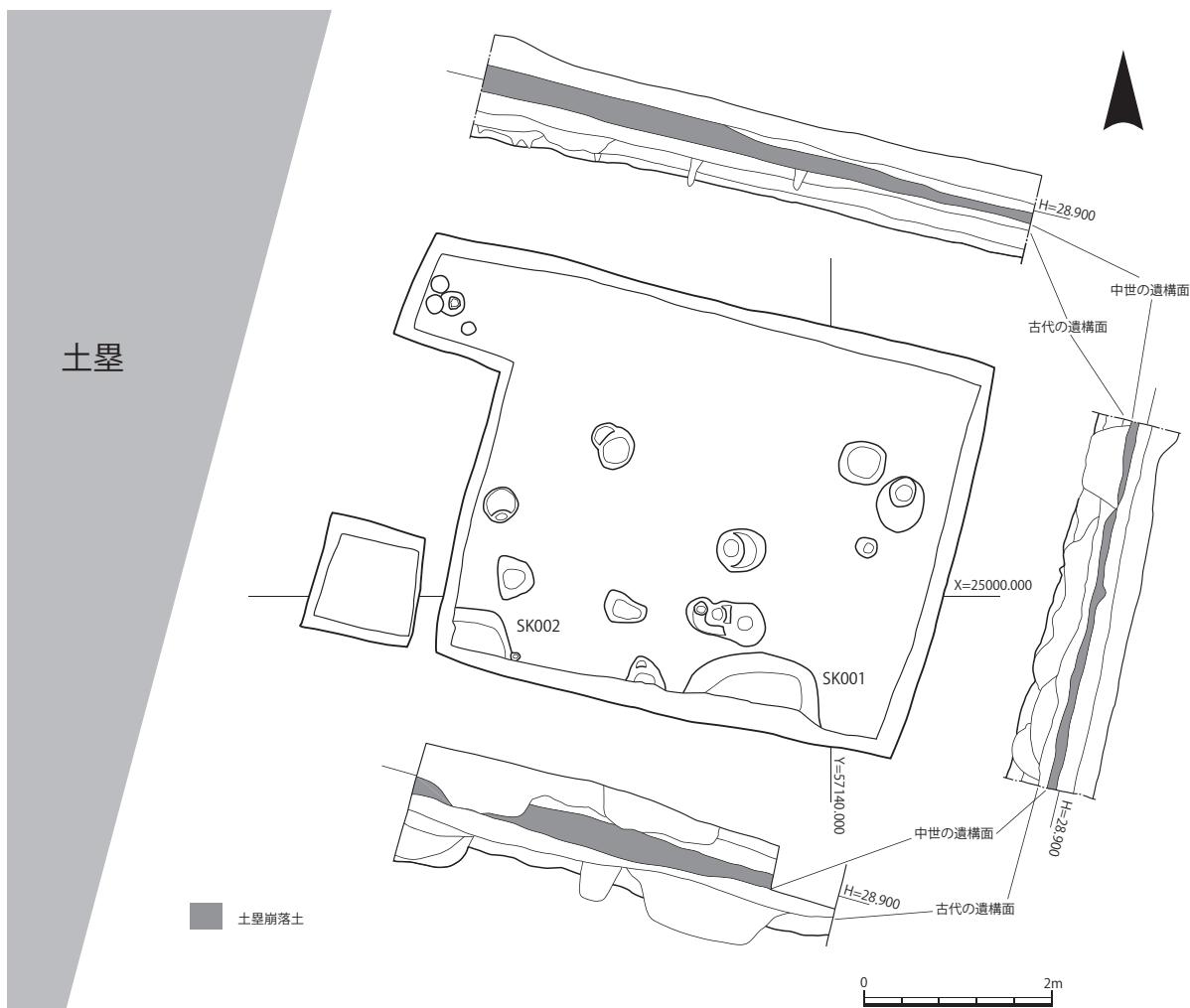


第25図 位置図 (1/5000)



\*大分市史中巻付図Iを元に一部改変  
座標は、旧日本測地系である

第26図 調査区詳細位置図 (1/2000)



第27図 遺構全体図・土層断面図（1/80）

調査地は、館北西部に現存する土壘跡の東側に隣接する部分で、調査要因は、集合住宅建設に伴う事前確認調査である。調査の結果、建物基礎が遺構面に達しないことを確認、遺跡の取り扱いについては、集合住宅建設時（基礎工事）の立ち会いとなった。以下、一部遺構の掘り下げも行った調査結果について記す。

調査は、申請地内になるべく土壘に近い位置に4.0m×5.0mの範囲で調査区（1トレンチ）を設定し、その西側に0.5m×1.0mの範囲で2トレンチを設定しておこなった。その後、1トレンチ北西部に土層を確認する為のサブトレンチ（1.0m×1.0m）を設定し調査区を拡張している。

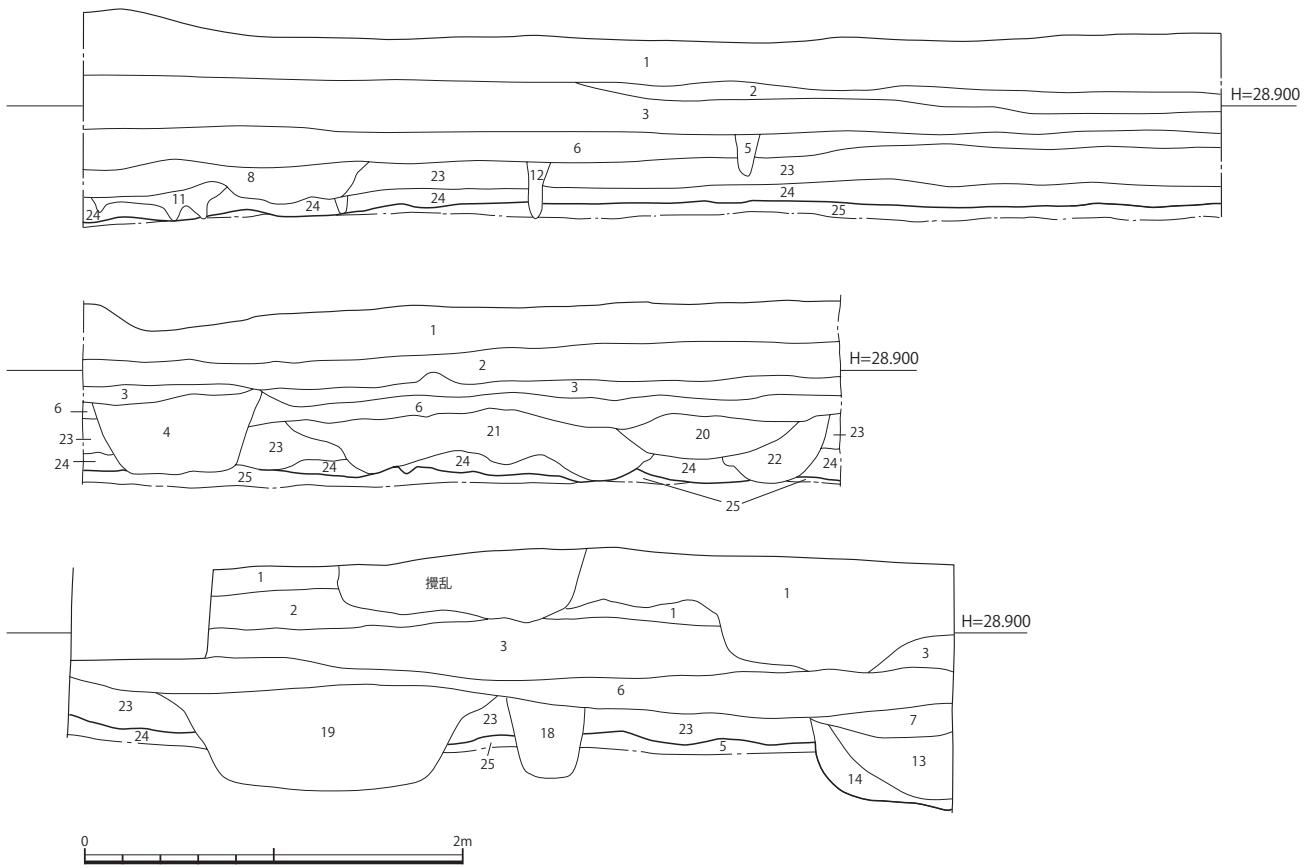
基本層位は以下のとおりである。

表土直下で茶褐色礫土（標高約29.0m：表土より約0.20m下：3層）を確認した。調査区の西から東にかけて厚さが緩やかに薄くなること、大量の礫が混入して固く締まっていることなどから、近・現代以降に行われた土壘崩落土を含む整地と考えられる。

その下位である標高約28.8m（表土より約0.40m下：6層）で暗褐色土を確認した。東壁土層よりこの層を掘り込む遺構を確認しており、後述するサブトレンチ部で出土した青磁片の存在から、中世段階の整地層の可能性が考えられる。

さらに下位である標高約28.6m（地表より約0.65m下：23層）で淡黒褐色土を確認した。今回検出された遺構の大半がこの層より掘り込まれていること、これら遺構の一部（SK001、SK002）から古代の遺物が出土することから、古代の整地層であると考えられる。

その下位より安定地盤である黄色シルト質土（標高約28.4m：地表より約0.85m下：25層）を確認した。この



1. 表土  
 2. 灰褐色土 (0.5 ~ 1.0cm の礫が混じる)  
 3. 茶褐色礫土 (硬質) \*土塁からの崩落土  
 4. 暗茶褐色土 (0.5cm 程度の赤色ブロック等を含む) \*中世段階の遺構?  
 5. 褐色土 \*中世段階の遺構?  
 6. 暗茶褐色土 (締まる 0.5cm 程度の赤色ブロック等を含む)  
 \*中世段階の整地層の可能性アリ  
 7. 暗褐色土  
 8. 暗褐色土 (6 と比べブロックの混入が少ない)  
 9. 暗灰褐色土  
 10. 暗灰褐色土 (淡黄色ブロックが混じる)  
 11. 暗褐色土 (暗黄色ブロックが混じる)  
 12. 暗褐色土 (淡黄色ブロックが混じる)  
 13. 黒褐色土 (赤色ブロックが混じる) \*古代の遺構 (SK02)  
 14. 淡黒褐色土 (淡黄色ブロックが混じる) \*古代の遺構 (SK02)  
 15. 黒褐色土  
 16. 黒褐色土 (赤色ブロックが混じる)  
 17. 淡黒褐色土  
 18. 黒褐色土 (赤色ブロックが混じる) \*古代の遺構  
 19. 黒褐色土 \*古代の遺構 (SK01)  
 20. 黒褐色土  
 21. 暗灰褐色土 (淡黄色ブロックが混じる)  
 22. 淡黒褐色土 (淡黄色ブロックが混じる)  
 23. 淡黒褐色土 \*古代の整地層の可能性アリ  
 24. 黒褐色シルト質土 (淡黄色ブロックが混じる)  
 25. 淡黄色シルト質土 (地山)

第28図 調査区土層断面図 (1/40)

面より複数のピットや土坑を確認している。

検出された主な遺構は以下のとおりである。

SK001は、調査区南東部で検出された土坑である。東西方向の長軸1.5m、深さ0.5mを測る。南半部は調査区外となる短軸は現況で0.6mを測る。出土遺物には土師器壺等がある。

SK002は、調査区南西部で検出された土坑である。大半を調査区外となり、全体の1/4程度を掘削している。現況で、東西0.6m、南北0.4m、深さ0.5mを測る。出土遺物には須恵器壺、土師器壺、盤等がある。

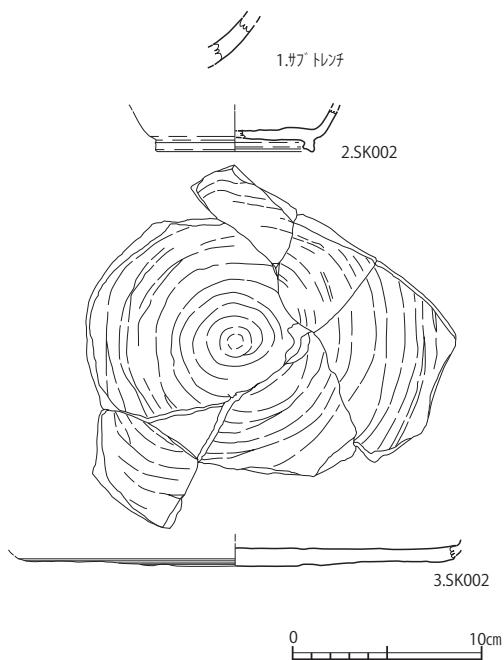
出土した遺物は以下のとおりである。

1. は、サブトレーンチ掘削時出土した青磁碗である。龍泉窯系の青磁で、釉の発色は悪く、透明感は無く、白濁した状況である。上田分類のD類ないしE類に相当するものと考えられる。
2. 3はSK002から出土した遺物である。2. は須恵器の高台付壺である。高台径は復原で8.2cmを測る。3. は土師器の盤である内面には、粗面を残したミガキa2が施され、外面には底部ヘラ切り離しの後同じくミガキa2

が施される。内外面のミガキを比較したとき、外面がやや粗い状況が観察される。底径は復原で22.4cmを測る。

SK002からは他にも小片で図示できないが、豊後型壺d及び企救型甕も認められていることから8世紀末から9世紀初頭の年代が考えられる。SK001についても小片ではあるが土師器壺、高台付壺が出土していることからSK002とほぼ同時期と考えて良い。

(上原・河野)



第29図 出土遺物 (1/4)



第30図 完掘状況 (南から)



第31図 調査区北壁



第32図 調査区南壁



第33図 SK001完掘状況

# 下郡遺跡群第144次調査報告

調査面積 8m<sup>2</sup> 調査期間 10.01.19  
地域 A 調査担当 河野史郎・上原翔平・羽田野裕之

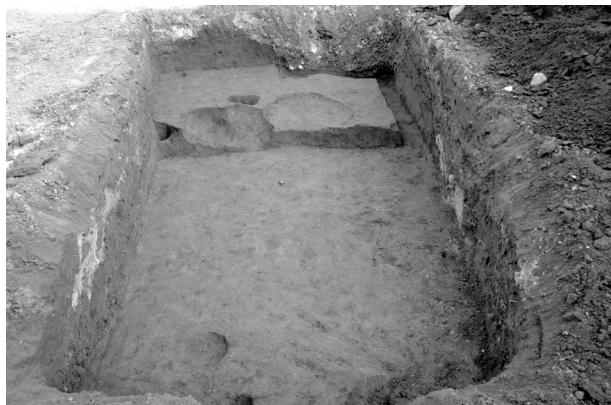
下郡遺跡群第144次調査地点は、大分市下郡北3丁目276番の1に所在する。遺跡のほぼ中央部に位置し、古代の遺構群が確認された34・94次調査区が調査対象地の北東に隣接する。

隣接する34・94次の調査成果に加え、事前に行われた確認調査でも古代の土師器片が出土していることから、周辺に存在するであろう一連の古代遺構の確認が想定された。

調査は、遺構が破壊される浄化槽部分の8m<sup>2</sup>を調査対象とし、調査の結果、かく乱が調査区の大半を占め、調査区北端部の一部に整地層上面から掘り込まれ柱穴及び小土坑等の遺構が確認された。

確認された遺構群の位置づけとしては、34・94次調査区で確認された古代の遺構群が整地層上面から掘り込まれていることに加え、わずかながら出土する遺物片も古代と推定されることから、周囲に存在する一連の古代遺構ととらえる事が可能である。

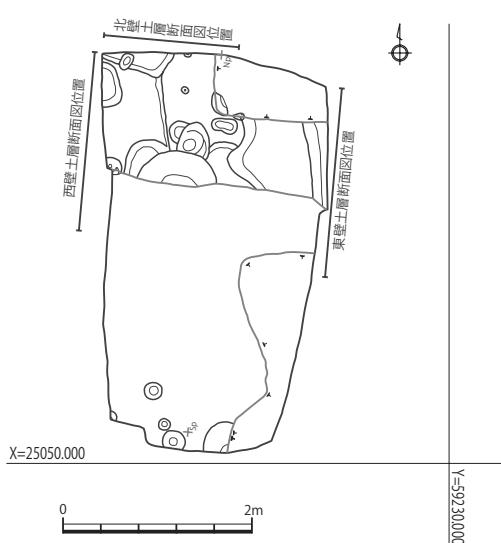
(上原・河野)



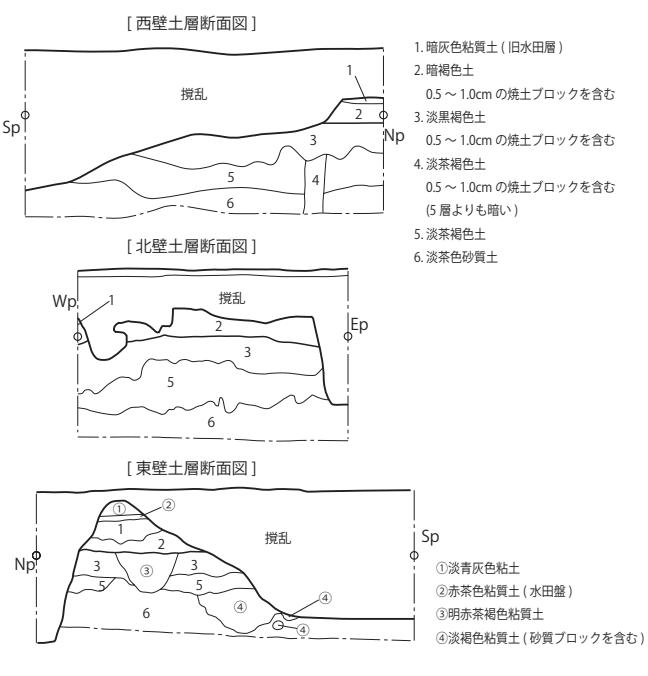
第35図 完掘状況（南から）



第34図 位置図 (1/5000)



第36図 遺構配置図 (1/80)



第37図 土層図 (1/40)

# 下郡遺跡群第145次調査報告

調査面積 15m<sup>2</sup> 調査期間 10.02.18

地域 A 調査担当 河野史郎・上原翔平・羽田野裕之

調査地は、大分市下郡北3丁目403, 404, 405番に所在する。周辺の調査地には西側の下郡遺跡群130次調査がある。

調査は、遺跡の破壊される浄化槽設置部分に約3.0m×5.0mの範囲でトレンチを設定しておこなった。調査の結果、調査区全体に東西方向に延びる溝状遺構を確認した。この溝状遺構は、複数回にわたる掘り返しの痕跡が認められ、完掘後の床面は畝状を呈する。出土遺物は小片かつ少量ではあるが、概ね近世以降に位置づけられるものである。こうした溝状遺構については、下郡遺跡群の各所で確認されており、旧地割に対応することが指摘されている。今回検出された溝についても、同一方向の旧字境が存在しており、これに対応するものと推定される。

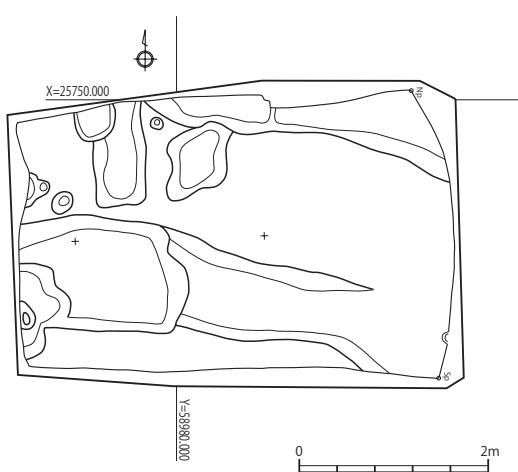
(上原・河野)



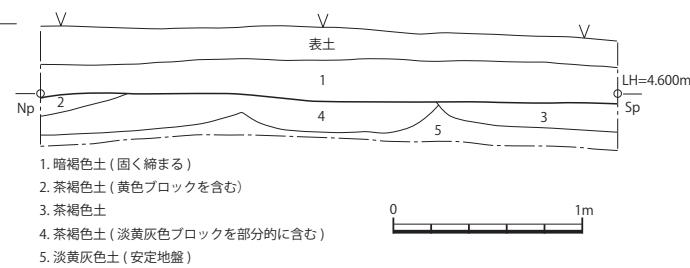
第39図 完掘状況（西から）



第38図 位置図 (1/5000)



第40図 遺構配置図 (1/80)



第41図 土層図 (1/40)

# 中世大友府内町跡第83次調査（確認調査）報告

調査面積 526.8m<sup>2</sup>

調査期間 08.07.23 ~ 08.08.06

地域 A

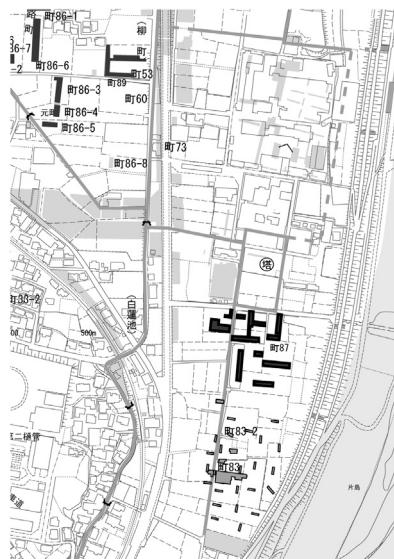
調査担当 永松正大・三嶋桂司・上原翔平

## 1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

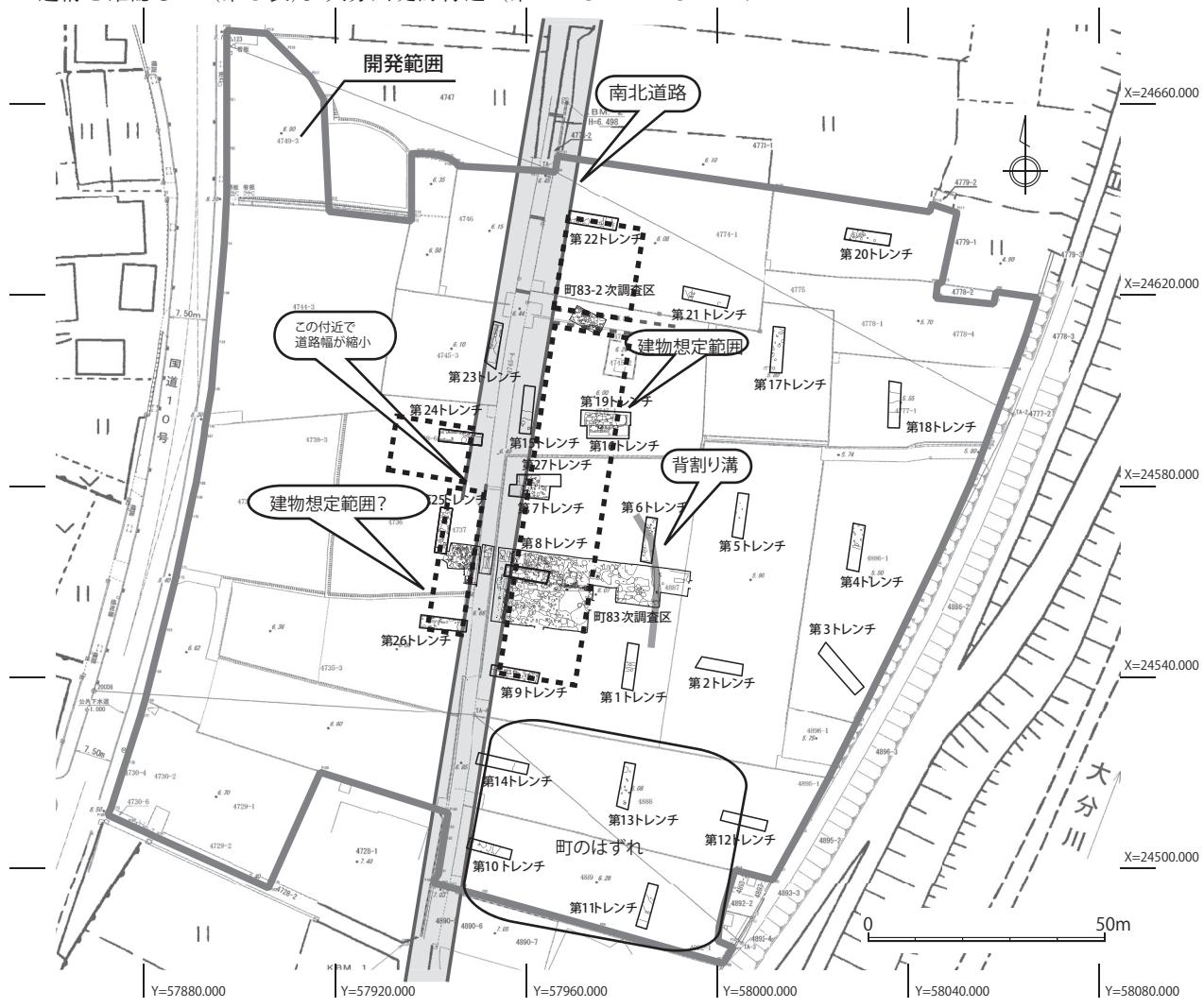
中世大友府内町跡第83次調査（確認調査）は、大分市大字大分字北前田・沖に所在し、大型店舗開発に伴って行われた。平成20年5月文化財保護法第93条に基づく届出が株式会社ホームインプレーブメントひろせ代表取締役廣瀬舜一氏より大分市教育委員会に提出され、さらに両者間で埋蔵文化財の発掘調査委託契約が締結された。これに基づき同年7月23日～8月6日に遺構の分布や検出標高を確認するため確認調査を実施した。店舗の開発面積が広大であったことから、建物基礎を計画している部分を中心に27本のトレントを設定し確認調査を行った。なお、この確認調査を受けての本調査を平成21年度中に実施したが、その調査成果については『大友府内15』として刊行している。

## 2. 調査概要

現況畦境を参考に27本の試掘トレントを設定し、すべてのトレントで遺構を確認した（第3表）。大分川堤防付近（第2・3・4・5・12トレ



第42図 位置図 (1/10000)



第43図 確認調査トレント配置状況と調査成果図 (1/1500)

第3表 町83確認調査トレンチ一覧

	規模(東西×南北)	面積	遺構検出レベル(m)	検出遺構
第1トレンチ	2.0×10.0	20	5.800	溝状遺構2条、ピット3基
第2トレンチ	9.0×2.3	20.7	5.300	ピット3基
第3トレンチ	10.0×5.0	50	—	ピット2基
第4トレンチ	2.15×8.0	17.2	5.100	土抗2基、ピット9基
第5トレンチ	1.9×9.0	17.1	5.500	東西溝状遺構2条、ピット5基
第6トレンチ	2.15×9.0	19.35	5.640	溝状遺構1条、ピット20基 S-015深度0.46m、S-016深度0.52m
第8トレンチ	4.4×2.0	8.8	5.740	ピット8基
第8トレンチ	9.0×2.1	18.9	5.740	南北溝状遺構(石列遺構)1条、東西溝1条、ピット23基
第9トレンチ	10.0×2.15	21.5	—	南北溝状遺構(石列遺構)1条、東西溝1条、土抗2基、ピット43基
第10トレンチ	7.1×2.0	14.2	5.880	南北溝状遺構?2条、礫を多量に含む不明遺構1基
第11トレンチ	1.95×9.0	17.55	5.960	東西溝状遺構1条、溝状遺構1条、ピット5基
第12トレンチ	2.2×9.0	19.8	5.700	ピット4基
第13トレンチ	2.0×9.0	18	5.900	土抗1基、ピット11基
第14トレンチ	8.0×2.0	16	5.560	南北溝状遺構1条
第15トレンチ	2.2×9.0	19.8	—	
第16トレンチ	8.2×2.1	17.22	5.620	土抗3基(石組み土抗含む)、ピット19基
第17トレンチ	2.25×8.0	18	—	土抗2基、ピット12基
第18トレンチ	2.3×8.0	18.4	5.500	東西方向の近現代溝状遺構
第19トレンチ	9.0×2.5	22.5	5.780	大型土抗(井戸?)2基、土抗・ピット多数
第20トレンチ	9.0×2.0	18	5.580	南北溝状遺構1条、ピット8基
第21トレンチ	8.0×2.2	17.6	5.600	土坑(礫を多量に検出)1基、ピット6基
第22トレンチ	9.5×2.1	19.95	5.700	東西方向溝状遺構1条、土抗・ピット多数
第23トレンチ	2.0×8.0	16	—	道路関連遺構(南北方向石列含む)
第24トレンチ	9.0×2.2	19.8	5.700	道路関連遺構(南北方向石列含む)
第25トレンチ	2.1×9.3	19.53	5.840	東西方向溝状遺構2条、土抗7基、ピット多数 S-003深度0.54m、S-004深度0.38m
第26トレンチ	9.6×2.3	22.08	5.760	道路関連遺構(南北方向石列含む)、ピット36基
第27トレンチ	8.2×2.3	18.86	5.600	道路遺構(南北方向石列含む)、ピット45基

ンチ) では遺構の分布が希薄であるが、西側に向かうにつれて密になる。土層観察から表土上面から約45cmで遺構検出面に達し、遺構検出面上層に焼土・炭化物を包含する層を複数トレンチで確認した。調査地点を南北方向にはしる農道に近接するトレンチでは、掘り込みを伴って、砂質土による硬化面を確認し「今道町」を通る道路跡と考えられる。また、側溝状の遺構も道路跡の両側で確認できたことから道路幅は約10mであることが判明。また、道路部分の東西のトレンチでは道路遺構に直交するように建物跡らしき柱穴と地割と思われる溝状の掘り込みや、道路跡から約25m離れた地点で井戸状の大型遺構も確認できており、「今道町」を形成した町屋遺構と考えられる。一部掘下げを行った柱穴から、京都系土師器皿、在地系土師器(ロクロ成形)や瓦質土器鍋や釜、備前擂鉢や甕等が出土し、16世紀後半～末頃の遺構と考えられる。なお北東側のトレンチでは、13世紀～14世紀に比定できる陶磁器が出土している。

今回検出した道路遺構は、「府内古図」に描かれた「今道町」を通る道路と考えられ、東西に広がる町屋遺構も「今道町」の町屋と想定される。調査区北側の万寿寺に続く参道及び町屋が非常に良好な状態で残っていることが判明し大きな成果となった。

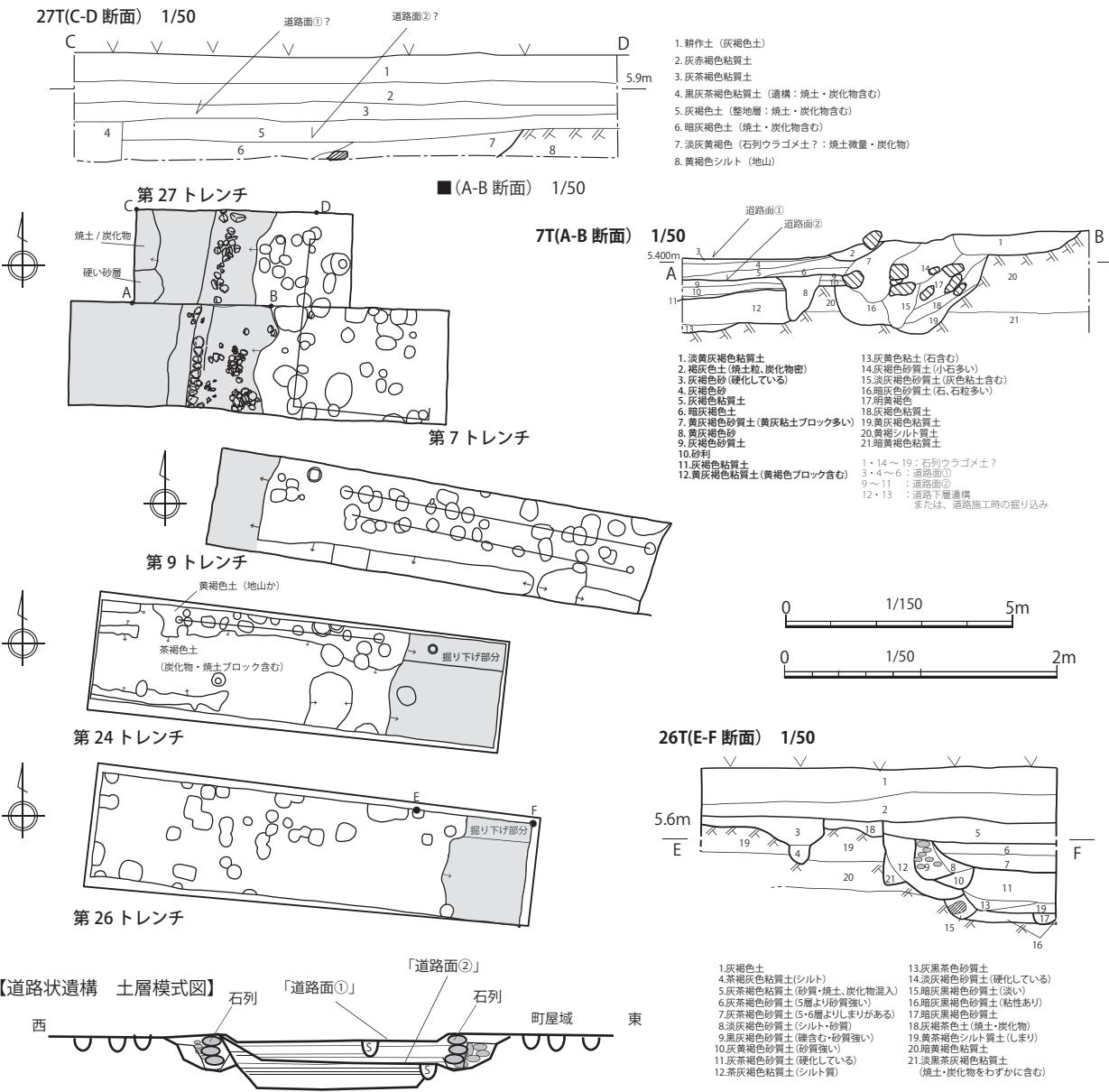
### 3. 主要トレンチ概要

各トレンチの規模や内容については第3表を参照し、以下では、主要なトレンチの概要を述べる。

#### ■南北道路関連トレンチ(第44図)

現農道直下で確認した道路状遺構に関連したトレンチの概要を述べる。

① 7・24トレンチ(道路東側) 調査区中央で設定した東西方向に長いトレンチで、7トレンチで確認した道路状遺構を拡張するかたちで、24トレンチを北側に設定した。トレンチの東側は、ピットが複数確認されており、道路に対応する町屋域と考えられる。遺構確認のトレンチ調査のため、建物の並びを確定させることは難しいが、後述する石列の主軸にそって、建物ないし柵が並ぶ可能性がある(第44図に図示したラインは参考)。トレンチの中央部に硬化した道路面と考えられる層が確認でき(これを「道路面①」とした)、これを除去すると、西側に面を揃える南北方向の石列群が検出できる。この石列は垂直方向に二段積まれており、石列を含む道路の東側の町屋域は、道路面に対して高くなる。なお、調査区全面は耕作により削平を受けており、当時の地表面は確認できないが、「道路面①」の時点では、道路が嵩上げされていることから、東側の「町屋域」との高低差がなくなっている可能性がある。石列は、「道路面①」にそって堀方が帶状に確認されることから、道路面を一度



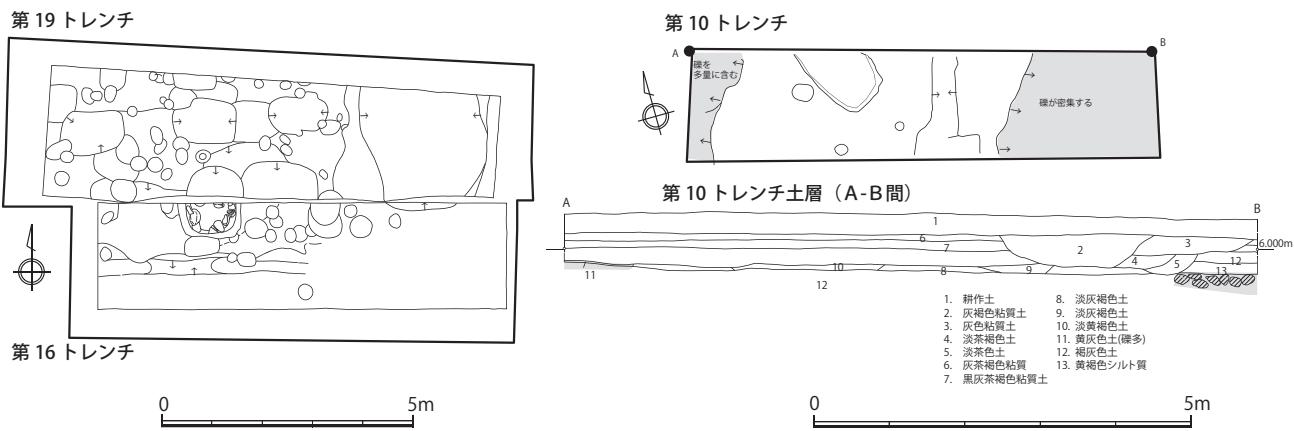
第44図 道路関連トレンチ遺構図（平面：1/150、土層：1/50）

掘り込んで石列を据えていると考えられる。

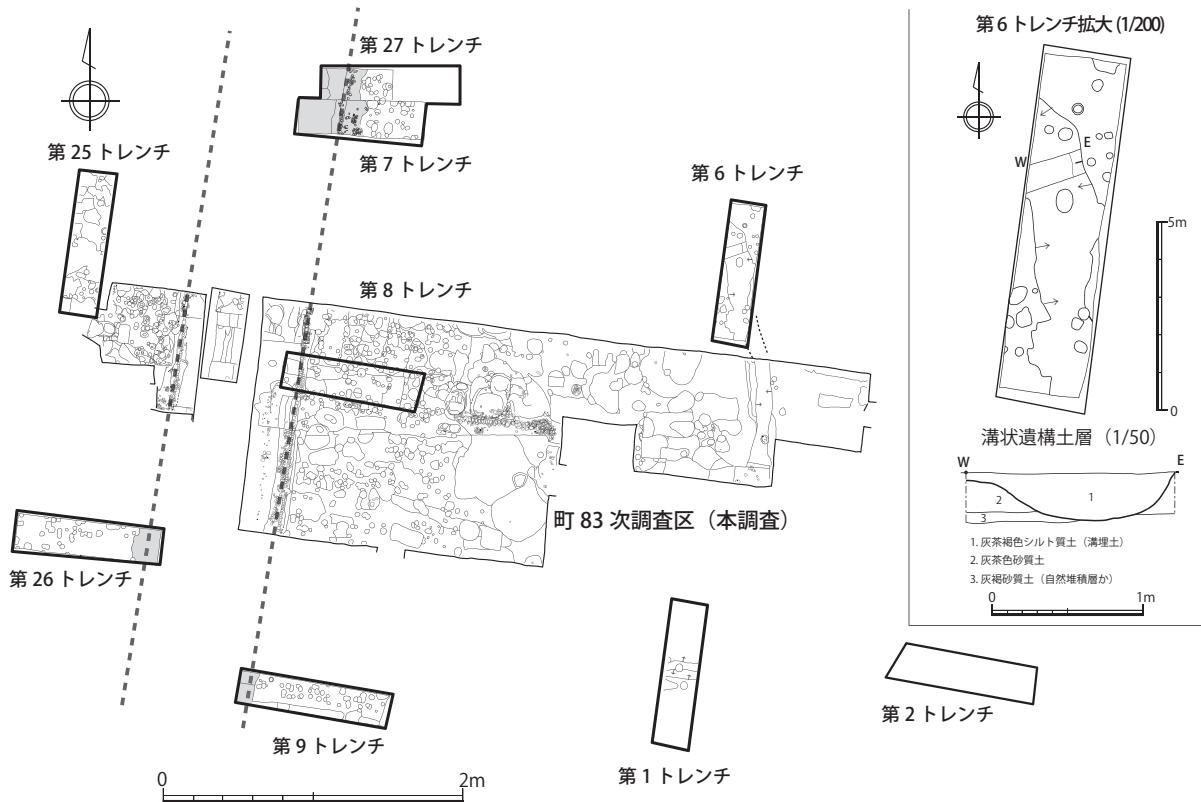
なお、「道路面①」については、町83次の本調査地点では、1586年の島津侵攻後の復興に伴う後片付けにより形成された遺物包含層（町83SX020）として認識されている面に相当すると思われる。本トレンチ以外の地点では、本調査地点同様、明確な道路状遺構は確認されておらず、一段低い道路面（「道路面②」とする）を埋めた包含層として認識できるが、本トレンチで確認された硬化面の存在や調査地点全体の削平を考えると、「道路面①」は1586年以後に復旧した道路面である可能性が高い（第44図 土層模式図参照）。

②9トレンチ（道路東側）町83次本調査地点より南側に位置するトレンチで、調査区東端で、遺構の一部の可能性のある南北方向の掘り込みを確認した。これより東側は、ピットが確認できることから、他のトレンチ同様、町屋に関わる建物関連遺構と考えられる。東西方向に1.2m間隔でピットが並ぶ部分のあることから、柵ないし掘立柱建物と考えられる。また、トレンチ南側では、東西方向の溝状遺構がピット列の主軸に沿って確認できることから、区画溝の可能性がある。

③24トレンチ（道路西側）調査区中央で設定した東西方向に長いトレンチで、トレンチ東端で東方向へ向かって掘りこまれるプランが確認されたことから、道路状遺構の可能性がある。トレンチ北側には、1.0～1.2m程度



第45図 町屋関連トレンチ配置図（平面1/100、断面1/60）



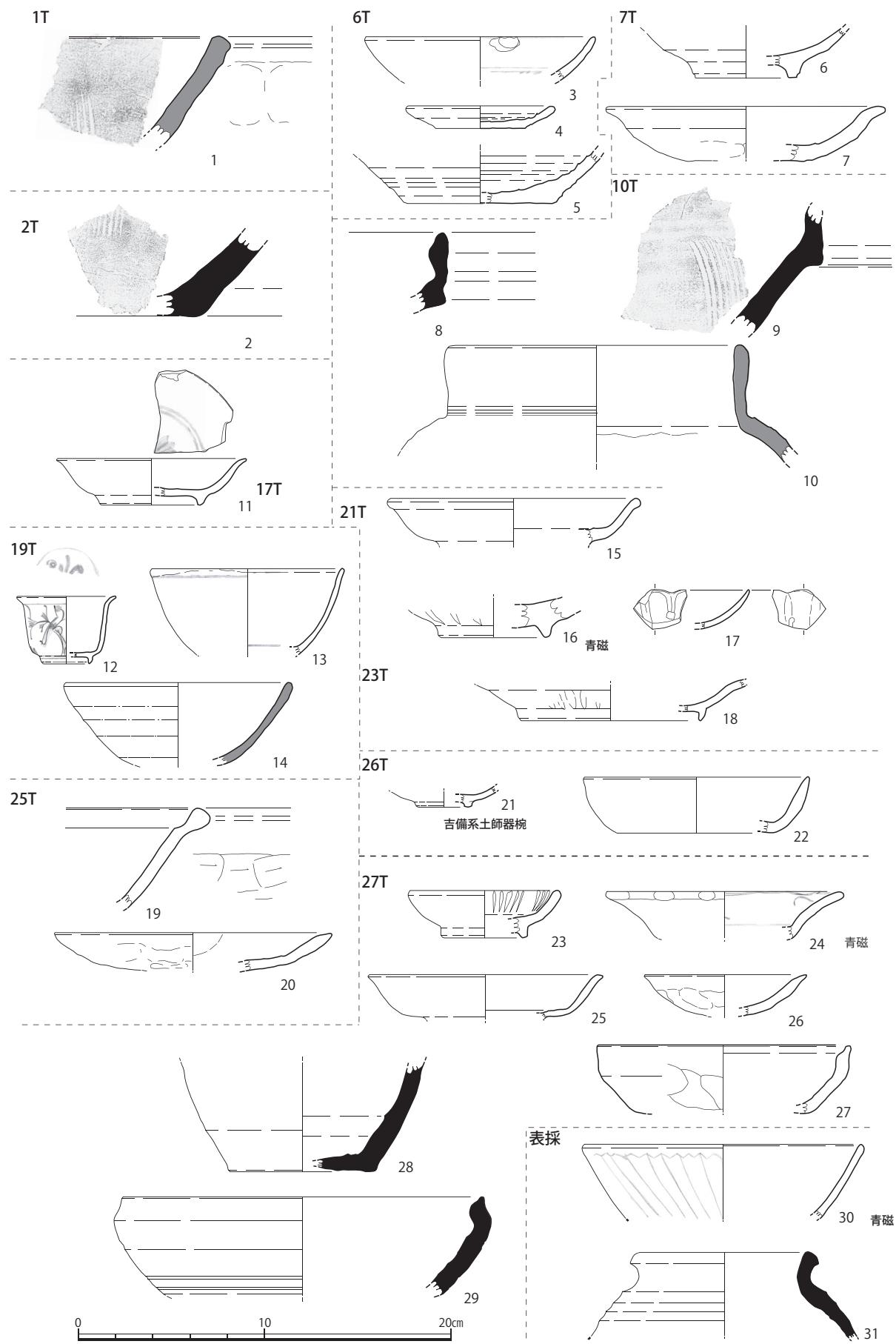
第46図 町83本調査区周辺確認調査トレンチ配置図 (1/500)

の間隔でピットが並ぶことから、柵などの遺構が想定できる。なお、ピット列の南側は、道路状遺構のプランに切られる、焼土を含む茶褐色土が東西方向に帯状に広がっている。掘削を行っていないが、町屋エリアの整地ないし、区画溝の可能性がある。

④26トレンチ（道路西側） 町83次本調査地点より南西側に位置するトレンチで、本調査地点同様、トレンチ東端で、道路状遺構の一部と考えられる掘り込みラインを確認した。掘り下げ部分では、遺構が複数切り合っている状況が確認できたが、土層には礫が含まれており（第44図右下）、町83次本調査の所見を踏まえると道路の東端と同様に石列とそのウラゴメの一部の可能性がある。トレンチ西側では、他トレンチ同様、ピットが複数検出されており、町屋の「表」部分と考えられる。

#### ■町屋部分のトレンチ（第45図）

①19・16トレンチ 町屋部分の状況を確認するために、調査区中央に設定したトレンチで、東西方向に長いトレンチを2本設定した。道路周辺の遺構がピット主体で、密度が低いのに対して、本トレンチでは、ピットの他、



第47図 出土遺物 (1/3)

0.8×1.2m前後の長方形の土坑や、2mを超える大型遺構などが高密度に展開し、町屋内部の裏手付近という様相を呈する。また、30m南側に位置する町83次本調査地点では、2mを超える大型遺構は、道路状遺構の東端より15m東側で検出されているが、本トレンチでも同様の地点にあたることから、町屋建物域が奥行15m程度であり、これより東側は廃棄や井戸等が展開する景観が推測できる。なお、16トレンチ南側で東西方向に確認できる溝状遺構は、24トレンチ同様、町屋の南北を隔てる区画溝の可能性がある。

#### ■町83次周辺トレンチ（第46図）

①25トレンチ 町83次本調査地点の北西に位置するトレンチで、町屋内部の様相把握を目的に設定した。町83次本調査では、道路の西端より約5mまでピットが密集するが、これより西側の本トレンチ部分にかけてはピットが減少し、大型遺構が高密度で検出できる。掘削を行っていないため時期や性格は不明であるが、道路東側のよくな奥行きのある町屋は想定できない。

②6トレンチ 町83次本調査地点の北東に位置するトレンチ。町83次本調査で背割りの溝とした南北方向の溝SD140の延長付近にあたり、トレンチ中央には、幅1.5m～1.8m、深さ0.3mほどの溝状遺構が検出された。この溝は、SD140と規模が近似しており同一遺構と考えられるが、SD140が南北方向に直線的に掘削されるのに対して、本トレンチの溝は西に大きく振れ、道路や町屋の主軸には並行しない。これは、地形に起因するものかもしれないが、本トレンチではこの溝以外の遺構は極めて少なく、町屋の端であることが想定できる。

#### ■調査区南端のトレンチ（第45図）

①10トレンチ 設定したトレンチの中で最も南に位置する。トレンチ西端にわずかに南北方向の掘り込みプランが確認できることから、周辺の調査状況から南北道路の延長部分と考えられる。なお、このプランには礫が帶状に密集する部分があることから、石組のウラゴメ部分と推測される。また、トレンチ東側では、0.1～0.2m程度の礫が面的に広がっている部分が確認されている。掘削を行っていないため、性格は不明だが、町屋廃棄時の集石遺構か、礫敷きを伴う何らかの施設が展開する可能性がある。いずれにせよ調査区南端に位置する本トレンチは、全体に非常に遺構密度が希薄であり、町のはずれのような印象をうける。

### 3. 出土遺物（第47図）

1トレンチ出土遺物（1） 1は瓦質土器 撥鉢。

2トレンチ出土遺物（2） 2は、備前焼播鉢底部片。

6トレンチ出土遺物（3～5） 3は青磁 4・5は内面に工具によるロクロ目を残す土師器で、4は小皿・5は大型の壺。

7トレンチ出土遺物（6・7） 6は、朝鮮王朝産の椀。高台に砂目付着。7は京都系土師器皿。やや厚手。

10トレンチ出土遺物（8～10） 8・9は備前焼播鉢。10は瓦質土器釜の口縁部

17トレンチ出土遺物（11） 11は青花皿。B群。

19トレンチ出土遺物（12～14） 12・13は青花で、12は端反になる小壺。13は椀のE群か。14は瓦質土器の椀で体部外面にはヘラケズリ調整を施す。

21トレンチ出土遺物（15～17） 15は、青磁皿。16は青磁椀の底部で、外面に連弁紋を片彫りする。17は白磁の菊皿。

23トレンチ出土遺物（18） 18は青花皿のF群。

25トレンチ出土遺物（19・20） 19は、土師質土器の鍋口縁部片。20は京都系土師器皿。

26トレンチ出土遺物（21・22） 21は、吉備系土師器椀の底部片。22はハコ型の体部をもつ壺。底部糸切りで体部から口縁部が紡錘形になる。

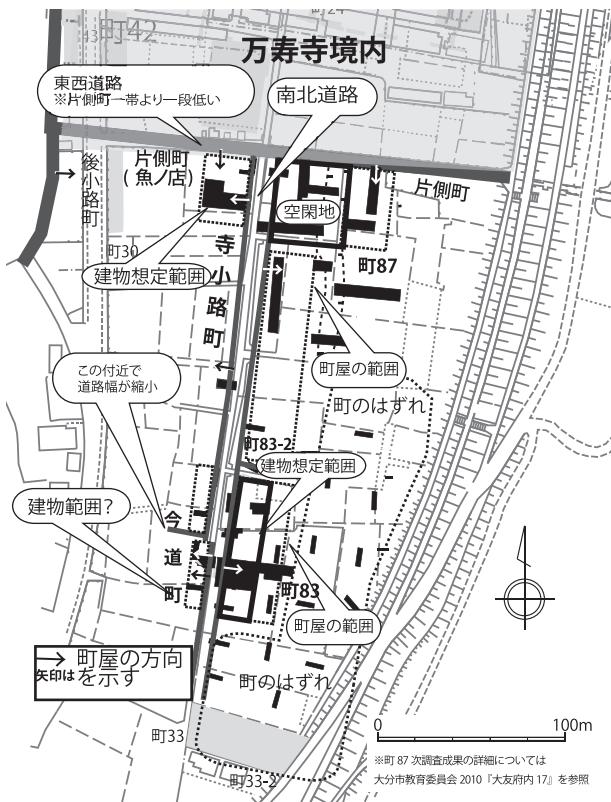
27トレンチ出土遺物（23～29） 23は、白磁皿で、内面に型による鎬が施される。24は青磁の稜花皿で、腰折れ形状となる。25は青磁皿。26は、京都系土師器皿。27は椀形の京都系土師器。28は備前焼壺の底部片。29は備前焼の鉢。

表採（30・31） 30は、青磁椀で外面に剣先連弁紋を施す。31は備前焼の壺。

#### 4.まとめ 道路と土地利用

今回の調査成果と、周辺の調査成果をまとめると、16世紀後半の万寿寺前面エリアは第48図のように模式的に理解できる。これらの成果は、「府内古図」に記載された内容に合致するものである。また、町83次本調査での調査成果を含めると、道路東側の町屋の建物規模が東西15mの範囲である点や、遺構の疎密から、町屋域の中心と周縁を推測することができる。なお、出土遺物のなかには吉備系土師器碗など14世紀代の遺物がわずかながら確認されるが、調査時点での遺物の大半は、16世紀後半の遺物群であった。万寿寺により近い町87次調査で確認された14・15世紀代の遺物の量と比較しても、希薄であり、万寿寺より150m程度離れる推定今道町付近の開発は16世紀代に下る可能性が高い。なお、南北道路の施工時期については、府内町南東部に位置する万寿寺とその土地開発、都市への変容を考える上で重要となるが、今回の調査では確定できなかった。

(長 直信)



第48図 旧万寿寺南側遺構分布推定図



第49図 27T、7T遺構検出状況（北西から）



第50図 7T道路遺構断面（北から）



第51図 9T遺構検出状況（西から）



第52図 16T、S-18（南から）

# 中世大友府内町跡第90次調査（確認調査）報告

調査面積 128.2m<sup>2</sup> 調査期間 08.05.22～08.06.27

地域 A

調査担当 永松・佐藤・長・三嶋・上原

## 1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

中世大友府内町跡第90次調査は、住宅地の開発に伴って行われた確認調査である。調査地点は、中世大友府内町跡の北端に位置する。東西の調査区を挟む現在の東西道路（幅約5m）は、府内町の北端を画す東西道路の名残であると推定され、道の北側が「ニシウ町」、南側が「辻之町」に当たり、これまで全く調査が行われてない地点であった（第54図）。遺構面の有無と遺構検出標高の確認が主目的である「確認調査」であったが、遺構の時期を確認するためにいくつかの遺跡の掘削を行った。調査は平成20年5月22日、6月5日、6月18～27日の計3回を同一の敷地内で行っており、これらの調査をまとめて中世大友府内町跡第90次調査とした。東西方向の道路を挟んで北側に第1トレンチ～第3トレンチ・第7

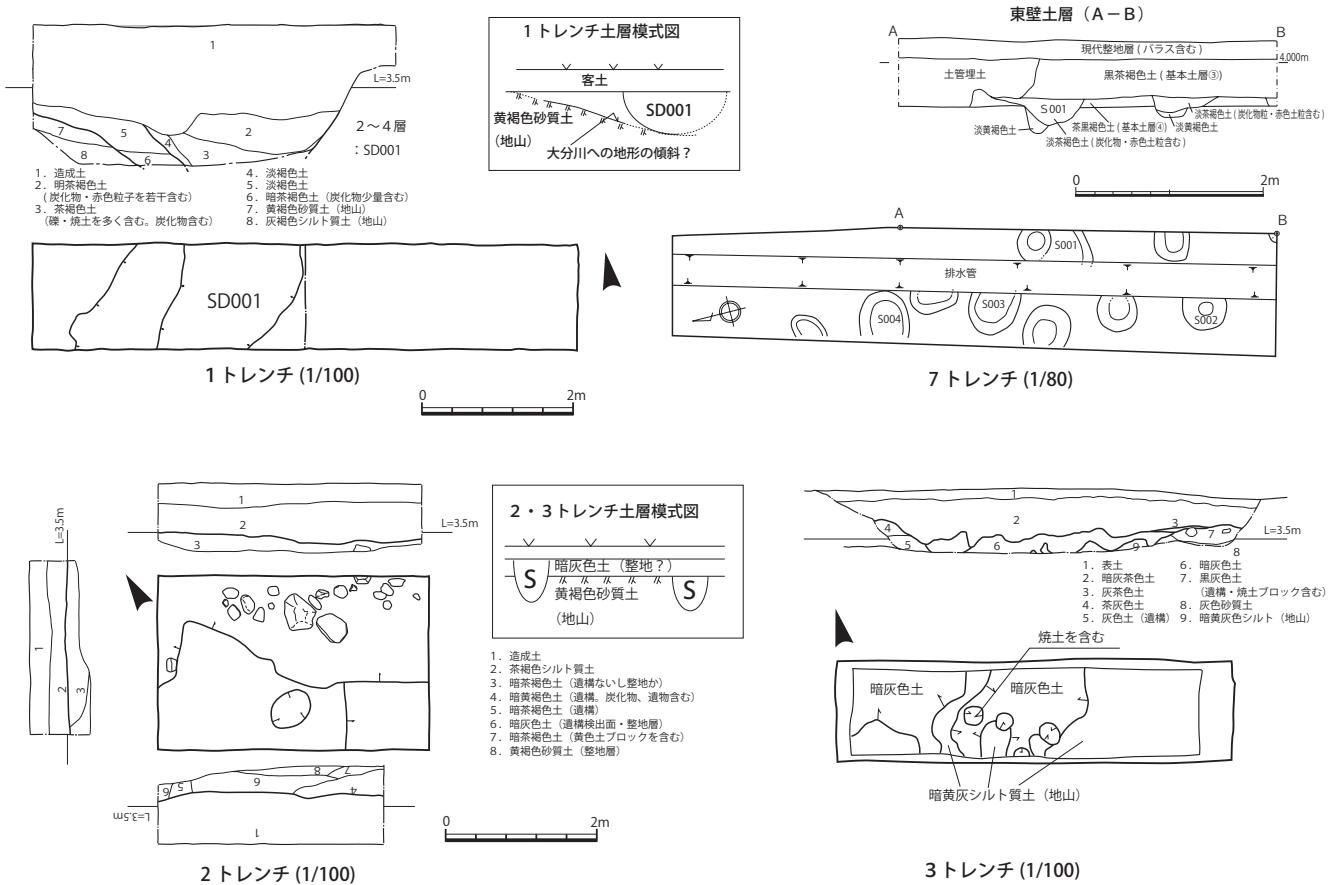
トレンチを、南側に第4トレンチ～第6トレンチを設定した。遺構の有無を目的とした確認調査であったため、調査中にトレンチ位置を、国土座標中にはめ込む作業をおこなっておらず、トレンチ位置の精度は建物や土地境界から割り出した大まかなものである。調査面積は、合計128.2m<sup>2</sup>である。



第53図 位置図 (1/5000)



第54図 調査位置詳細図 (1/1000)



第55図 1～3、7トレーニング平面図・土層図

結果として、青磁夜学型器台や中国南部産の焼締陶器を含む16世紀代後半代の遺構を確認し「府内古図」に描かれた段階の遺構が良好な形で遺存していることが確認できた。

## 2. 調査概要

### A. 主要遺構

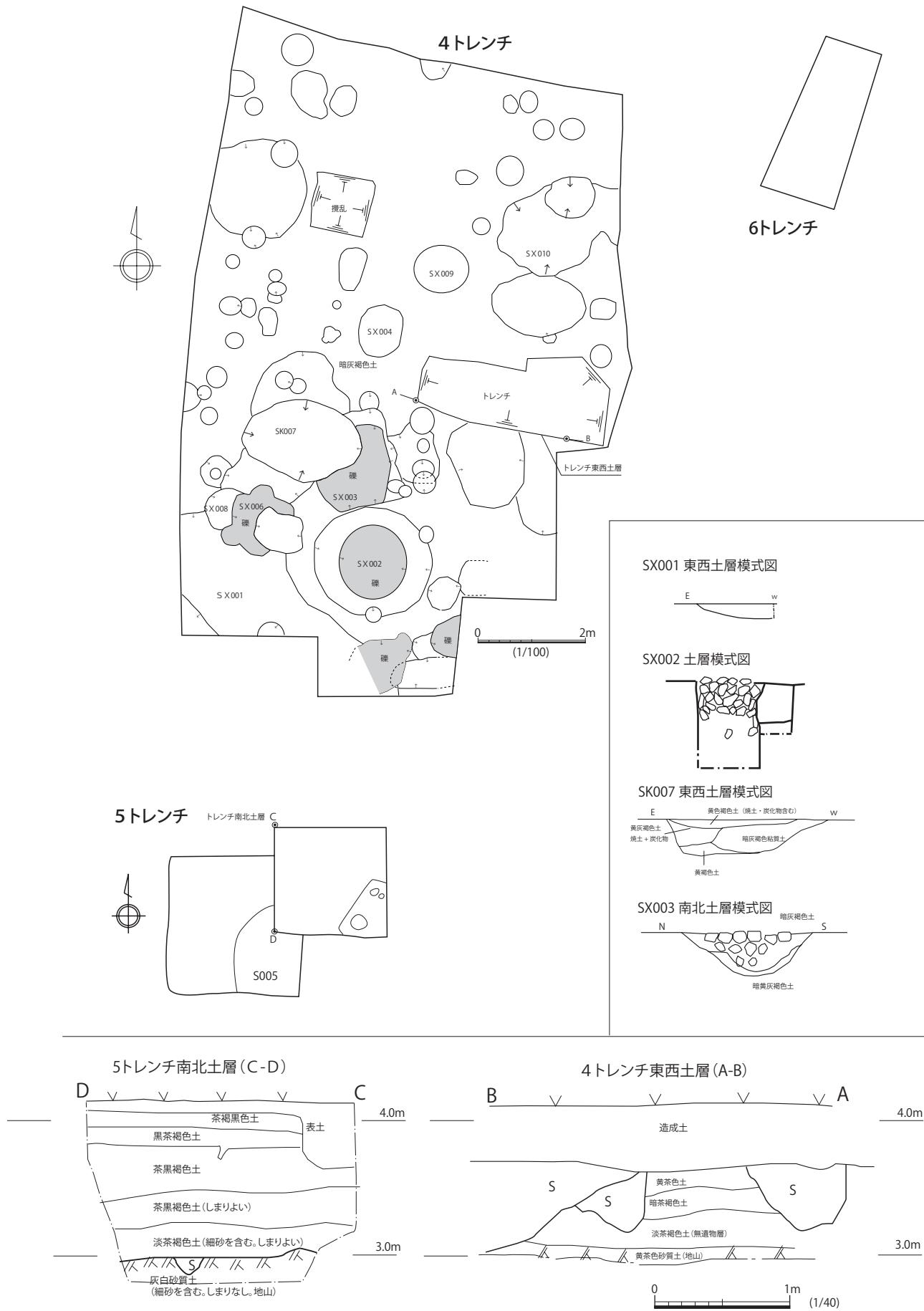
#### 【北側の調査区】(第55図)

① 1トレーニング トレーニング規模は東西7.2m×南北1.4mである。トレーニング東側から地山が東方向に傾斜しており、傾斜面に堆積した土層を切って、SD001とした幅1.6m、深さ0.7m以上の溝状遺構を検出した。溝からは、16世紀後半の京都系土器が出土した。地山面が傾斜する方向には大分川河川敷があり、地山の傾斜した状況は、河川による地形の浸食の可能性がある。

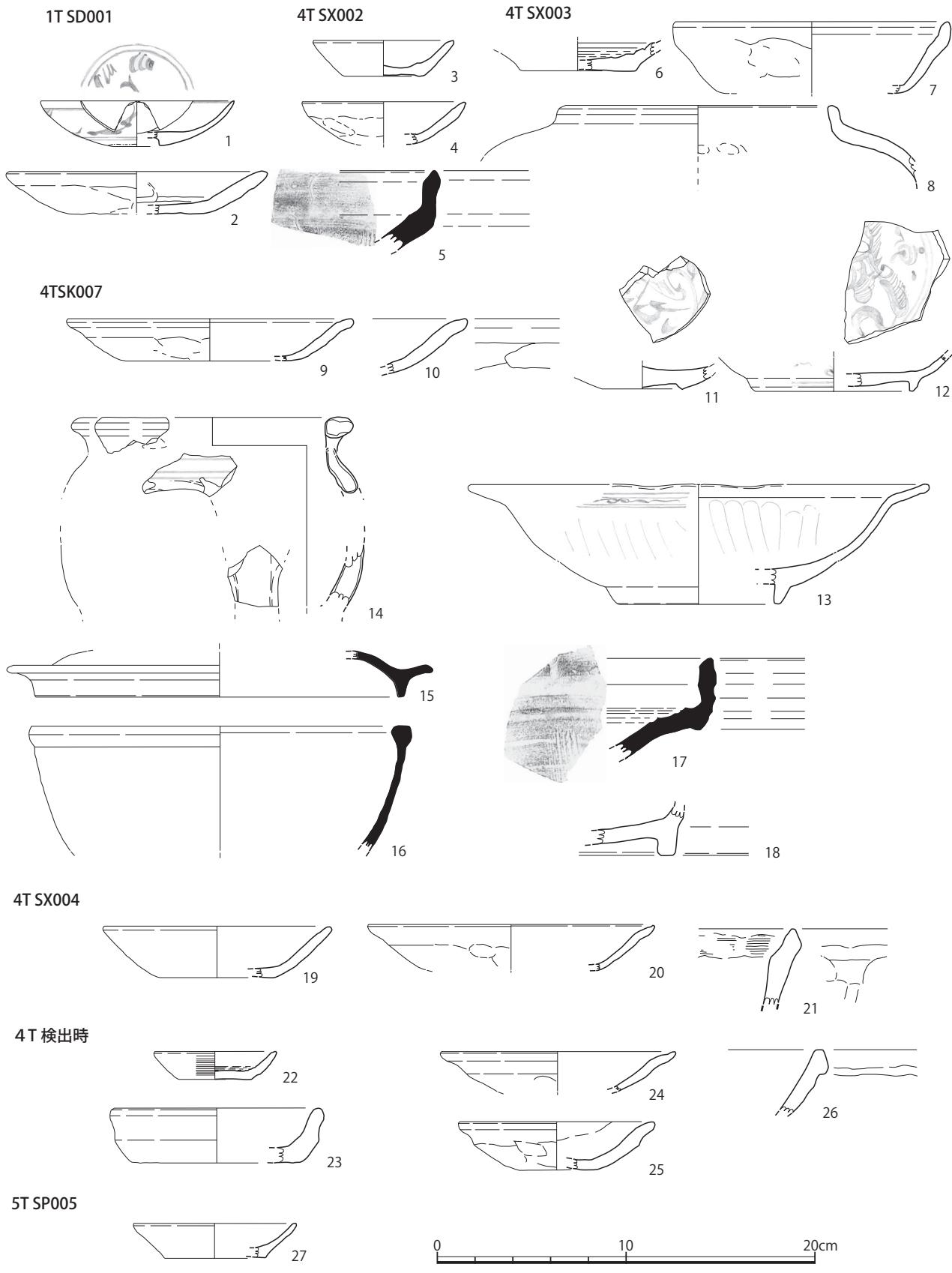
② 2トレーニング トレーニング規模は東西3.62m×南北2.4mである。調査区中央より北西方向に大型の遺構ないし、遺物包含層の堆積が確認でき、層中からは大・小の凝灰岩の礫が出土したが、その配列に規則性はない。この層に帰属する遺物はないが第2トレーニングの位置は、南北方向の町屋を想定すると裏手にあたることから、16世紀代の大型遺構か。

③ 3トレーニング 戦国時代の東西道路を想定している現道に沿って、設けた東西5.2m×南北1.3mのトレーニングである。遺構面は2面確認でき、「暗灰色土」の上面から形成される遺構と、地山である「黄褐色砂質土」の上面より形成される遺構がある。トレーニング内ではピットを数基確認したが、遺構の時期を示す遺物は出土していない。

④ 7トレーニング 戦国時代の東西道路想定地点より、約10m北側に設けた東西1.2m×東西6.4mのトレーニングである。「茶黒褐色土」の上面よりピットを数基確認している。遺構の帰属時期を決定する遺物はないが3トレーニング同様ピットで構成されるエリアであることから、東西道路にとりつく町屋の一部である可能性がある。



第56図 4～6トレンチ平面図・土層図



第57図 出土遺物 (1/3)

## 【南側の調査区】(第56図)

④ 4 トレンチ 戦国時代の東西道路を想定している現道の南側に設定した。南北方向にやや長く設定した方形のトレンチで、35m<sup>2</sup>を測る。トレンチの北側半分はピットを主体とした遺構が展開するが、南側では、トーンで

しめしたような（第56図）埋土中に礫を多量に含んだ遺構や調査区内で完結しない大型遺構の展開が確認された。ピットや大型遺構の埋土中には焼土を含んだものもある。土層断面（A-B）では、「黄茶色土」の上面より遺構が形成され、「黄茶色土」下層には遺物を含んだ「暗茶褐色土」が面的に堆積している。5トレンチの土層断面（C-D）では地山直上から遺構を確認していることから「淡茶褐色土」を含めたこれらの層は整地の可能性が高く遺構面は2面以上存在すると推測される。調査では、集石遺構の性格や大型遺構の性格を把握するために一部掘り下げを行い、16世紀後半の遺物を確認した。

#### 集石遺構（第56図）

SX002 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.2m、南北1.4mの円形遺構。遺構を掘り下げると、上面に厚い礫層が確認された。外側には東西2.1m、南北2.0mの円形プランの遺構と切り合っているが、土層観察からは、外側の遺構が裏込めとなると考えられる（土層模式図参照）。遺構の完掘を行っていないので遺構の性格は断定できないが、礫群は遺構の廃絶時に投棄されたものと考えられる。

SX003 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.3m、南北1.4mの遺構で、SK007に切られる。土層観察からはレンズ状の底部を持つ遺構に礫が詰まった状態で堆積する。

SX006 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.2m、南北1.1mの遺構。SX003と同様多量に礫を埋土に含む。

これらの礫を含んだ遺構群については、調査の初期は建物の基礎（根締め石）の可能性を考えていたが、遺構の分布からは考えにくい。また、SX002のように、大型遺構の廃棄時に投棄した礫群もあり、多くは中世大友府内町跡の他地点でみられるような礫の廃棄を目的とした遺構である可能性が高い。

#### 土坑（第56図）

SK007 SX008を切って形成される東西2.2m、南北1.5mの楕円形状の遺構。埋土には焼土や炭化物を多量に含む。唯一完掘した遺構であり16世紀後半の遺物が多量に出土した。

#### 性格不明遺構（第56図）

SX001 暗灰褐砂質土が埋土で、黄褐色ブロック・炭化物・焼土粒を若干含む大型遺構。

SX004 黄灰色砂質土が埋土で、砂質が強く土中より貝殻（イボキサゴ：大分での俗称「ヤサラ貝」）が大量に出土した。

⑤5・6トレンチ 5トレンチは、4トレンチの約3m南に設定したトレンチで、SX005とした大型遺構や焼土を含んだピットを検出した。6トレンチは4トレンチの東側に設定したトレンチである。遺構は検出されなかった。

### B. 出土遺物（第57図）

#### 1トレンチ出土遺物

SD001出土遺物（1・2）1は、青花皿。小野C群。2は、京都系土師器

#### 4トレンチ出土遺物

SX002（集石遺構）出土遺物（3～5）3は、土師器の小型の壺。体部は外側に開き色調は赤褐色である。4は京都系土師器皿。5は備前擂鉢口縁部片。

SX003（集石遺構）出土遺物（6～8）6は、内面に工具によるロクロ目痕を明瞭に残す壺の底部。色調は赤褐色。7は大ぶりの京都系土師器椀。8は、土師質土器の釜である。

SK007出土遺物（9～18）9・10は京都系土師器皿。11～13は青花。11は皿で小野C群。12はB×E群の皿。13はF群の皿である。14は青磁で、夜学型器台。体部には2パターンの透かしがあり、頸部にも透かしを施す部分がある。15・16は中国南部産焼締陶器で、15は蓋と考えられ、かえりをもつ。16は口縁部が玉縁状となる鉢である。17は備前焼擂鉢。18は、瓦質土器の火鉢底部。高台をもつ。

SX004出土遺物（19～21）19は、土師器壺。20は京都系土師器皿で、薄手のものである。21は土師質土器鍋の口縁部

検出時出土遺物（22～26）22は土師器皿で、外面に横方向のミガキをもつ。23は箱形の体部をもつ非常に厚

手の土師器坏である。24は薄手の京都系土師器皿である。25は京都系土師器皿。26は土師質土器の鍋口縁部片である。

### 5 トレンチ出土遺物

SP005 (27) 土師器小皿である。

### 3. まとめ

今回調査を行った地点はこれまで、発掘調査が全く行われていなかった辻之町筋の町屋（両側町）想定部分に位置する。調査の結果、16世紀代の遺構や遺物を確認した。掘削した遺構はわずかであったが、各トレンチで検出された遺構の種類とその分布をみると、北側の調査区では推定東西道路より15～20m北ではピットを主体とした遺構が確認され（3・7トレンチ）、これより北側では大型遺構が確認される（2トレンチ）。南側の調査区では、推定東西道路より約10m南付近でピットを主体とした遺構が確認され、これより南側では大型遺構が確認できる（4・5トレンチ）。これらの遺構分布の傾向から「表」と「裏」の関係をもつ町屋的なエリアと推測される。

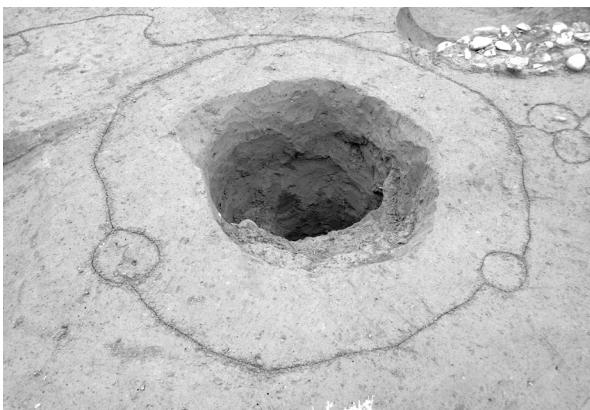
（長 直信）



第58図 4トレンチ南半遺構掘削状況（北西から）



第59図 4トレンチSX003（北西から）



第60図 4トレンチSX002（北西から）



第61図 2トレンチ遺構検出状況（南東から）

# 上野遺跡群第11次調査（確認調査・立会調査）報告

調査面積 181m<sup>2</sup>

調査期間 06.06.14・6.21・10.02～10.04

地域

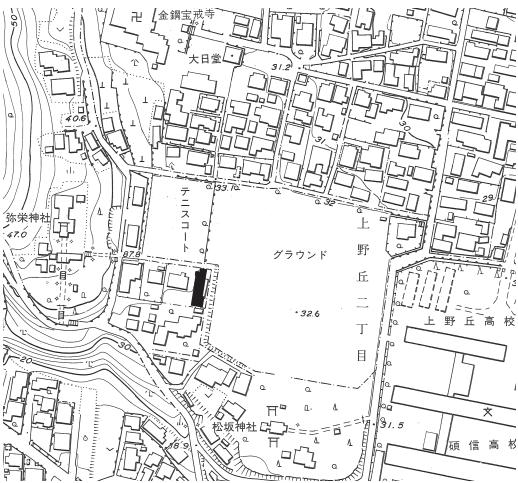
A

調査担当 若松善満・山下 桂・羽田野裕之・長 直信

調査対象地は、大分川の左岸に形成された標高約35mの上野台地上に位置し、平安時代後期の文献『宇佐八幡宮神領大鏡』に「高国府」の地名が認められることから、古国府地区とならぶ有力な豊後国府推定地と考えられている。そのなかでも昭和62年に刊行された『大分市史』によれば、今回の調査地は、上野台地の地籍図の検討から豊後国衙推定域の西側周辺地にあたる。

集合住宅建設に伴い平成18年6月14日・21日に確認調査を行った結果、長軸1.2m、短軸0.85m、深さ0.55～0.7mの平面形状が隅丸長方形を呈する遺構が約0.6mの間隔をもいて2基検出された。当初、これらの遺構は柱痕が検出されなかったこともあって、土坑もしくは土壙墓として認識されていた。

その後、10月2日から4日にかけて建物基礎工事の掘削の際に立会を行った結果、同様な遺構がさらに8基並んで検出され、大型の掘立柱建物跡と明確に認識された。この大型掘立柱建物跡（SB001）は、東西2間以上、南



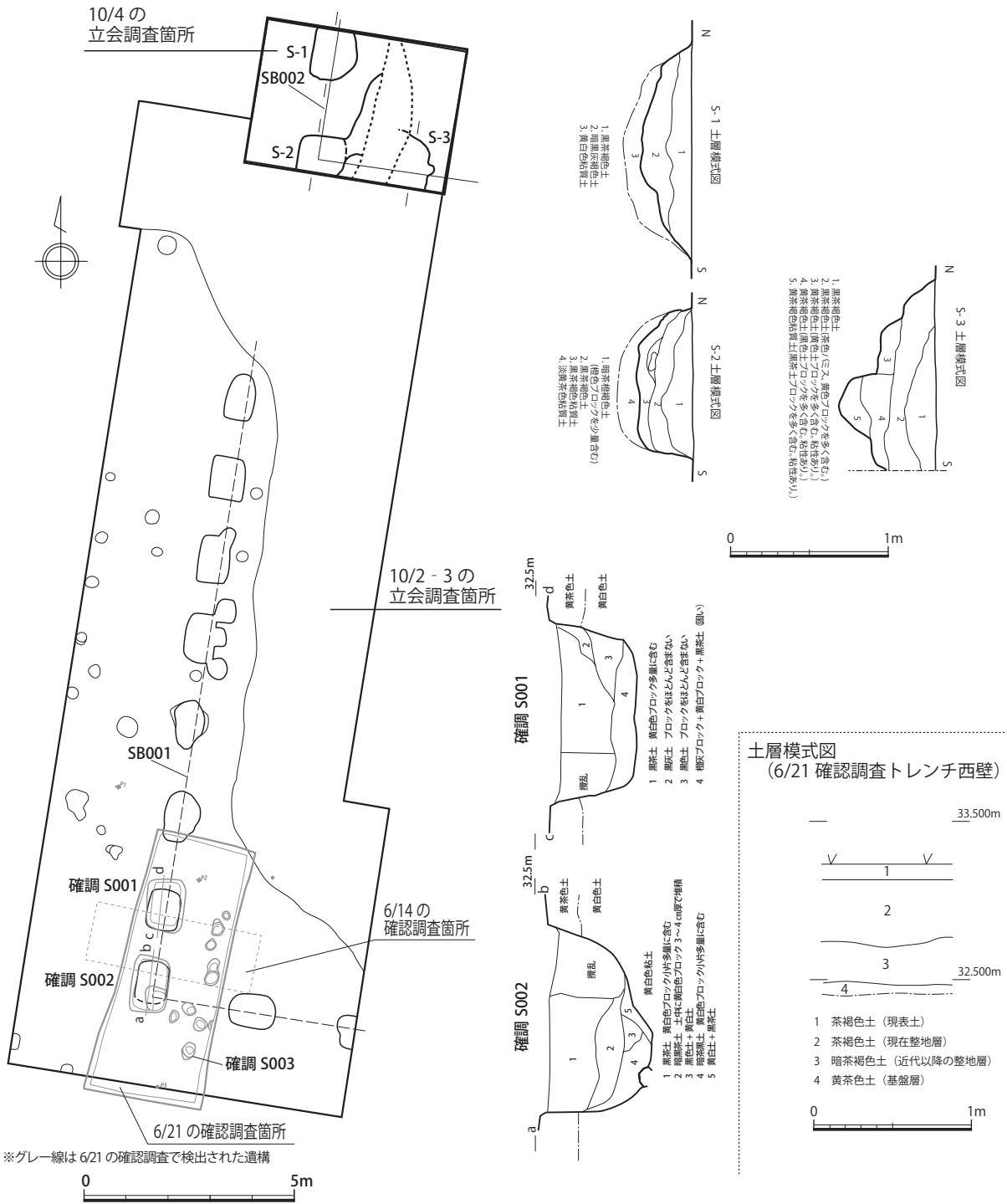
第62図 調査位置図 (1/5000)



※座標値は旧日本測地系

なお、調査区の位置は、建物の設計図に記載された土地境界線をもとに1/2500都市計画図上に当てはめたものであり、精度は確実なものでない

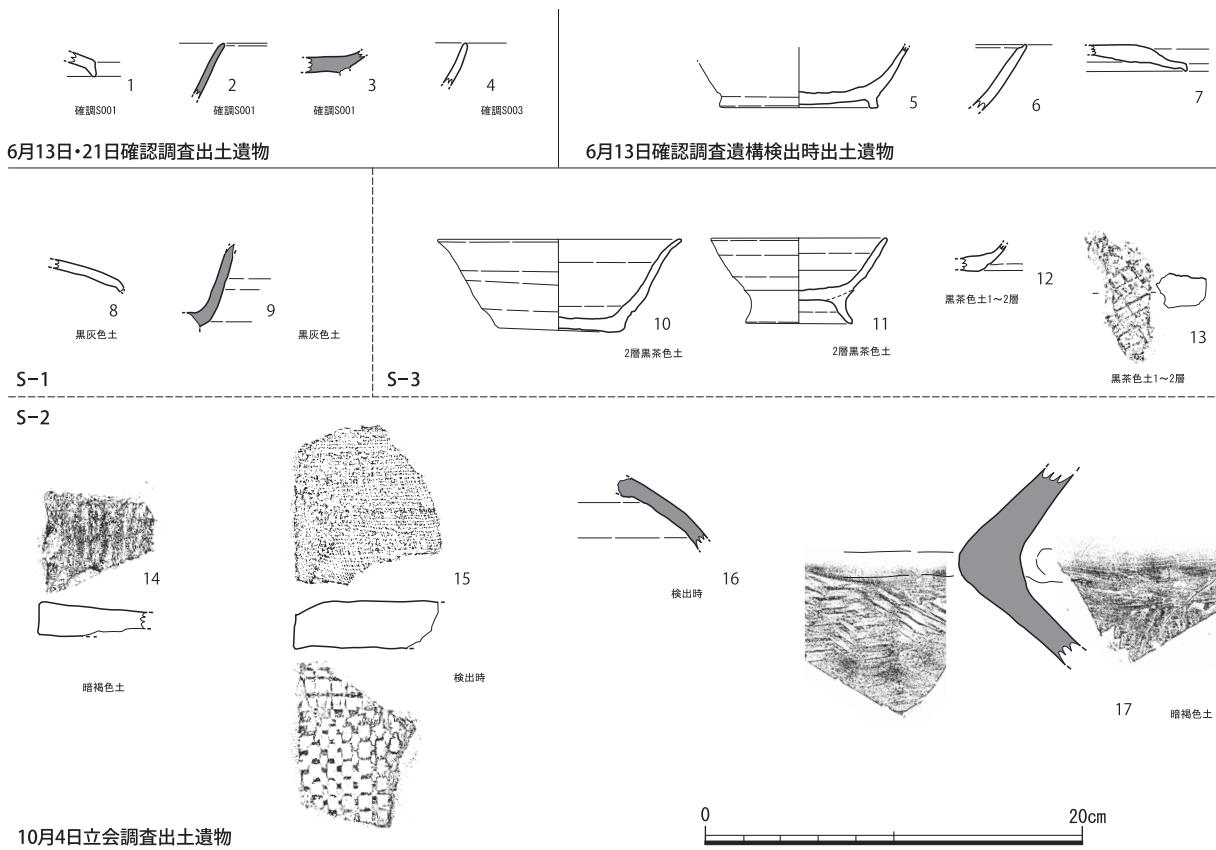
第63図 調査位置詳細・検出遺構配置図 (1/500)



第64図 遺構配置図 (1/150)・柱穴土層断面図 (1/40)・土層模式図

北7間以上の南北方向の建物跡で柱穴の平面形状は隅丸方形であり、いずれも長辺が1mを越える大型のものである。立会時には遺構の掘り下げを行っていないため、詳細な年代は不明ながらも、遺構検出時に出土した土器の帰属年代から古代の建物跡と判断される。その西側には調査区に沿って南北方向に並ぶ5基の柱穴列が確認されており、大型掘立柱建物跡との関連が示唆される。なお、調査時には国土座標を使用した正確な測量を行っていないが、建物設計図面と周辺の地割から復元すると、SB001の主軸方位はG.N. -9° - Eとなる。

また、前述の建物 (SB001) の北側にも大型の掘立柱建物跡が存在する可能性がある (SB002)。調査区北東隅で確認された3基の大型柱穴がそれで、工事により遺跡に影響を及ぼすおそれがある範囲にあたるため、これら遺構の掘り下げを実施した。柱穴 (S003) からは土師器壊が出土しており、埋土の状況から、柱を抜き取った



第65図 出土遺物 (1/4)

後に土師器坏を埋置し、埋め戻された可能性が高い。出土土器の帰属年代から9世紀後半頃に比定される。

#### 確認調査出土遺物

##### 確認S001出土遺物 (第65図1～3)

1は土師器蓋で、端部が短く折れる。2・3は須恵器で、2は坏ないし椀の口縁部片。3は端部を欠損する高台をもつ椀で、外面腰部には回転ヘラケズリ痕が確認できる。

##### 確認S003出土遺物 (第65図4)

4は土師器の坏。やや内湾気味になることから、須恵器模倣の形態ではなく在地の土師器坏。内外面にミガキは確認できない。

##### 確認調査遺構検出時出土遺物 (第65図5～7)

5～7は土師器で、5は椀で台形状の高台をもつ。磨滅のため調整は不明瞭であるが、体部内面にミガキを施した可能性がある。内面底部は不定方向のナデを施す。6は、口縁端部内面に凹状の窪みをいたした豊後形坏で、内外面に横方向のミガキが確認できる。7は、体部が「S字」状に屈曲するタイプの蓋で、口縁端部を僅かに下方に折る。磨滅のため調整は不明瞭であるが、体部内面にミガキを施した可能性がある。角閃石を多量に含む赤褐色の色調を呈す。

#### 立会調査時出土遺物

##### S-1黒灰色土 (第65図8、9)

8は土師器の蓋で、口縁端部を欠損する。内外面に横方向のミガキを施す。9は、須恵器大型の坏の体部片か。外面腰部に回転ヘラケズリ調整が確認できる。胎土は精緻であり、体部外面には丁寧な回転ナデを施す。

##### S-3黒茶色土 (第65図10～13)

10～13は土師器で、10は厚手の底部をもつ坏。体部の立ち上がり部分に内外面とも強い回転ナデを施す。底

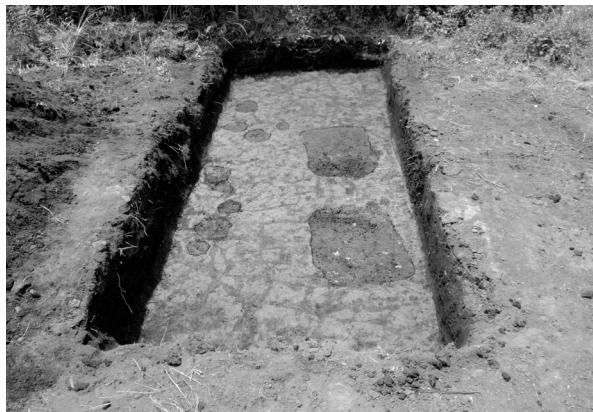
部はヘラ切り離し痕が観察できる。器壁は非常に荒れており調整不明瞭である。胎土は粗く2mm程度の白色砂粒を多く含む他、角閃石や白色・赤褐色砂粒を多く含む。暗赤褐色の色調を呈す。11は、細く長い高台をもつ椀。高台は2工程に分けて成形されており、端部は非常に薄く仕上げる。胎土は2mm程度の白色砂粒を多く含むが角閃石は少ない。淡黄白色の色調を呈す。12は壺の底部片。腰部外面は段をもつ。13は瓦片。5mm四方の格子目タタキを施す。須恵質に焼成され、暗灰色を呈する。

S-2 (第65図14～17)

14・15は平瓦片。1.2cm程度と薄い。外面の調整は磨滅？のため不明瞭であるが、縄目タタキの可能性がある。須恵質焼成で暗灰色を呈する。15は、5mm×7mm程度の長方形の格子目タタキを施す。内面には布目が確認できる。暗黄灰色を呈し、焼成は不良。16・17は須恵器で、16は瓶の肩部片。外面には自然釉がかかり光沢をもつ。他の須恵器と比較して堅緻に焼成され、胎土は緻密である。肩の張らない瓶形態と考えられる。感覚的ではあるが、自然釉のかかり方や調整の丁寧さ、胎土から搬入品の可能性がある。内面灰色、外面は黒みがかった暗灰色を呈す。17は、大甕片。内面に同心円状の当て具痕、外面には格子目状のタタキ痕が観察できる。色調は、外面暗灰色、内面淡灰色を呈する。頸部には接合痕が観察できる。

今回の調査成果としては、上野台地上の地割の方向に沿うような形で古代の大型建物跡が確認されたことが特筆される。国衙推定域の西側周辺部での発見であり、その関連性が注目される。

(塩地・羽田野・長・高畠)



第66図 6/21確認調査時遺構検出状況（北から）



第67図 10/4遺構検出状況（南西から）



第68図 10/4遺構検出状況（北から）



第69図 S-3土師器壺出土状況

## 第4章 平成21年度の教育普及活動

### ①『戦国時代と大友宗麟』

#### －戦国・大分のまち「府内」の姿』展

開催期間：平成21年7月21日（火）～8月14日（金）

開催場所：九州電力大分支店社屋

来場者数：1,964人



第70図 九州電力大分支店内での展示のようす

### ②大友氏遺跡フェスタ2009企画展

#### 「戦国時代の世界－大友宗麟とそのライバル達－」

開催期間：平成21年10月2日（金）～10月12日（月）

開催場所：大分銀行赤レンガ館ローンプラザ支店内

大友宗麟の活躍した戦国時代とはどのような時代であったのか、また、九州の覇権争いでライバルとなった戦国武将達についてパネルで紹介した。

さらに、戦国時代に繁栄した戦国都市「府内」のまちの様子をパネルや発掘品を使って展示解説をおこなった。

### ③大友氏遺跡フェスタ2009

開催日：平成21年10月3日（土）

#### ○大友府内旧跡めぐり

時間：10:00～11:30

場所：大友氏遺跡・万寿寺 など

参加人数：96人

市民に大友氏遺跡について身近に感じてもらう機会とするため、戦国時代のまちにあった大友氏の屋敷跡や昔の面影を残す寺社などのゆかりの地を職員が解説を行いながら巡った。

#### ○講演会「大友宗麟とその時代」

時間：12:30～16:00

場所：大分銀行赤レンガ館大ホール

参加人数：164人

講師：本多博之（広島大学大学院文学研究科准教授）

「毛利元就と大友宗麟」

八尾隆生（広島大学大学院文学研究科准教授）

「ベトナム陶磁とその故郷」

#### ○パネルディスカッション 「大友宗麟とその時代」

コーディネーター：櫻井成昭（大分県立歴史博物館）

講演会では広島大学から講師を迎える、大友宗麟と同時代に活躍した毛利元就をはじめとする戦国大名の動向やベトナムなどの国と南蛮貿易によって交易したことがらを通じて、当時の様子を広く市民に紹介した。



第71図 赤レンガ館での展示のようす



第72図 旧跡めぐりのようす



第73図 パネルディスカッションのようす

また、パネルディスカッションでは会場からの質問に講師が答える形式をとり活発な論議がおこなわれた。

#### ④大分市歴史資料館第28回特別展 横尾貝塚国史跡指定記念特別展

##### 「山ん縄文と海ん縄文—縄文人のムラのかたちー」

開催期間：平成21年7月10日（金）～9月6日（日）

開催場所：大分市歴史資料館　　来場者数：6,106人

日本各地のムラの名産品とマツリの道具を展示し、横尾貝塚が姫島の黒曜石を求めて近辺のムラ人達が集まる大きなムラの遺跡であることを解説した。また、ムラの立地に視点をあて、九州と関東平野のムラの様子をイラストで復原し、横尾貝塚のムラの様子を紹介した。



第74図 大分市歴史資料館での展示のようす

#### ⑤横尾貝塚国史跡指定記念講演会

##### 「世界的にみた縄文文化と横尾貝塚」

講師　　：岡村道雄（国立文化財機構奈良文化財研究所　名誉研究員）

開催日時：平成21年8月23日（日）

開催場所：大分市植田市民行政センター　　参加人数：140人

世界に数多く残された貝塚のなかで、家族の墓を貝塚につくる風習は、東北アジア地域にしかない文化である。貝塚はすべてのものに生命があり再生すると信じた縄文人が食べ物や壊れた道具、家族の亡き骸を貝塚に置き、子孫とムラの繁栄を願う聖なる場所であった。また、ムラをつくり定住生活をはじめた縄文人は、生活に必要な物を調達できる社会の仕組みをつくりあげた。それは、見返りを期待することなく分け与える平等互恵の精神を持っていた縄文人だからこそ実現した社会であった。

横尾貝塚は、石の道具をつくる材料としてブランドの姫島の黒曜石が大量に運び込まれたムラの遺跡であり、さらに縄文の里山も残されている国の重要な文化財であることを強く認識させる講演となった。



第75図 記念講演会のようす

#### ⑥横尾貝塚国史跡指定記念イベント

##### 「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」

開催日時：平成21年11月23日（月・祝日）

開催場所：国指定史跡 横尾貝塚　　参加人数：211人

国指定史跡横尾貝塚の場所と史跡に残された縄文の森を紹介するため、その様子が良く分かる場所にチェックポイントを設置し、ウォークラリー形式で、講師による解説を行った。また、石の斧を使った木こり体験や火おこし体験などを行い、縄文人の暮らしについて学習した。



第76図 木こり体験

## ⑦海部古墳資料館特別展 タイムトラベラー 2009

開催期間：平成21年10月20日（火）

～11月23日（月・祝日）

開催場所：海部古墳資料館 来場者数：2,822人

「古の海部のまつり～3000年前に、それは砂浜ではじまった。」と題し、海部地域におけるマツリのはじまりとその様子について紹介した。砂丘の頂きに土器を並べて行われたマツリの様子を再現し、実際に使われた土器を展示した。マツリには、普段使っている土器と区別するために、赤く塗り装飾で飾り立てたり、穴を開けたり底を打ち割ったものをはじめ、日常の土器と同じ形で小さくつくったミニチュア土器と呼ばれるものや、供物を供える台付の鉢などが使われたことをパネルや遺物を用いて解説した。



第77図 海部古墳資料館での展示

## ⑧大分市文化財便り2009年度号の発行

刊行日：平成21年7月1日



第78図 文化財たより2009年度号の内容

文化財だより2009年度号は、横尾貝塚国史跡指定記念特別展「山ん縄文と海ん縄文－縄文人のムラのかたち－」をテーマとした。特別展で展示する遺物の写真やテーマごとの概要を紹介し、理解を深めてもらうようにした。

## ⑨大友氏遺跡体験学習館

大友氏遺跡体験学習館は平成20年4月25日に開館し、出土品の展示や出土品を触れたりできる各コーナーを設けると共に映像を使った遺跡の解説などもおこない、中世の歴史を学び、調べ学習がおこなえる施設になっている。

開館2年目となる平成21年度は個人での見学者、団体での予約見学者等多岐にわたる利用があった。団体の内、学校関係では大友氏遺跡に関する出張授業や遠足にあわせての施設見学、体験発掘などの利用が見られた。



第79図 体験館内の活動



第80図 発掘体験



第81図 義統かぼちゃ苗植え祭

自主事業では年6回の歴史講座や南蛮菜花園でのかぼちゃの栽培、犬のお守り作りや大友宗麟のペーパークラフトを作る体験工房を開催した。

(塩地・石川)



第82図 収穫した義統かぼちゃ

#### 大友氏遺跡体験学習館

##### ◎施設概要

◆開館時間 9時～17時

◆休館日

第1月曜日の翌火曜日と第2～5月曜日（祝日の場合は翌日）

祝日の翌日（土・日曜の場合は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）

◆交通機関 JR大分駅より徒歩30分

大分バス（元町・富岡・滝尾循環／元町経由古国府循環）東元町下車徒歩3分

◆入館料 無料



第83図 大友氏遺跡体験学習館の外観

## 第5章 受贈図書目録

北海道	(財) 北海道埋蔵文化財センター 財北海道埋蔵文化財センター調査年報22	
宮城県	仙台市教育委員会 仙台城9 - 平成20年度調査報告書 - 仙台城跡 - 追廻地区遺構確認調査 - 仙台城跡登城 第2次発掘調査報告書	仙台城本丸跡1次調査 第1分冊 本文編 仙台城本丸跡1次調査 第2分冊 遺構編 仙台城本丸跡1次調査 第3分冊 出土遺物編 仙台城本丸跡1次調査 第4分冊 石垣図版編
山形県	山形市教育委員会 山形城三の丸 (城北遺跡)	山形市埋蔵文化財調査年報 (平成19年度)
福島県	福島大学行政政策学類考古学研究室 庚申塙古墳2 福島県本宮市庚申塙古墳発掘調査報告書	
郡山市教育委員会	蒲谷古墳群 - 第8・9次調査報告 - 清水古台遺跡 - 総括報告2006 -	上江遺跡 郡山市埋蔵文化財分布調査報告15 郡山市埋蔵文化財分布調査報告16
茨城県	つくば市教育委員会 つくば市内遺跡 - 平成14年度発掘調査報告書 - つくば市内遺跡 - 平成16年度発掘調査報告書 - つくば市内遺跡 - 平成17年度発掘調査報告書 -	史跡小田城跡 - 第40次調査 (周辺曲輪跡確認調査II) 概要報告 - 史跡小田城跡 - 第45次調査 (周辺曲輪跡確認調査II) 概要報告 - 史跡小田城跡 - 第48次調査 (周辺曲輪跡確認調査II) 概要報告 -
石岡市教育委員会	須塙塙内遺跡 佐久松山遺跡	国分遺跡 市内遺跡調査報告書 第4集 常陸国衙 - 国府 - 菩司の調査 -
筑波大学人文社会科学研究所	筑波大学先史学・考古学研究第20号	
栃木県	足利市教育委員会 掘り出された足利の歴史 平成19年度 足利市埋蔵文化財発掘調査パンフレット	ようこそ足利公園古墳群へ
千葉県	国立歴史民俗博物館 共同研究 戦争体験の記録と語りに関する資料論的研究 共同研究 神仏信仰に関する通史的研究 共同研究 繩文・弥生集落遺跡の集成的研究 共同研究 古代における生産と権力とイデオロギー	国立歴史民族博物館研究報告 第150集 国立歴史民俗博物館研究報告 第154集 国立歴史民俗博物館年報5 (2008年度) 「三国志」魏書東夷伝の国際環境
(財) 山武郡文化財調査センター	研究ノート山武 特別号	
東京都	(財) 日本城郭協会 日本100名城公式ガイドブック	
お茶の水女子大学博物館学研究室	お茶の水女子大学博物館学研究室 大塚町遺跡 第4地点	
国分寺市教育委員会	武藏国分寺跡発掘調査概報34 平成19年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報	史跡武藏国分寺跡 (僧寺北東地域) 保存整備事業報告書 国指定史跡武藏国分寺 - 平成17年度保存整備事業に伴う事前確認調査 - 国指定史跡武藏国分寺 - 平成19年度保存整備事業に伴う事前確認調査 -
昭和女子大学国際文化研究所	ペトナム北部の一括出土銭の調査研究	
世田谷区立郷土資料館	萩原翁コレクション - 藝に遊ぶ -	世田谷叢書第四集
東京都埋蔵文化財センター	多摩ニュータウン	研究論集 X X IV
八王子市郷土資料館	特別展図録 北条氏照と八王子城	
府中市文化スポーツ部	府中市埋蔵文化財調査報告書 第43集 武藏国府の調査38	武藏野国府関連遺跡調査報告40
文化庁	第14回 定期研修会報告集	
マイツ出版	九州古代遺跡ガイド	
早稲田大学考古学会	古代 第122号	
神奈川県	逗子市教育委員会 埋蔵文化財緊急調査報告書6	国指定史跡長柄桜山古墳群第1号墳発掘調査概要報告書 (平成18年度~平成20年度)
川崎町教育委員会	荒巻文書目録	西川崎遺跡・鎮西原遺跡
新潟県	上越市教育委員会 平成20年度刊行 史跡春日山城保存管理計画書	
新潟県立歴史博物館	新潟県立歴史博物館 年報第9号	
胎内市教育委員会	市内遺跡Ⅲ	下町・坊城遺跡 第14次 黒川氏城館遺跡群IV
富山県	(財) 富山県文化振興財団 とよま発掘だより - 平成20年度発掘調査速報 -	
高岡市教育委員会	市内遺跡概報XⅦ 二上谷内遺跡調査概報 寺谷内遺跡・寺谷内横穴墓調査概報 常国遺跡調査報告	石塚遺跡調査報告 下佐野遺跡調査報告 山園町遺跡調査報告 II 東木津遺跡調査報告 市内遺跡調査概報 XⅦ
砺波市教育委員会	砺波市遺跡詳細分布調査報告書3	砺波市遺跡詳細分布調査報告書4 砺波市遺跡詳細分布調査報告書5
射水市教育委員会	射水市内遺跡発掘調査一覧 - 平成19年度 - 針原西遺跡発掘調査報告	高島A遺跡発掘調査報告書 二口油免遺跡発掘調査報告書(4) 本江畑 I 遺跡発掘調査報告書(2)
石川県	小松市教育委員会 小松市内遺跡発掘調査報告書V	額見町遺跡 IV
野々市町教育委員会	栗田遺跡 (第12・15次) 徳用クヤダ遺跡 I	栗田遺跡 (第16次) 三納ニシヨサ遺跡 (第3・5次)
福井県	福井県総務部 御廊下橋復元整備事業報告書	
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	菜山崎遺跡II 法土寺遺跡I 法土寺遺跡II 芝崎遺跡 音谷鳥帽子遺跡	中角遺跡2 - I 区下層編 - 林・藤島遺跡泉田地区 本文編・写真図版編 志田神田遺跡 輪葉山城跡・黒駒遺跡 福井城跡 - 北陸新幹線福井駅建設事業に伴う発掘調査 - 年報23 平成19年度

岐阜県	岐阜市教育委員会	岐阜城 - 織田信長居館伝承地の確認調査及び岐阜城跡の遺構分布調査 -	平成19年度 岐阜市市内遺跡発掘調査報告書
	大垣市教育委員会	東町田遺跡	大垣市埋蔵文化財調査概要 平成19年度
	関市教育委員会	国指定史跡 弥勒寺官衛遺跡群 弥勒寺跡	弥勒寺遺跡群 弥勒寺西遺跡
静岡県	(財)浜松市文化振興財団	上新屋遺跡 正業寺遺跡 梶子遺跡12次 高塚遺跡 鳥居松遺跡6次	桓武西宮遺跡8次 舞阪町天白遺跡 四ツ池古墳群2次 西畠屋遺跡2次 坊ヶ跡遺跡2次 東前遺跡Ⅲ
	伊豆の国市教育委員会	垂山の文化財 垂山町埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 垂山町埋蔵文化財調査報告書Ⅱ	伊豆の国市埋蔵文化財調査報告Ⅰ 伊豆の国市埋蔵文化財調査報告Ⅱ 伊豆の国市埋蔵文化財調査報告Ⅲ
	磐田市教育委員会	加茂東原Ⅰ遺跡発掘調査報告書 堂山3号墳発掘調査報告書	向笠西原古墳群発掘調査報告書 平成20年度 特別史跡遠江国分寺跡発掘調査概報
	袋井市教育委員会	道ヶ谷A横穴群	平成20年度 挂之上遺跡66・69・71・78 - 写真図版編 -
愛知県	愛知県教育委員会	愛知県文化財年報 (平成20年度)	
	愛知学院大学文学部歴史学科	呂西遺跡の発掘記録	
	豊川市教育委員会	史跡三河国分寺跡整備基本構想	天井平遺跡
	豊田市教育委員会	平成19年度 市内遺跡発掘調査事業概要報告書 拳母城 (七州城) 踪Ⅱ	郷上遺跡 高橋遺跡 曾根遺跡
	豊田市郷土資料館	特別展図録塙の歴史と民俗 ～三河の塙生産と交易～	
	名古屋市見晴台考古資料館	埋蔵文化財調査報告書59 朝日遺跡 (第16次・第17次) 尾張元興寺跡 第13次発掘調査報告書 高藏遺跡 第56次発掘調査報告書 志段味古墳群 - 平成19・20年度歴史の里計画地内埋蔵文化財調査の概要 - 平手町遺跡 第6次発掘調査報告書	熱田神宮内遺跡 - 新浜殿及びその周辺の発掘調査報告書 - NN319号群発掘調査報告書 名古屋市見晴考古資料館年報26 堀越町遺跡 西環境事業所改築に伴う堀越町遺跡第1次発掘調査報告書
	名古屋大学文学研究科考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集考古学抜粹 第24集	
	(株)バスコ	特別史跡 名古屋城跡 本丸御殿跡発掘調査報告書 第1・2・3・4次調査	
三重県	三重県埋蔵文化財センター	西野田遺跡発掘調査報告 (第1・2・3次調査) 研究紀要 第18・1号 研究紀要 第18・2号 研究紀要 第18・3号 研究紀要 第18・4号 研究紀要 第18・5号	丁長遺跡 (第1次)・大谷遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告 一般国道23号中勢道路 (13工区) 建設事業にともなう舞出北遺跡発掘調査報告 長谷町遺跡、斎宮池遺跡、真木遺跡・与五郎谷遺跡発掘調査報告 小金・高塚、斎宮池古墳群発掘調査報告 一般国道1号関バイパス建設事業に伴う小野城跡発掘調査報告 - 第4・5・6次調査 - 一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査報告21
	志摩町教育委員会	市の町遺跡発掘調査概要	
	津市埋蔵文化財センター	津市文化財年報3 - 平成19年度 - 今德城跡 (第2次) 発掘調査報告 津市埋蔵文化財報告書13 多倉田遺跡 (第3次) 発掘調査報告	まいぶん津 第5号 史跡多気北畠氏館跡保存管理計画 龟井遺跡 (第2・3次) 発掘調査報告 稻葉古墳群・鎌切古墳群発掘調査報告
	松阪市文化財センター	西野田遺跡 (第4次) 発掘調査報告書	天神遺跡
京都府	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報 第108号	京都府埋蔵文化財情報 第109号
	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第49集	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第50集 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第51集
	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	国宝修理装潢師連盟50周年	
	京都大学大学院文学研究科	京都大学所蔵古瓦図録Ⅲ	
	京都橘大学文学部文化財学科	京都橘大学 文化財調査報告2008	
	城陽市教育委員会	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第55集	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第56集 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第57集
	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館報 第12号	
	花園大学考古学研究室	花園大学考古学研究室	
大阪府	(財)大阪市文化財協会	長原遺跡東部地区発掘調査報告XIII 瓜破遺跡発掘調査報告書 瓜破北遺跡発掘調査報告書V 瓜破遺跡発掘調査報告書IV 長原遺跡発掘調査報告書XIV 遠里小野遺跡発掘調査報告II 刈田9丁目所在遺跡発掘調査報告 大阪城跡X I	大阪歴史博物館研究紀要 第3号 大阪歴史博物館研究紀要 第4号 大阪歴史博物館研究紀要 第5号 大阪歴史博物館研究紀要 第6号 大阪歴史博物館研究紀要 第7号 大阪市南部遺跡群発掘調査報告 瓦屋町遺跡発掘調査報告 殿江遺跡発掘調査報告 難波宮址の研究 第16号
	大阪大学大学院文学研究科考古学研究室	長尾山古墳第2次・第3次発掘調査概報	
	貝塚市教育委員会	貝塚市の指定文化財2 - 平成18年度指定の考古資料編 - 貝塚市遺跡群発掘調査報告書31 平成18年度企画図録写真展 貝塚市のいま、むかし 平成18年度企画図録はっかさんの平成大修理Ⅱ	平成19年度企画図録絵像に見る願泉寺ト家の歴代 平成19年度企画図録米穀肥料商廣海家と泉南地域 平成19年度企画図録貝塚市内の近代建築 平成20年度企画図録貝塚市内の民俗芸能
	能取市教育委員会	熊取町遺跡群 発掘調査概要報告書・XXIII	
	堺市長公室文化部	埋蔵文化財調査報告書 第123冊 埋蔵文化財調査報告書 第124冊 埋蔵文化財調査報告書 第125冊	埋蔵文化財調査報告書 第126冊 埋蔵文化財調査報告書 第127冊 埋蔵文化財調査報告書 第128冊 埋蔵文化財調査報告書 第129冊
	高槻市教育委員会	史跡 關鶴山古墳	
	阪南市教育委員会	阪南市埋蔵文化財報告43	阪南市埋蔵文化財報告44 阪南市埋蔵文化財報告45

八尾市教育委員会 八尾市文化財紀要14 高安千塚シンポジウム記録集	八尾の文化財V 稲田家を語るものたち 八尾の文化財VI 安中新田会所跡旧稻田家住宅
兵庫県 芦屋市教育委員会 金津山古墳 月若遺跡発掘調査報告書 第96地点	平成14年度 国庫補助事業 - 震災復興に伴う埋蔵文化財発掘調査とその成果 - 平成19年度 国庫補助事業 (寺田遺跡第191地点・山戸屋遺跡S14地点) 三条岡山遺跡発掘調査報告書 (第19地点)
尼崎市教育委員会 尼崎市埋蔵文化財調査年報 - 平成15年度 - 東園田遺跡第29次発掘調査概要 -	平成19年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡 発掘調査等 概要報告書 尼崎市埋蔵文化財遺跡分布地図及び手引き
伊丹市教育委員会 伊丹市埋蔵文化財調査報告書 2009.3	
大手前大学史学研究所 南所3号墳	大手前大学史学研究所紀要 第7号 歴史文化遺産研究 第2号
加東市教育委員会 文化財年報 -2006年度- CD版	加東市内遺跡試掘確認調査概要 - 2007年度 -
神戸市教育委員会 平成18年度 神戸市埋蔵文化財年報 日輪寺遺跡 第10・11・12次発掘調査報告書 本山中野遺跡 第三次発掘調査報告書 上沢遺跡 第55次調査発掘調査報告書	長田社境内遺跡第17次発掘調査報告書 西岡本遺跡 第4・5・6次発掘調査報告書 水笠遺跡 第26・27・28・29次発掘調査報告書 名勝再度公園・再度山永久植生保存地・神戸外国人墓地保存管理計画策定報告書
奈良県 (財)元興寺文化財研究所 創立と文化財保存会援助事業による金剛寺の版本 平城京左京四条三坊三坪発掘調査報告書 平城京左京二条三・四・六坊三坪及び奈良町遺跡発掘調査報告書	平城京右京一条三坊一坪 元興寺文化財研究所研究報告 2008 元興寺文化財研究所研究 No.90 2007.4
(財)桜井市文化財協会 桜井市内埋蔵文化財 2004年度発掘調査報告書1	桜井市内埋蔵文化財 2007年度発掘調査報告書1 桜井市内埋蔵文化財 2008年度発掘調査報告書1
(財)由良大和古代文化研究協会 研究紀要 第14集	
飛鳥資料館 図録キトヲ古墳壁画4神 - 青龍白虎 -	北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見
王寺町教育委員会 達磨寺文書調査報告書	門前・達磨寺文書調査報告書 船戸・西岡遺跡第5次・片岡王寺跡第8次・第9次
桜井市教育委員会 女王車跡呼の国を探るⅢ	
桜井市文化財協会 平成20年度発掘調査速報展 50cm下の桜井	
桜井市立埋蔵文化財センター 纏向遺跡発掘調査報告書2	桜井市 平成19年度国庫補助による発掘調査報告書 桜井の小古墳 古墳時代後期に造られた小さな古墳たち -
田原本町教育委員会 下名倉遺跡 第5次 草野遺跡 3次	天野遺跡 3次・4次 下町・坊城遺跡 第13次 唐古・鍵遺跡 1
天理市教育委員会 天理市文化財調査年報 平成19年度	天理市埋蔵文化財調査概報 平成15・16年度
天理大学文学部歴史文化学科考古学・民俗学研究室 古事	
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 遺跡情報交換標準の研究	
奈良大学文学部文化財学科 文化財学報 第27集	
和歌山県 (財)和歌山市都市整備公社 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 平成18年度	
和歌山市教育委員会 和歌山市内遺跡発掘調査概要報告書 - 平成19年度 -	
有田川町教育委員会 平成20年度 有田川町埋蔵文化財調査年報	
岩出市教育委員会 平成18年度岩出市内遺跡発掘調査概報 - 根来寺遺跡の調査 -	平成20年度岩出市内遺跡発掘調査概報 - 根来寺遺跡の調査 -
打田町教育委員会 打田町の指定文化財	
鳥取県 鳥取県教育委員会 妻木・晚田遺跡発掘調査研究年報2008	
島根県 島根県教育厅埋蔵文化財調査センター 西川津遺跡 石見路の言伝 なきすな街道3 島根県教育厅埋蔵文化財調査センター年報17 史跡山代郷北新造跡跡整備事業報告書 五丁遺跡・庵寺遺跡 I・於才遺跡 尾崎遺跡 一般県道矢尾今市線道路交付金事業 (大塚工区) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1	島根原子力線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2 史跡出雲国府跡 長畑ヶ遺跡・下熊谷上遺跡・清水ヶ平遺跡・六重下遺跡・長者畑遺跡 六重城南遺跡 瀧坂遺跡 鉄穴内遺跡 大志戸 II 鉢跡 大呂奥遺跡・下大呂遺跡・川尻鉢跡・新屋敷 I 遺跡・新屋敷 II 遺跡 山持遺跡 vol.5 (6区) 国道431号道路改良事業 (東林木バイパス) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7 御崎谷遺跡・間谷東古墳・浅柄北古墳・間谷西II 遺跡・間谷西古墳群
島根県古代文化センター 古代文化研究	山陰古代出土文字資料集成 I (出雲・石見・宍戸編)
島根県立古代出雲歴史博物館 どくさい 出雲と相模	出雲誕生と奈良の都
(財)松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課年報 X I 埋蔵文化財課年報 X II	岩汐窓跡発掘調査報告書 春日山古墳群・寺ノ脇遺跡発掘調査報告書
松江市教育委員会 高田尾横穴墓発掘調査報告書 史跡出雲玉作跡宮ノ上地区発掘調査報告書	柳味四反地遺跡 -12次・13次調査- 史跡久米官衙遺跡群調査報告書3
出雲市教育委員会 築山遺跡Ⅲ 築山遺跡Ⅳ	平成20年度 出雲市文化財調査報告書 神門寺付近遺跡 I
津和野町教育委員会 烟ヶ迫遺跡発掘調査報告書	
浜田市教育委員会 島根県浜田市遺跡地図 I (浜田自治区)・仕切遺跡	唐谷坂道
岡山県 岡山県教育委員会 岡山県埋蔵文化財報告39	
岡山県古代吉備文化財センター 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告218 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告219 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告220	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告221 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告222 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告223
岡山市埋蔵文化財センター 岡山市埋蔵文化財センター年報8 (平成19年度) 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要 第1号	南坂古墳群 津寺 (加茂小・体育館) 遺跡 新庄尾上遺跡
倉敷埋蔵文化財センター 岩倉遺跡	

広島県	〔附〕広島県教育事業団 金井原遺跡	権現第1～3号古墳中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財調査報告(00)
	広島大学大学院文学研究科考古学研究室 瀬戸内・中国山地・日本海地帯のサヌカイトと隠岐産黒曜石利用からみた先史物流の形成	広島大学大学院文学研究科帝釈峠遺跡群発掘調査室年報XXIII
	〔附〕東広島市教育文化振興事業団文化財センター 浦13号遺跡発掘調査報告書 安芸国分寺周辺遺跡発掘調査報告書 戸ノ原遺跡発掘調査報告書 外宮山城跡発掘調査報告書 堀城跡発掘調査報告書	杵原2号遺跡発掘調査報告書 郷1号遺跡発掘調査報告書 西中郷遺跡発掘調査報告書 黄幡第4号古墓発掘調査報告書 竹内屋敷跡発掘調査報告書
	福山市教育委員会 福山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ - 2007年度(平成19年度) -	合ノ坪西遺跡 国指定史跡二子塚古墳
府中市教育委員会	府中市内遺跡10 府中市内遺跡11	府中市内遺跡12 府中市内遺跡13 先人たちの足跡 - 遺跡から見た府中 -
山口県	山口県教育庁 山崎古墳	
	山口県埋蔵文化財センター 三見はうろく窯跡・はうろく茶屋跡 長谷遺跡	東禅寺・黒山遺跡(岡上ノ原・後子庵地区) 上り熊遺跡Ⅱ 陶垣
	下関市立考古学博物館 研究紀要 第13号	年報 第14号
	長登銅山文化交流館 古代銅製鍊復元実験報告書	銅屋遺跡
	土井ヶ浜・人類学ミュージアム 土居ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要	
	山口大学埋蔵文化財資料館 山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成18年度 -	
	防府市教育委員会 平成18年度 防府市内遺跡発掘調査概要	平成19年度 防府市内遺跡発掘調査概要
徳島県	徳島市教育委員会 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要19	
	徳島大学埋蔵文化財調査室 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査 年報1	
香川県	高松市教育委員会 高松城史料調査報告書 史跡高松城整備報告書 第4冊 藤尾城跡 作山城跡 附柿木荒神 奥の辻遺跡群Ⅳ 高松市指定史跡石ヶ鼻古墳 御厨天神社古墳	高松市指定史跡片山池窯跡群 確認調査報告書 高松市内遺跡発掘調査概報 平成20年度国庫補助事業 高松城跡(江戸長屋跡Ⅱ) 太田下・須田遺跡
	〔附〕愛媛県埋蔵文化財調査センター 一本松遺跡 石手村前遺跡 池の内遺跡2次調査 上郷遺跡	袖田池遺跡2次・3次 国分老町地遺跡 国分向遺跡1次・2次 此花町遺跡 愛比完 - 平成20年度年報 -
	〔附〕松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター 素麿小学校構内遺跡 拓南中学校構内遺跡 中村長正寺遺跡 小坂七ノ坪遺跡 久米高畠遺跡 1・7次調査 古川遺跡4次調査	東本遺跡 - 11次・12次調査 - 椿味四反地遺跡15次調査 椿味高木遺跡14次調査 松山市埋蔵文化財調査年報21 平成20年度
	今治市教育委員会 高地栗谷Ⅰ・Ⅱ遺跡 高橋板敷Ⅰ・Ⅱ遺跡 高橋山岸山古墳(高橋寺岡Ⅰ遺跡 高橋寺岡Ⅰ号墳 高橋山岸1号墳・2号墳)	市内遺跡試掘確認調査XXVII 市内遺跡試掘確認調査XXVIII 松木広田遺跡 - 第2次調査 - 喜田八反地遺跡 延喜1号遺跡 有津番田遺跡 郷桜井堀遺跡 - 第4次調査 - 史跡 能島城跡 - 平成19年度 郡I・南部平坦地調査報告書 -
	愛媛大学 埋蔵文化財調査室 文京遺跡VI - 文京遺跡25次調査 -	
	鬼北町教育委員会 平成20年度 鬼北町内遺跡発掘調査概要報告書	
	西条市教育委員会 史跡 永納山城跡I - 水門・城門・内部施設等確認調査報告書 -	
	西予市教育委員会 坪栗遺跡 - 株式会社エアリ農産加工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 -	水長遺跡(鶴刺地区) 永長遺跡(小田橋地区)
	東温市立歴史民俗資料館 北吉井鍛口遺跡・向井古墳	
	松野町教育委員会 国指定史跡 河後森城跡環境整備事業概要報告書VII	
	松山市教育委員会 桑原高井遺跡3次調査・東本遺跡8次調査・東野お茶台遺跡8次調査 椿味四反地遺跡 - 17次18次調査 -	タンチ山(双子塚)古墳 桑原高井遺跡3次調査・東本遺跡8次調査・東野お茶台遺跡8次調査
高知県	高知市教育委員会 高知城跡 - 西堀地区試掘確認調査報告書	
	高知大学人文学部考古学研究室 朝倉古墳発掘調査概要報告書	高知県後期古墳資料集I
福岡県	福岡市教育委員会 鴻臚館跡18 荒平古墳群1 有田: 小田部46 大塚遺跡3 飯氏遺跡5 井相田C7 板付9 五十川遺跡6 坂堀遺跡 田村15 市道戸切通線工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 那珂52 那珂53 那珂54 那珂55 仲島遺跡 博多126 博多127 博多128 博多129 博多130 博多131	博多132 博多133 箱崎36 箱崎37 箱崎38 比恵55 比恵56 東比恵3丁目遺跡2 藤崎遺跡18 女原遺跡4 麦野A遺跡5 麦野A遺跡6 麦野A遺跡7 麦野C遺跡6 姫浜3 免遺跡2 諸岡B遺跡3 吉武遺跡群22 老司瓦窯跡 元岡・桑原遺跡群14 元岡・桑原遺跡群15 福岡市埋蔵文化財年報 VOL.22
	北九州市教育委員会 長行遺跡 第2地点 高野遺跡 第2地点	鍛冶町遺跡 第2地点 広寿山福聚寺境内遺跡
	北九州市立自然史・歴史博物館 北九州市立自然史・博物館	

<b>附 北九州市芸術文化振興財団</b>		
研究紀要 第23号 埋蔵文化財調査室年報25 - 平成19年度 - 蒲生大畔遺跡3・蒲生紫池遺跡 蒲生大畔遺跡4 蒲生寺中遺跡3 大門遺跡 第4地点 (2区・3区) カキ遺跡 第4地点 黒崎城跡9 (23区) 黒崎城跡10 (21・22・25区) 朽網馬場遺跡		長浜遺跡 第2地点2 貫・裏ノ谷遺跡1 伊賀遺跡 第2地点 下野沢遺跡 伊賀遺跡2区・3区・6区 長野尾登遺跡 第1地点 小倉城三ノ丸跡 第6地点 山崎遺跡 高野遺跡 第3地点 中村遺跡2 (第2地点)
<b>赤村教育委員会</b> 本河内遺跡群 Ⅲ		
<b>朝倉市教育委員会</b> 朝倉市文化財調査報告書 第5集 八並遺跡・井出野遺跡 朝倉市文化財調査報告書 第6集 隠家森保存整備報告書		朝倉市文化財調査報告書 第7集 山ノ下遺跡 甘木歴史資料館資料目録3 古書・文書編 I 甘木歴史資料館報 第2集
<b>飯塚市教育委員会</b> ヒイ田遺跡		
<b>糸島市教育委員会</b> 伊都国歴史博物館紀要 第3号 国宝 福岡県平原方形周溝墓出土品図録 多久遺跡群 泊桂木遺跡 II 泊リュウサキ遺跡		萩浦 平成21年度 秋季企画展図録 脊振山の南と北で 伊都国歴史博物館年報 平成18年度 伊都国歴史博物館年報 平成19年度 末永数蔵町遺跡 末永数蔵町遺跡 II
<b>うきは市教育委員会</b> 福永高木遺跡		三晴大碇遺跡 千年今丸遺跡
<b>大野城市教育委員会</b> 村下遺跡 I 牛頭後田窯跡群 II		乙金地区遺跡群 I 大野城市的養蚕
<b>岡垣町教育委員会</b> 高丸・友田遺跡群		
<b>小郡市教育委員会</b> 寺福童遺跡4 三沢寺小路遺跡3・5 福童町遺跡3・5 大坂井遺跡22 大坂井遺跡23		三沢南崎遺跡2 三沢南崎遺跡3 井上南内原遺跡3 横隈外浦遺跡 松崎六本松遺跡2 大崎後原遺跡
<b>柏原町教育委員会</b> 江辺遺跡 第8地点		
<b>苅田町教育委員会</b> 京町遺跡 I 地区		苅田町歴史資料館秋の特別展図録厚葬の時代 I
<b>九州国立博物館</b> 阿修羅のこころにふれる旅 東風西声 京都 妙心寺 - 禅の至宝と九州・琉球 巨大掛軸をめぐる文化交流 祈りと暮らしかたち		興福寺創建1300年記念国宝阿修羅展 古代九州の国宝 新取品_05・08パンフレット 聖地チベット - ポタラ宮と天空の至宝 -
<b>九州大学総合研究博物館</b> 九州大学総合研究博物館研究報告 第7号		九州大学総合研究博物館年報 第3号 昆蟲のヒミツ
<b>九州大学大学院人文学部研究院考古学研究室</b> 壱岐カラカミ遺跡 II - カラカミ遺跡東亞考古学会第1地点の発掘調査 -		
<b>久留米市教育委員会</b> 正福寺遺跡 - 第1次調査 - (遺構編) 鐵砲小路遺跡 - 第2次調査 - 筑後国府跡 - 第225次調査 - 西堀遺跡 日渡遺跡 - 第6次調査 - 京陽寺屋敷遺跡 - 第12次調査 - 久留米市埋蔵文化財調査集報X I		力常遺跡 - 第1・2次調査 - 二本木遺跡群VI 平成20年度 久留米市内遺跡群 筑後国府跡 平成20年度発掘調査報告・概要報告 筑後国府跡 (2) 筑後国三瀬郡衙跡V 竹野小学校遺跡 久留米市文化財保護課年報vol.5 平成19年度版
<b>志免町教育委員会</b> 五郎丸古墳群12号墳		志免鉱業所遺跡 II
<b>添田町教育委員会</b> 中元寺遺跡群 I		
<b>大刀洗町教育委員会</b> 大刀洗町内遺跡 平成20年度事業		本郷野間遺跡 V・VI
<b>大宰府市教育委員会</b> 大宰府市の文化財 第97集 大宰府市の文化財 第101集 大宰府市の文化財 第103集 大宰府市の文化財 第104集		大宰府市の文化財 第105集 大宰府市の文化財 第106集 大宰府市の文化財 第107集 大宰府市の文化財 第108集 大宰府市の文化財 第109集
<b>筑前町教育委員会</b> 琴ノ宮遺跡 (上・中・下巻)		焼ノ峠古墳
<b>筑紫野市教育委員会</b> 峰畠遺跡 第5次調査		大宰府条坊跡 第150次発掘調査 大宰府条坊跡 第185次発掘調査
<b>那珂川町教育委員会</b> 觀音山古墳群 Ⅲ		うめほし山古墳 大塚遺跡群
<b>福岡大学人文学部考古学研究室</b> 七隈史学 第9号 長者隈古墳・若杉窯跡		日韓集落研究会 第5回共同研究会 日韓集落の研究
<b>豊前市教育委員会</b> 史跡 求菩提山 求菩提山護国寺		久路土六田遺跡・薬師寺塚原遺跡
<b>宮若市教育委員会</b> 高平C古墳群		
<b>宗像市教育委員会</b> むなかたの文化財 - 平成18年度文化財保護事業 -		宗像市教育委員会陵巖寺馬場笠
<b>行橋市歴史資料館</b> 平成21年度特別展 明治の元勲を感動させた男 守田義洲		
<b>香春町教育委員会</b> 香春岳 香春岳の総合調査		
<b>上毛町教育委員会</b> 上毛町文化財調査報告書 第9集		上毛町文化財調査報告書 第10集
<b>佐賀県</b>	<b>佐賀県教育庁文化課</b> 中原遺跡Ⅲ 西畠瀬遺跡2・大串遺跡	佐賀県内遺跡確認調査報告書27 佐賀県文化財年報13 2006年度
	<b>佐賀市文化財資料館</b> 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 - 2006年度 - 西中野遺跡IV - 43・44区の調査 - 西中野遺跡V - 4・5・9・10区の調査 - 西中野遺跡VI - 18 ~ 24・50区の調査 - 藤木三本杉遺跡III - 1・6・7区の調査 - 藤木四本遺跡II - 4 ~ 7・12区の調査 -	西瀬遺跡 II - 1区の調査 - 屋敷遺跡 II - 4 ~ 7・11区の調査 - 元小路遺跡 - 1 - 4区の調査 - 北畠遺跡 - 10区の調査 - 屋形遺跡 - 2区の調査 - 徳永遺跡群X V III 徳永遺跡26区 徳永遺跡群X IV 徳永遺跡26区
	<b>伊万里市教育委員会</b> 日峯社下窯跡	宮ノ前北遺跡D地点 伊万里市文化財報告書 第52集

神埼市教育委員会	西田遺跡	熊谷遺跡・西田遺跡
唐津市教育委員会	久里双木古墳 市内遺跡確認調査 (2)	桜馬場遺跡 宇喜多秀家陣跡 呼子の大綱引き民俗文化財調査報告書
神埼市教育委員会	市内遺跡確認調査概要報告書 I	
吉野ヶ里町教育委員会	平成13年から平成17年度 下中枕遺跡及び町内遺跡確認調査報告	町内遺跡確認調査報告書 I (平成元年～18年度)
長崎県	長崎県教育庁	一般国道497号佐々佐世保道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II 門前遺跡 一般国道497号佐々佐世保道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 VI 門前遺跡
	長崎市文化観光部	興善町遺跡 -長崎消防局-
	壱岐市教育委員会	特別史跡 原の辻遺跡
	雲仙市教育委員会	龍王遺跡 龍王遺跡の発掘調査 龍王遺跡 龍王遺跡 II・真正寺条里跡
	大村市教育委員会	富の原遺跡市道富の原3号線道路改良工事に伴う発掘調査報告書
	佐世保市教育委員会	福井洞窟範囲確認調査報告書 (2)
	平戸市教育委員会	八尾市内遺跡 平成20年度発掘調査報告書 やおの古代
	諫早市教育委員会	上野町遺跡 1127・1159地点
熊本県	熊本県教育委員会	祭田下遺跡 隈部土ノ外遺跡 飛田横穴群
	熊本市教育委員会	熊本大江町 白川中学校校庭遺跡 熊本洋学校教師館 (ジーンズ館) 移築復元工事報告書 熊本城跡二の丸御門虎口環境整備工事報告書 熊本城不開門坂道復元工事報告書 熊本城西出丸発掘調査概報 熊本城内人生儀礼調査報告書 山王遺跡 -山王遺跡第1次調査区発掘調査報告書- 熊本城埋蔵文化財調査年報 第10号 -平成18年度- 熊本城埋蔵文化財調査年報 第11号 -平成19年度- 熊本城埋蔵文化財発掘調査報告集 -平成19年度- 熊本城埋蔵文化財発掘調査報告集 -平成20年度- 八ノ坪遺跡IV 池辺寺跡 X I -平成19年度発掘調査報告書- 川尻船着場跡文化財調査報告書 神水遺跡 X -第41次発掘調査報告書-
	天草市教育委員会	大江遺跡群 VI -第97次・第106次調査区発掘調査報告書- 大江遺跡群Ⅶ -大江遺跡群第105次調査区発掘調査報告書- 大江遺跡群Ⅸ -大江遺跡群第112次調査区発掘調査報告書- 二本木遺跡群IV -二本木遺跡第27次調査区発掘調査報告書- 二本木遺跡群V -二本木遺跡群第28次調査区 (A～I・K・L・P地点) 発掘調査報告書- 二本木遺跡群VI -二本木遺跡群第30次調査区発掘調査報告書- 二本木遺跡群VII -二本木遺跡群第31次調査区 (II区) 発掘調査報告書- 二本木遺跡群VIII -二本木遺跡群第28次調査区 (A～D・J・M～O・Q・T地点) 第32次調査区 (A・C・F・H～J・L・N・P・Q・T地点) 発掘調査報告書- 二本木遺跡群IX -二本木遺跡群第34次調査区発掘調査報告書- 二本木遺跡群X -二本木遺跡群第39次調査区発掘調査報告書- 二本木遺跡群XIII -二本木遺跡群第43次調査区発掘調査報告書- 智照院細川家墓所 -花園山・万日山遺跡群第1次調査区発掘調査報告書- 戸坂遺跡II -戸坂遺跡第3次-
	植木町教育委員会	棚原城跡 III・大権寺遺跡
	菊池市教育委員会	柏原遺跡・鬼迫横穴群
	熊本大学文学部考古学研究室	平町遺跡 第1次調査・第2次調査
	熊本大学埋蔵文化財調査室	藤巻遺跡 第1次調査・第2次調査
	熊本大学埋蔵文化財調査室	熊本大学構内遺跡発掘調査報告書V (1998～2007年度)
	玉名市教育委員会	玉名市内遺跡調査報告書V 平成19年度の調査
	八代市教育委員会	八代海沿岸地域における古墳時代在地墓の発達過程に関する基礎的研究
	八代市立博物館未来の森 ミュージアム	玉名市内遺跡調査報告書VI 平成20年度の調査
	山鹿市教育委員会	国指定名勝 水島 -応急保存処理工事報告書- 上日置女夫木遺跡
	歴史公園鞠智城跡・温故創生館	隈部館跡V 方保田東原遺跡11
大分県	大分県教育委員会	放生会道 峯入りの道
	大分県教育庁埋蔵文化財センター	井ノ上遺跡 西南戦争戦跡分布調査報告書 茶屋久保B遺跡 大分県の幕末・近代戦跡概要報告書 大分県内遺跡発掘調査概報12 大分県埋蔵文化財年報17 (平成19年のまとめ) 小林遺跡・上田遺跡群・馬場遺跡
	大分県先哲史料館	史料館研究紀要 14号
	大分県立歴史博物館	大分県立歴史博物館年報2008 大分県立歴史博物館研究紀要10 平成21年度特別展図録おおいた発! 幕末文化維新 -賀来家・華麗なる一族-
	宇佐市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報17 妙楽寺経塚
	杵築市教育委員会	東光寺経塚発掘調査報告書 I
	国東市歴史体験学習館	国東市歴史体験学習館年報
	坂ノ市地区郷土史愛好会	平成20年度 国東市歴史体験学習館年報
	竹田市教育委員会	市内遺跡発掘調査II 市内遺跡 (A地点・B地点) -長田尾遺跡・北尾鶴遺跡
	史跡岡城跡 X VI	
	中津市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報2
	西寒多神社	豊後一ノ宮 西寒多神社御遷座六百年史

野津原町教育委員会 野津原物語 -野津原町・町制施工40周年記念誌-	文化財のしおり
日田市教育委員会 大分県指定有形文化財 草野家住宅新座敷（床の間・湯殿及び便所）保存修理工事報告書	大分県指定有形文化財 草野家住宅調査報告書
別府市教育庁 鬼ノ岩屋古墳 春木芳元遺跡 南石垣遺跡 野田遺跡	別府市の文化財と保護樹
<b>宮崎県 宮崎県埋蔵文化財センター</b> 宮崎第2遺跡 第187集 宮崎第2遺跡 第188集 海舞寺遺跡 市之串遺跡 中野内遺跡 森ノ上遺跡（弥生・古墳時代編）カラ石の元遺跡 第189集	前ノ田村遺跡 第190集 粉木地下式横穴墓群 第191集 次郎左衛門遺跡 第192集 鶴戸ノ前遺跡 第193集
<b>宮崎市教育委員会</b> 下北方下郷第4遺跡 宮崎城跡測量調査報告書 片井野第1遺跡 大屋敷遺跡 一般国道10号佐土原バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書（土器田横穴古墳） 佐土原城跡 伊賀給遺跡 尾曲遺跡	町内遺跡 I 町内遺跡 II 町内遺跡 III 町内遺跡 IV 下村熊跡群報告書 下村熊跡群報告書 II 堤下遺跡 小牧遺跡 下ノ山遺跡
<b>えびの市教育委員会</b> 島内地下式横穴墓群Ⅲ・岡元遺跡 下翁遺跡	島内地下式横穴墓群 II 北岡松地区遺跡群
<b>きよたけ歴史館</b> 五反畠遺跡A地区 五反畠遺跡B地区	清武上猪ノ原遺跡第5地区 -3- 下猪ノ原遺跡第1地区 岡第4遺跡
<b>西都市歴史民俗資料館</b> 日向国分寺跡	市内遺跡発掘調査概要報告書14 都於郡城跡発掘調査概要報告書VII
<b>新富町教育委員会</b> 隅ヶ迫横穴墓群・南原ベニガラ工房跡・祇園原地下式横穴5号・比良横穴墓群 平成20年度町内遺跡発掘調査概要報告書 町内遺跡25	平成20年度国指定新田原古墳群史跡整備に伴う発掘調査概要報告書祇園原古墳群12
<b>日南市教育委員会</b> 平成20年度 日南市内遺跡発掘調査概報	
<b>延岡市教育委員会</b> 市内遺跡 上多々良遺跡（第8次）	山田遺跡（第3次） 殿上遺跡
<b>都城市教育委員会</b> 八幡城遺跡 向原第2遺跡（第3次調査） 岩吉田遺跡（第2次調査）	高八重遺跡 市内遺跡2 都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書
<b>鹿児島県 鹿児島県立埋蔵文化財センター</b> 前畑遺跡 陣之尾遺跡 大津保畑遺跡・小園遺跡 上水流遺跡3 下ノ原B遺跡 中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡	西原段 I 遺跡・屋鹿倉遺跡・建山遺跡 市ノ原遺跡（第3地点） 領家西遺跡・天神平溝下遺跡 小中原遺跡・市蘭遺跡 屋鈍遺跡 南摺ヶ浜遺跡 堂原遺跡
<b>鹿児島大学法文学部比較考古学研究室</b> 敷領遺跡中敷領地点の発掘調査	
<b>鹿児島大学埋蔵文化財調査室</b> 鹿児島大学構内遺跡都元町地Q-4区	
<b>鹿児島国際大学国際文化学部博物館</b> 鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告 第7集	
<b>鹿児島市立ふるさと考古歴史館</b> 東昌寺B遺跡	鹿児島市埋蔵文化財確認発掘調査報告書V 大龍遺跡G地点
<b>垂水市教育委員会</b> 西ノ原遺跡 -砂防激甚災害対策特別緊急調査報告-	
<b>南さつま市埋蔵文化財センター</b> 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	
<b>金峰町教育委員会</b> 平畑遺跡石油スタンド造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 鳥追園遺跡 上山野遺跡 鮎受遺跡 弥十山遺跡 針原遺跡 上水流C・D遺跡	平畑B遺跡畑地帯総合整備（狙い手育成型）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 筆付遺跡県営かんがい排水事業（金峰地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
<b>出水市教育委員会</b> 野間の闇所掘跡	坪松遺跡
<b>南種子町教育委員会</b> 種松遺跡ほか6遺跡	
<b>沖縄県 うるま市教育委員会</b> 東恩納美川原遺跡 他	

## 大分市埋蔵文化財調査概要2010 平成21年度版

平成22年12月28日  
編集・発行  
大分市教育委員会文化財課  
大分市荷揚町2番31号  
〒870-0435 (097) 534-6111